FUJIFILM

Easy Sign Making for
Best Solution

取扱説明書



ポスターマジックⅢ

POSTER MAGIC Ⅲ

for Windows 98/Me/2000/XP/Vista(32bit)/7(32bit/64bit)/8(32bit/64bit)

長尺ポスター／横断幕／看板 簡単作成

ソフトウェア ポスタープリンター専用

富士フイルム ビジネスサプライ株式会社

ご注意

ソフトウェア使用約款

富士フイルムビジネスサプライ株式会社（以下、当社）と本製品をご購入いただいたお客様（以下、お客様）は、下記条項のソフトウェア使用約款を締結させていただきます。

1. 当社は本使用約款を了承し、ユーザー登録カードを返送されたお客様にPosterMagicの使用を許諾します。
2. PosterMagic はお客様自身にかぎり使用することができ、お客様以外の第三者が使用することはできません。
3. PosterMagic をバックアップ保有の目的以外で複製することはできません。
4. PosterMagicの内容の全部又は一部を改変することはできません。
5. PosterMagic が購入時に正常に動作しない場合、あるいは梱包内容に不足があった場合には、購入された販売店あるいは当社までご連絡下さい。無償で交換いたします。
6. お客様がPosterMagicを運用された結果生じたデータの破損、その他の破損について当社は責任を負いません。
7. 本約款は、お客様がPosterMagicを受領した日から成立します。
8. 本約款に定めていない事項は著作権法および関連法規に従うものとします。

---

1. 富士フイルムビジネスサプライ株式会社は、この取扱説明書及びPosterMagicの品質、性能、商品価値または特定の使用目的に対する適合性に関して、いかなる保証も行いません。
2. 富士フイルムビジネスサプライ株式会社は、この取扱説明書およびPosterMagicの運用した結果について、一切責任を負いません。
3. この取扱説明書に記載されていない事項、および PosterMagic は、将来予告無しで変更することがあります。

商標の表示

以下に続く商標表示に一部に米国の企業のものがあり、その他の国においては、登録商標、あるいは一般に通用する商標とならない場合がありますので、予めご了承下さい。

Microsoft MSは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
その他の社名、製品名はそれぞれの企業の商標または登録商標です。

目　次

第１部 はじめに

第２部 PosterMagic の使い方

第１章 ウィンドウやツールの操作

第２章 ファイルメニュー

第３部 チュートリアル

第１部　はじめに

ようこそ

このたびは POSTER PRINTER シリーズ用「PosterMagic」をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。本製品を使用することにより、Windows 上で上記の大型プリンタをご利用いただけます。
はじめてパソコンをご使用になられる場合には、パソコンに付属しているマニュアルなどをお読みになって、基本操作や用語をご理解下さい。

システム環境

本製品を使用するために必要なシステム環境を次に示します。
インストールを始める前に確認して下さい。

●ＯＳ　：Windows98/Me/2000/XP(32bit) /Vista(32bit)/7(32bit/64bit)
●ＣＰＵ：Pentium4 1GHz 以上
●メモリ：512MB 以上
●ＨＤＤ：5GB 以上の空き容量
●　スキャナ：TWAIN ドライバ対応品

※Word/Excel 取り込みモードを使用するには、お使いのパソコンに Word/Excel がインストールされていることが必要となります。

本取扱説明書の表記法

◆プルダウンメニューの名称は［ファイル］というように［　］で囲んで表記します。
◆ダイアログボックス内のコマンド実行ボタンの項目は【ＯＫ】というように【　】で囲んで表記します。
◆ダイアログボックス名は『用紙』ダイアログボックスというように『　』で囲んで表記します。

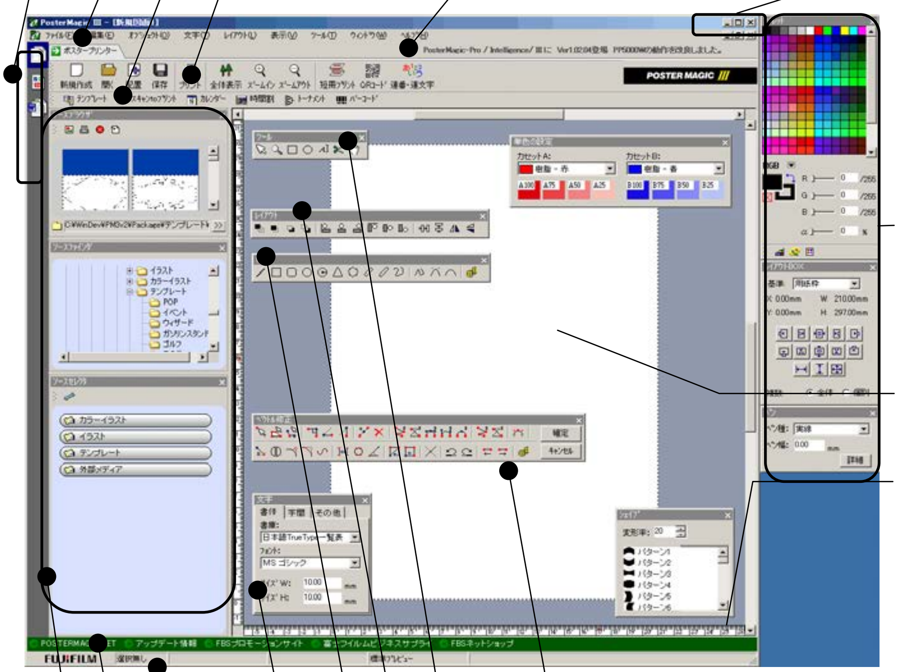
第 2 部

第 1 章
ウィンドウやツールの操作

PosterMagic の作業ウィンドウやツール、パネルについて説明します。
これらの特徴や役割、使い方をマスターすることにより、スムーズに作業が進みますので、しっかりとマスターしてください。

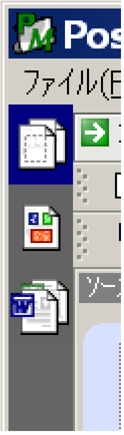
1　画面の説明

- 操作モードタブ：操作モードを切り替えるタブです。
- メニューバー：操作コマンドをグループ別に分類したものです。
- ウイザードバー：問いかけに沿って答えていくだけで図形を作成することができます。
- ツールバー：使用頻度の高いコマンドのアイコンです。
- ニュースバー：最新のニュースがスクロールされます。
- 最小化・最大化・閉じるボタン:
  ウィンドウのサイズを変えたり、閉じたりするボタンです。



- フローティングウィンドウ：塗り・線・配置などオブジェクト編集に関する設定を行います。
- 作業エリア：オブジェクト配置などを行うスペースです。
- スケール：定規を表示します。
- ベクトル修正：パスの修正を行います。
- ツール：オブジェクト選択など、使用頻度の高いコマンドツールです。
- レイアウト：オブジェクトをレイアウトするツールです。
- 作図：四角や丸など図形を作図するツールです。
- 文字：文字入力の設定を行います。
- ステータスバー：選択したオブジェクトの属性などを表示します。
- ネットリンクバー：FAQ などインターネットを通じた新しい情報ページへのリンクです。
- ソースウィンドウ：データソースに関連したウィンドウ群です。

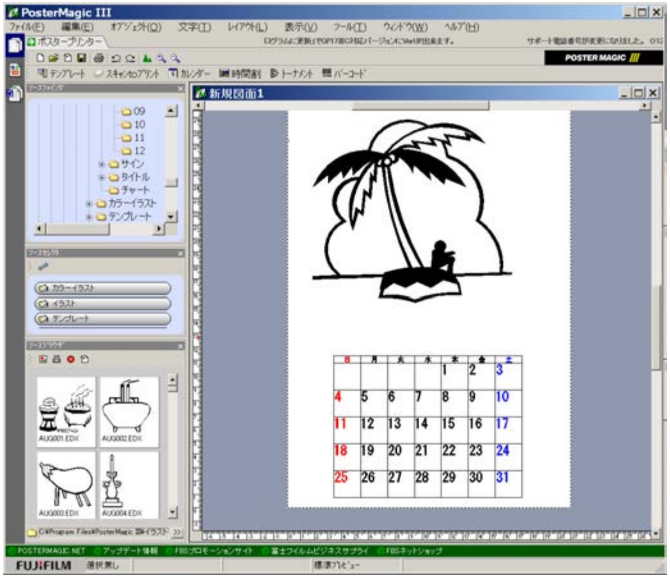
2　３つの操作モードについて



PosterMagic には３つの操作モードがあり、「編集」モード、「画像テンプレート」モード、「取り込み」モードに分かれています。
画面左端にある操作モードタブをクリックすることで切り替わります。

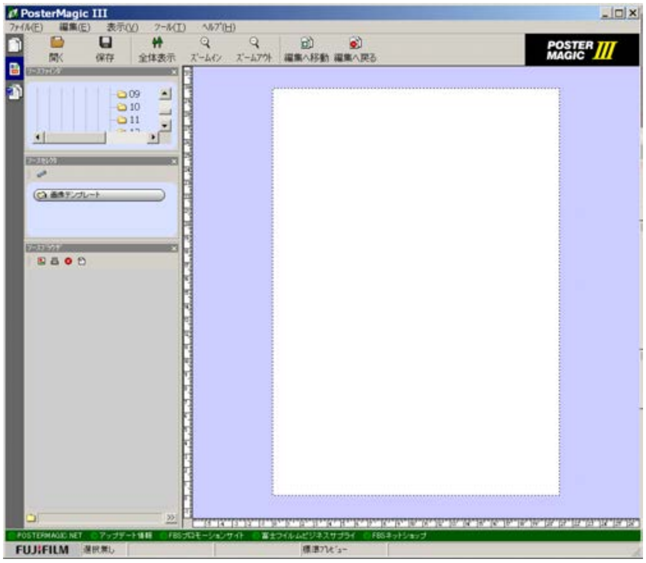
● 編集モード

図面を編集するモードです。



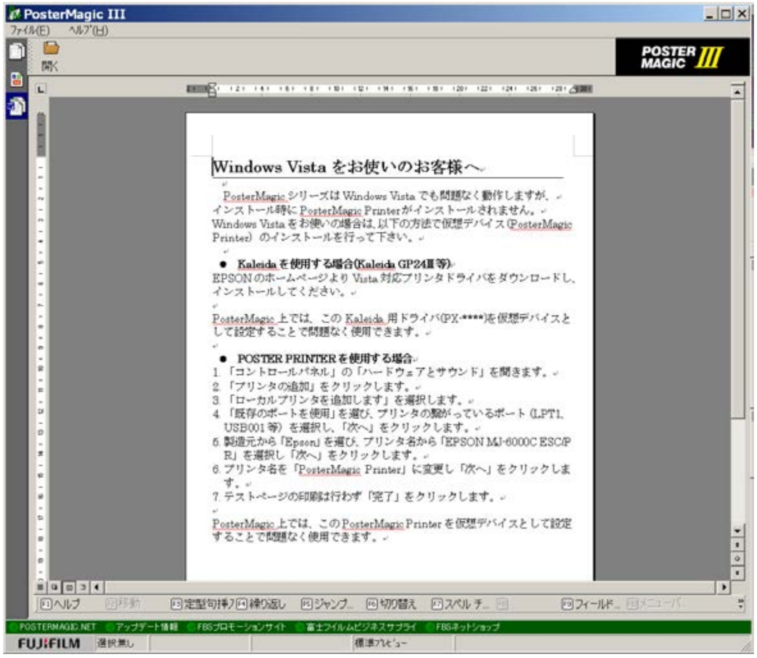
● 画像テンプレートモード

画像テンプレートを編集するモードです。(⇒「第 2−11 章」参照)



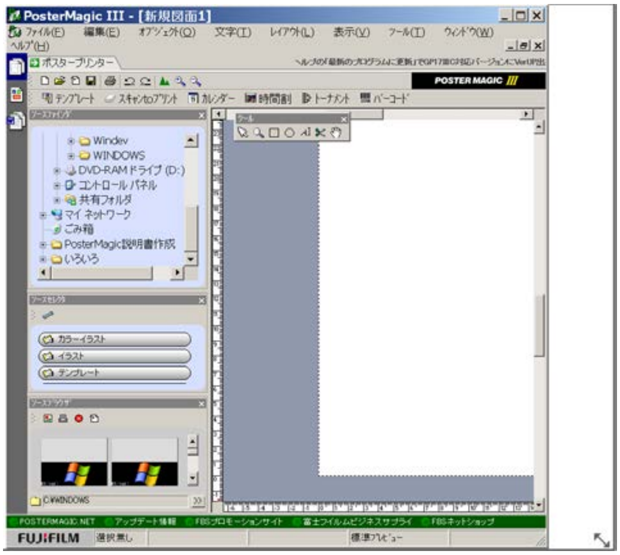
● 取り込みモード

Microsoft Word と Microsoft Excel のデータを取り込むためのモードです。(⇒「第 2－12 章」参照)



3 ウィンドウのサイズを変えるには

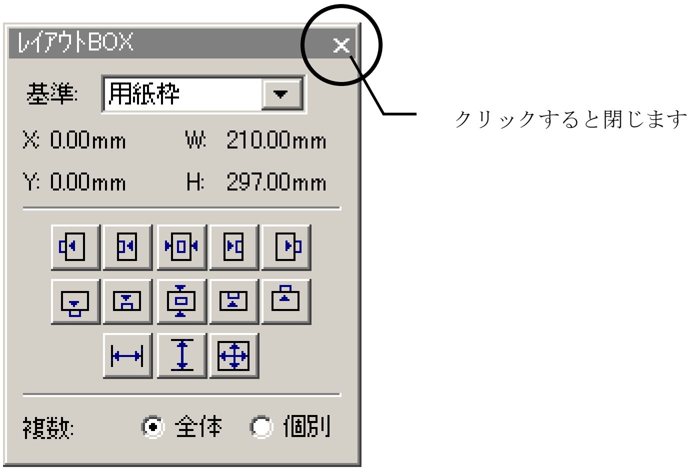
ウィンドウの大きさは自由に変更することができます。ウィンドウ枠の縁にマウスカーソルを合わせ、カーソルが矢印に変わったところでドラッグします。



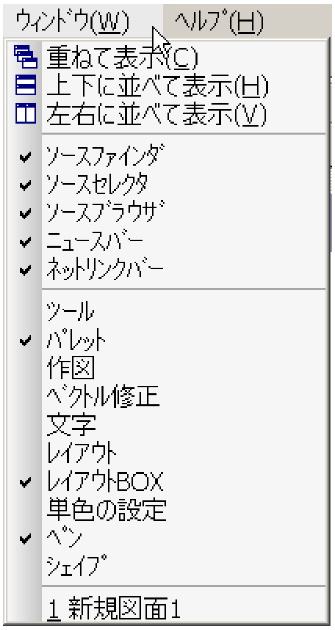
4 フローティングウィンドウについて

■　ウィンドウの表示・非表示を切り替える

ウィンドウを閉じるには、右上の「×」(閉じる)ボタンをクリックします。

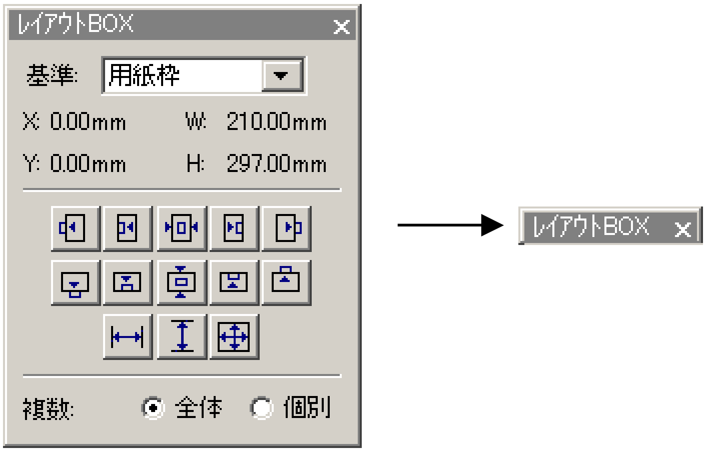


再びウィンドウを表示するには、メニューバーの[ウィンドウ]メニューから開きたいウィンドウを選択します。チェックが入っているとウィンドウが開いています。



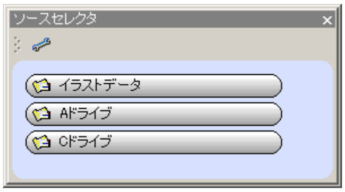
■　ウィンドウのサイズを変える

作業スペースを広く使いたいときなど、フローティングウインドウを最小サイズに変更することができます。
タイトルバーをダブルクリックしてください。



元の大きさに戻すには、タイトルバーをダブルクリックします。
元の大きさに戻るときには、フローティングウィンドウの位置も元に戻ります。

5 ソースセレクタ

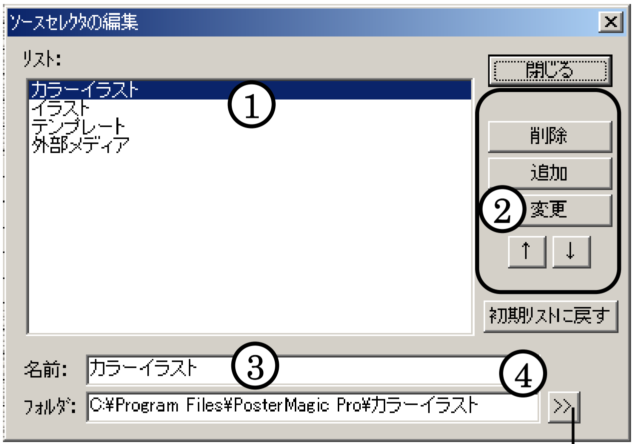


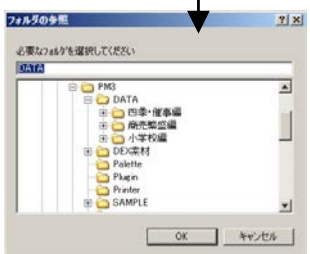
普段よく開くフォルダをソースセレクタに設定しておくと、素早くフォルダを開くことができ、作業効率が高まります。
チェック ON の場合、ソースセレクタが表示されます。

ソースセレクタのボタンをクリックすると、あらかじめ割り付けられているフォルダとその中に保存されている読み込み可能なファイルがソースブラウザに表示されます。

■ソースセレクタにボタンを追加する

ソースセレクタへの登録は、左上のをクリックし、ソースセレクタの編集ウインドウを開きます。





■ソースセレクタへの追加方法

1.②の【追加】ボタンをクリックします。

2.③の名前を分かりやすい名前に変更します。

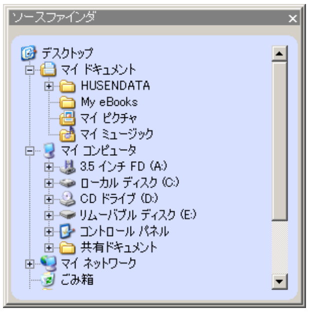
3.④の【＞＞】をクリックし、追加したボタンに割り付けるフォルダを選択します。

4.【変更】ボタンをクリックします。

■ソースセレクタの削除方法
1.①で削除するセレクタを選択します。
2.【削除】ボタンをクリックします。

■ソースセレクタの順序変更
1.①で順序変更するセレクタを選択します。
2.②の上下矢印でソースセレクタの順序を変更します。
3.【変更】ボタンをクリックします。

6 ソースファインダ

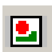


ソースファインダでは、データファイルが保存されているフォルダを選択します。フォルダが選択されるとソースブラウザに読み込み可能なファイルの一覧が表示されます。操作方法は、エクスプローラーとほぼ同じ操作でフォルダを開いたり、ファイルを選択することができます。
⇒「第 2－1 章 7. ソースブラウザ」参照

7 ソースブラウザ



ソースファインダやソースセレクタで選択したフォルダ内のファイルを一覧表示します。
ここで表示されるファイル形式は、jpg・jpeg・bmp・tif・dgx・edx・ai・eps です。

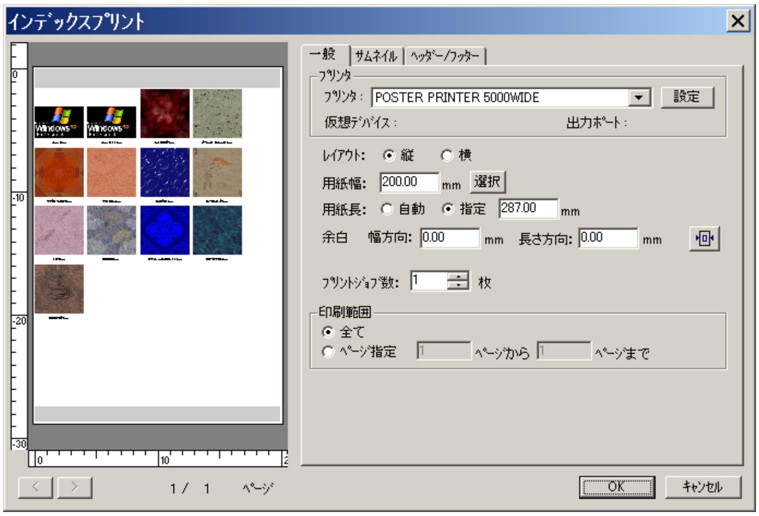


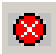
ソースブラウザに一覧表示する画像のサイズを設定します。アイコンをクリックするとメニューが表示されますので、「大きいサイズ」「小さいサイズ」のいずれかを選択してください。





一覧表示している画像のインデックスプリントを実行します。アイコンをクリックするとインデックスプリントウインドウが開きますので設定を行い、印刷実行します。
（詳しい設定は、「第 3－3 章 インデックス一覧プリント」参照）





ソースブラウザに表示させるデータの読み込みを中断します。

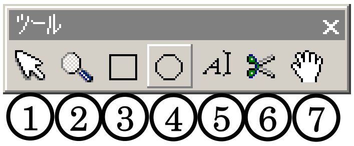


ダブルクリック時の動作を設定します。
「配置」を選択すると、現在開いている図面に配置します。
「開く」を選択すると、新規図面として開きます。



8 ツール

ツールには、オブジェクト編集などで使用頻度の高いコマンドが割り当てられています。ここでは、各アイコンの名称と動作を説明します。



MEMO

オブジェクトを拡大縮小するときに、「Shift」キーを押しながらドラッグすると、形を変えずに拡大縮小することができます。

①選択

文字や図形などのオブジェクトを選択します。オブジェクトを選択すると四角の枠が表示され、枠の端をドラッグするとオブジェクトの拡大縮小ができます。

②範囲拡大

編集中に画面の表示を拡大します。クリックすると、そのクリックした場所を中心点として拡大されます。また、範囲を指定して囲むとその囲んだ部分のみ拡大して表示することができます。

「Alt」キーを押しながらクリックすると、縮小します。

③四角形

四角形を作成します。アイコンをクリックし、始点から対角点をドラッグして図形を作成します。

④楕円

始点から対角点までドラッグし、大きさ・形を調整します。真円を作図する場合、「Shift」キーを押しながらドラッグします。

⑤テキスト

文字を入力します。

⑥切り出し

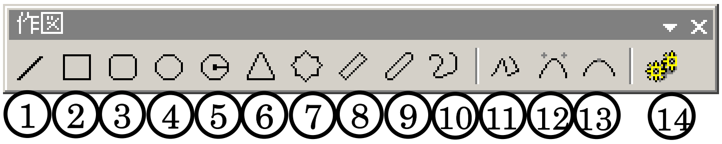
複数のオブジェクトをひとつのオブジェクトとして切り出します。また、ひとつのオブジェクト内の閉図形を切り出すと、その図形だけ独立したオブジェクトになります。

⑦ハンドスクロール

ドラッグすることにより、画面を上下左右自由にスクロールします。

9 作図

図形を作成します。各図形の作成方法は下記の通りです。



①直線

【手順】

1.線分を作成します。

2.始点から終点をドラッグして線分を作成します。

②四角

【手順】

1.四角を作成します。

2.始点から終点をドラッグして四角を作成します。

③カド丸四角形

1.をクリックし、カド丸の割合を 0～100%の範囲で入力します。

2.始点から対角点までドラッグし、大きさ・形を調整します。正方形を作成する場合は「Shift」キーを押しながらドラッグします。

④楕円

1.始点から対角点までドラッグし、大きさ・形を調整します。

⑤円形

1.中心点から外枠までドラッグし、大きさを調整します。

⑥多角形

1.をクリックし、多角形角数を設定します。

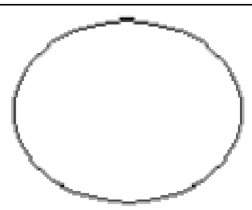
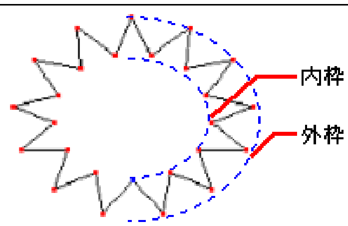
2.中心点から外枠までドラッグし、大きさ・形を調整します。

⑦バクダン

1.をクリックし、バクダンの角の数を設定します。

2.中心点から、バクダンの角の内枠までドラッグします。

3.再度クリックし、外枠までの大きさ・形を調整します。

角の内枠を指定します。	外枠を指定し、バクダンの角を整えます。
	

MEMO

終点までドラッグすると指定した線幅の角棒(丸棒)が作成されます。「Shift」キーを押しながらドラッグすると水平・垂直・45゜で作図できます。

⑧角棒

1. をクリックし、角棒幅を設定します。

2. 始点から終点までドラッグし、大きさ・形を調整します。



⑨丸棒

1. をクリックし、丸棒幅を設定します。
2. 始点から終点までドラッグし、大きさ・形を調整します。



⑩自由曲線

1. フリーハンドで､マウスでドラッグしたとおり自由にラインを描きます。
2. ボタンを離した時点で終了します。

⑪直線－ポリゴン

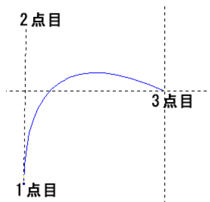
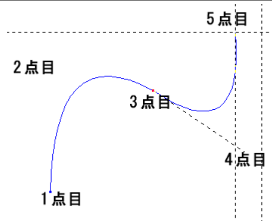
連続直線を作成します。

1. 点を連続してクリックし、作図します。
2. 終点を指定後、ダブルクリックで終了します。
3. 図形を閉じて終了させたい場合は、「Alt」キーを押しながらダブルクリックします。

⑫曲線（ベジェ）－ポリゴン

ベジェ曲線は、曲線の始点となる点と次の点の２点間で形成されます。

1. 終点を指定後、ダブルクリックで終了します。
2. 図形を閉じて終了させたい場合は、「Alt」キーを押しながらダブルクリックします。

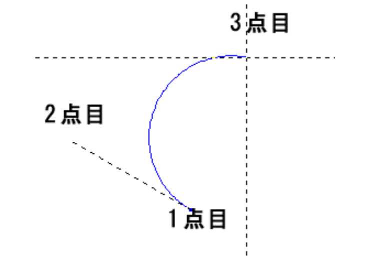
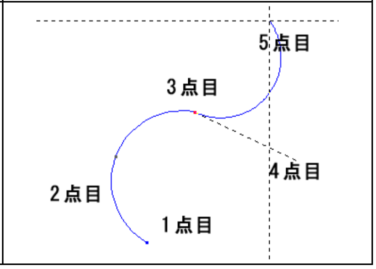
１点目から２点目へドラッグすると方向線が表示されます。 方向線を調整しながら３点目を設定します。	**連続した曲線を作成する場合も同様に、方向線と次の点の２点間で形成されます。**
	

注意

直線と曲線（ベジェ・円弧）は併用することができます。マウスの右ボタンで一つ前の状態に戻ります。

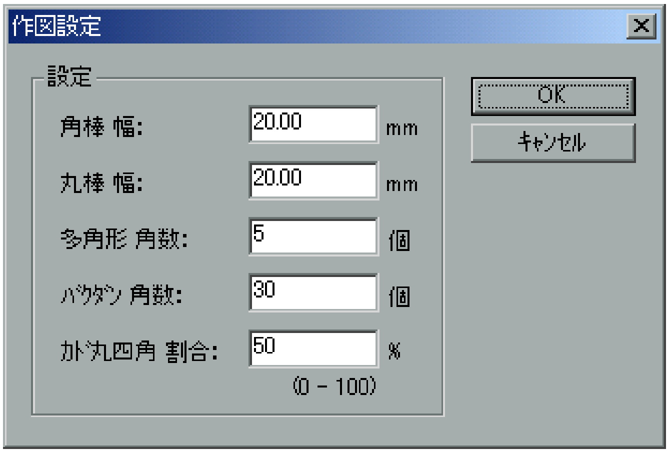
⑬曲線（円弧）－ポリゴン

1. 1 点目から 2 点目へとドラッグして方向線を決定します。
2. 3 点目で円弧の形状を調節します。

１点目２点目で書き出しの方向が決まり３点目で円弧が自動作成されます。任意の円弧ができたらクリックして決定します。	**それ以降も同様の操作で連続した円弧が作成できます。**
	

⑭作図設定

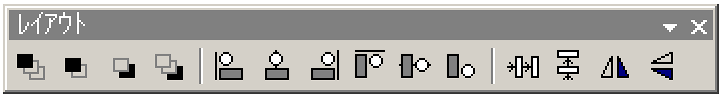
作図ツールのパラメーターを設定します。



角棒　幅	[⑧角棒]の幅を設定します。
丸棒　幅	[⑨丸棒]の幅を設定します。
多角形　角数	多角形の角数を設定します。
バクダン　角数	バクダンの角数を設定します。
カド丸四角　割合	カド丸四角の角の曲線割合を設定します。

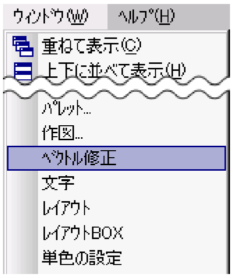
10 レイアウト

整列・並び・反転・上下重ねなど、いろいろなレイアウトを行うときに使用します。



番号	機能	参照
	最前面へ	2−4 章　オブジェクトメニュー　アレンジ
	前面へ	2−4 章　オブジェクトメニュー　アレンジ
	背面へ	2−4 章　オブジェクトメニュー　アレンジ
	最背面へ	2−4 章　オブジェクトメニュー　アレンジ
	左に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	中央に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	右に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	上に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	中央に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	下に整列	2−6 章　レイアウトメニュー　整列
	水平等間隔	2−6 章　レイアウトメニュー　並び
	垂直等間隔	2−6 章　レイアウトメニュー　並び
	左右反転	2−6 章　レイアウトメニュー　反転
	上下反転	2−6 章　レイアウトメニュー　反転

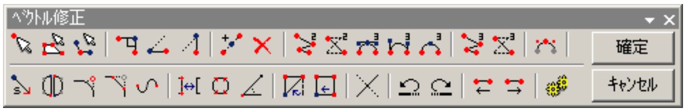
11 ベクトル修正



ベクトルデータの修正をします。
作成した図形、アウトライン化した文字についても同様に修正を加えることができます。

【操作開始方法】
1. ベクトル修正を行うオブジェクトを選択します。
2. ［ベクトル修正］ダイアログボックスを開きます。既に開いている場合は、ダイアログボックスから任意のベクトル修正アイコンを選択します。
3. ベクトル修正の操作を開始します。

【操作終了方法】
1. 加えた修正を有効にして終了する場合は【確定】ボタンをクリックします。加えた修正を無効にして終了する場合は【キャンセル】ボタンをクリックします。
2. ダブルクリックした時に開くダイアログボックスにより終了することもできます。

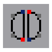
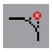
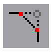
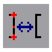
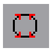
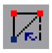
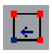


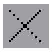
HINT
範囲をドラッグで囲むと、その範囲内の点（コマンドにより図形、ハンドル）が全て選択されます。

HINT
《Shift》キーを押しながら選択操作を行うと、追加選択や部分的な選択解除が行えます。

	点選択 点単位での選択を行います。点上をクリックすると点が選択されます。
	図形選択 図形単位での選択を行います。点上をクリックするとその点を含む図形が選択されます。
	ハンドル選択 ハンドル単位での選択を行います。点上をクリックするとその点とベジェ曲線ハンドル（ベジェ方向線）でつながる全ての点が選択されます
	直角移動 指定した点に接している２辺が直角になるように点移動します。
	水平移動 指定した点に接している辺が水平になるように点移動します。 このとき、点を結ぶ２辺の内、より水平に近い辺が水平になるように移動されます。
	垂直移動 指定した点に接している辺が垂直になるように点移動します。このとき、点を結ぶ２辺の内、より垂直に近い辺が垂直になるように移動されます。

	点追加 追加したい場所の線上をクリックして点を追加します。
	選択点削除 選択されている点を削除します。
	折れ線化 ２点間を折れ線化します。折れ線化する範囲の始点と終点を順に指定します。閉図形の場合、２点間にある点の数が少ない方向が折れ線化されます。
	直線化 ２点間を直線化します。直線化する範囲の始点と終点を順に指定すると間にある点が削除されます。閉図形の場合、２点間にある点の数が少ない方向が直線化されます。
	ベジェ化（円弧） ２点間をベジェ曲線化します。ベジェ化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、３点を通る円弧の形でベジェ化されます。
	ベジェ化（区間） ２点間をベジェ曲線化します。２点間を 1 区間のベジェ曲線に変形します。ベジェ化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、３点を通る円弧の形に近い形でベジェ化されます。
	円弧化 ２点間を円弧曲線化します。円弧化する範囲の始点と終点を順に指定し、最後に中間点を指定すると、３点を通る円弧に変形されます。
	折れ線化（方向指定） ２点間を折れ線化します。このコマンドは閉図形の場合で２点間にある点の数が多い方向を折れ線化したい場合に使用します。操作方法はベジェ化や円弧化と同様、３点を指定します。
	直線化（方向指定） ２点間を直線化します。このコマンドは閉図形の場合で２点間にある点の数が多い方向を直線化したい場合に使用します。操作方法はベジェ化や円弧化と同様、３点を指定します。
	３次ベジェ化 円弧曲線や２次ベジェ曲線の中間点を指定し、３次ベジェに変更します。 ２次ベジェ曲線は TrueType フォントで作成した文字をアウトライン化した場合などに現れます。
	始点移動 始点（青い点）を同一図形内の別の点に移動します。始点の移動先をクリックします。

	**図形の連結・分割** 図形を連結または分割します。線上の点（曲線の中間点や方向点はエラーとなります）を２点、順に指定します。同一閉図形内の２点を指定した場合は図形が分割され、異なる図形の２点を指定した場合は図形同士が連結されます。開図形同士を連結する場合は連結したい端の点を指定します。
	**角丸め** 角点を丸めます。あらかじめ［設定］にて、角丸めの半径を設定しておきます。
	**角落とし** 角点を角落としします。あらかじめ［設定］にて、角落としの長さを設定しておきます。
	**スムージング** 曲線の接続点が滑らかな線でつながるように点を移動します。ベジェ曲線ハンドル（ベジェ方向線）でつながる点の中の１点を指定するとその点が移動されます。
	**選択反転** 選択されている点を選択されていない状態にし、逆に選択されていない点を選択された状態にします。 複数の図形があり、ある図形を残して後は削除したいという場合、残す図形を選択した後[選択反転]コマンドを実行し[選択点削除]を行います。
	**回転方向** 図形の回転方向を変更します。このコマンドの実行中は回転方向を示す矢印が表示されます。矢印をクリックするとその点を含む図形の回転方向が変更されます。回転方向を変更することにより、塗り込みで「ワインディング」を指定している場合、塗り込み結果に変化が生じます。
	**選択点回転** 選択されている点を回転します。ドラッグした方向が水平になるように選択点が回転します。すべての点が選択された状態で左から右へドラッグすると、僅かに傾いた図形の傾きを微調整することができます。
	**閉図形化（移動）** 開図形（ストローク）を閉図形にします。開図形の端の点を指定すると、その点がもう一方の端に移動して図形が閉じます。
	**閉図形化（連結）** 開図形（ストローク）を閉図形にします。開図形の端の点を指定すると、その点ともう一方の端が線で結ばれて図形が閉じます。



クロスカーソル設定

点の移動中に表示されるクロスカーソルの角度を設定します。



《設定開始》

マウスでの設定状態になります。クロスカーソルの原点と方向を順にクリックし、クロスカーソルの角度を設定します。

《直角》

チェックを外すと、クロスカーソルの角度を別々に設定することが可能です。



元に戻す

誤った操作を実行した直後に使用します。又、[元に戻す]コマンドを実行後、それを取り消す場合には[やり直す]を実行します。



やり直す

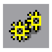
[元に戻す]で取り消した作業を元に戻し、[元に戻す]コマンドを実行する前の作業状態にします。





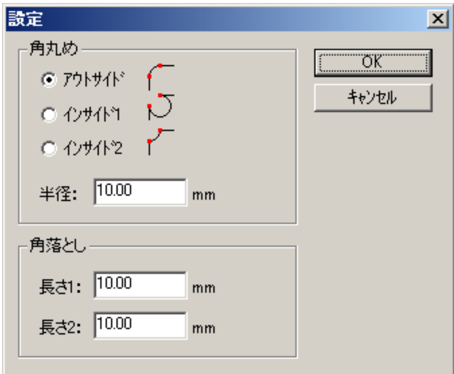
選択移動

1 点が選択された状態でこのコマンドを実行すると点の選択が隣の点へ移動します。

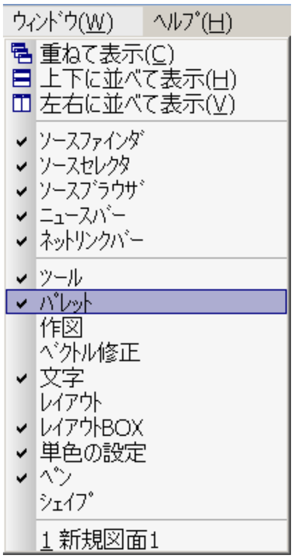


設定

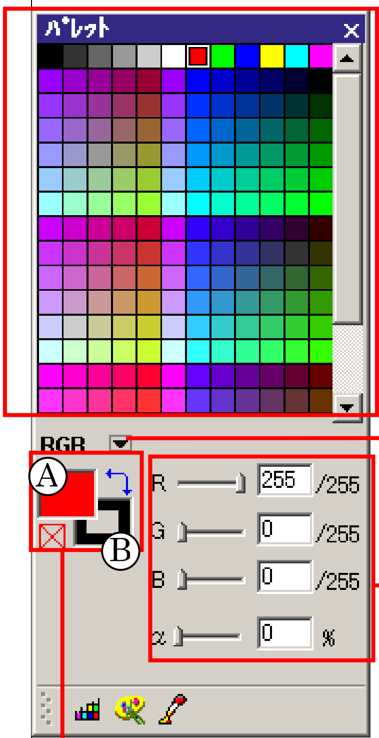
各ベクトル修正に必要な設定を行います。



12 パレット



オブジェクトの塗り込み色または線色を設定します。数値で指定するか、カラーパレットから任意の色をクリックして選択します。塗り込み色または線色の ON／OFF 切り替えもこのウィンドウにて行います。



①パレット

塗り込み色、線色を設定します。任意の色をクリックすると選択されている図形の塗り込み色又は線色が設定されます。

②RGB／CMYK 切り替え

RGB と CMYK の切り替えをします。

③数値設定

数値によるカラー設定をします。

④カレントカラー

塗り込みまたは線の切り替えを行います。塗り込み色変更時はＡを、線色変更時はＢをクリックします。

また、パレットやＲＧＢ設定などで指定した色が反映されます。

⑤パレット選択

パレットの選択を行います。



⑦画面色の取得

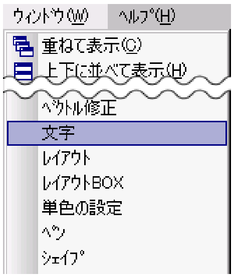
画面上の色を取得し、カレントカラーに設定します。

⑥色の登録

カレントカラーをパレットの任意の場所に登録します。

> 色を消去する場合は、☒をクリックします。
> 塗り込み色と線色を入れ替える場合は、⮌をクリックします。

13 文字

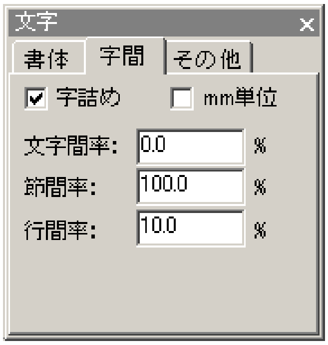


文字を入力する際、予めサイズ・間隔・レイアウトを決めておきます。サイズは 1 文字単位の大きさです。

【書体】



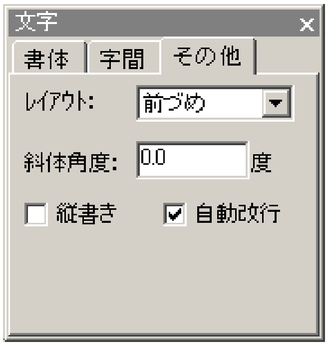
書体と 1 文字単位の大きさを設定します。
W：1 文字の横幅　／　H：1 文字の高さ
【字間】



文字と文字の間隔を設定します。

字詰め	チェックを入れると字詰め(プロポーショナル)を有効にします
mm 単位	チェックを入れると以下の率指定がミリ指定に変わります
文字間率	1 文字ごとの間隔を設定します
節間率	スペースの間隔を設定します
行間率	1 行ごとの間隔を設定します

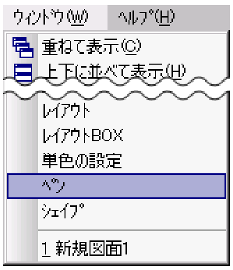
【その他】



レイアウトを設定します。

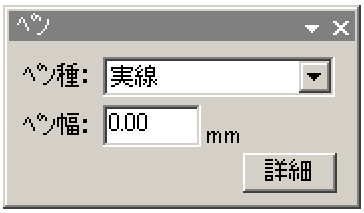
レイアウト	枠づめ	枠いっぱいになるように自動的に長平体がかかります
	前づめ	枠の前から詰めてレイアウトします
	中づめ	枠の中央に寄せてレイアウトします
	後づめ	枠の後ろに詰めてレイアウトします
	均等	枠いっぱいに均等になるように間隔を調整します
縦書き	チェックを入れると文字を縦書きにします	
自動改行	チェックを入れると文字のレイアウト枠に従って自動的に文章が折り返されます	

14 ペン

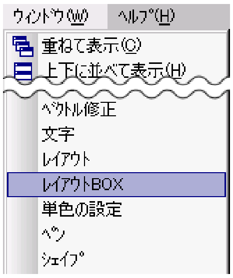


ペン種、ペン幅など、線種の設定を行います。

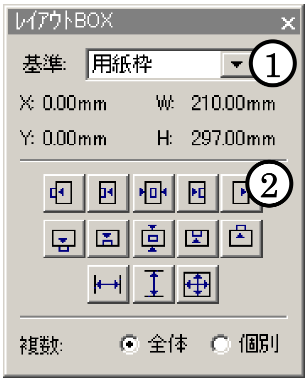
⇒「第 2－4 章 9.[オブジェクト編集]－[線種の変更]」参照



15 レイアウト BOX



選択したオブジェクトを基準枠に沿ってレイアウトします。

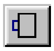
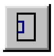
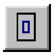
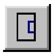
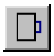
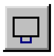
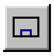
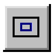
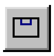


①基準

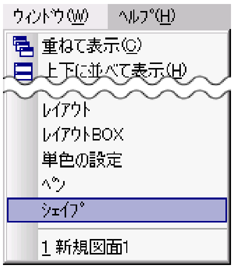
・**用紙枠**：用紙設定で設定した用紙サイズを基準枠としてレイアウトします。

・**データ枠**：メインメニューの[レイアウト]－[データ枠に登録]で設定された枠を基準枠としてレイアウトします。

②編集リスト

左右方向		基準枠の左外に移動します。
		基準枠の左揃えに移動します。
		基準枠の左右中央に移動します。
		基準枠の右揃えに移動します。
		基準枠の右外に移動します。
上下方向		基準枠の下外に移動します。
		基準枠の下揃えに移動します。
		基準枠の上下中央に移動します。
		基準枠の上揃えに移動します。
		基準枠の上外に移動します。

16 シェイプ



MEMO

一度変形させた図形を別のパターンで再度変形させる場合は、元に戻すで元に戻してから行って下さい。

32 種類のパターンから変形を選択し実行します。



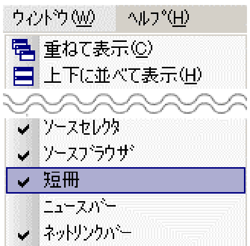
①変形率

変形率を指定します。

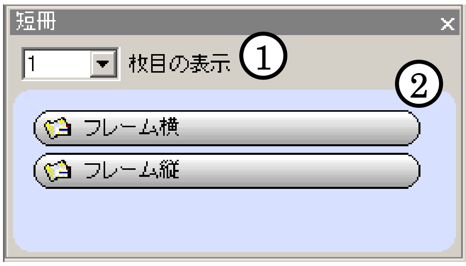
②パターン

32 種類の変形パターンがあります。選択したパターンで変形します。

短冊



短冊プリントをする時に役立つ機能を実行します。



①連文字・連番プレビュー

短冊の何枚目かを指定し、連文字や連番のプレビューを行います。

②フレームテンプレート

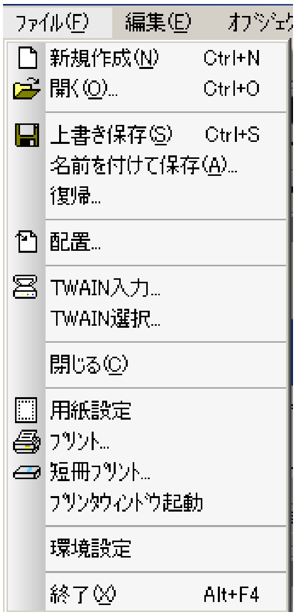
フレームのテンプレートをソースブラウザに開きます。

第 2 部

第 2 章
ファイルメニュー

作成した図面の保存、読み込み、出力、及びソフトウェアの終了等を実行します。





1 新規作成

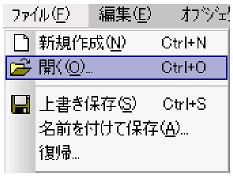


新規作成
ショートカットキーは
Ctrl ＋ N

このコマンドを選択すると『用紙』ダイアログボックスが表示されます。それぞれ詳細を設定し、【ＯＫ】をクリックすると新規の図面が表示されます。

⇒「第 2－2 章　10.　用紙設定」参照

2 開く



開く
ショートカットキーは
Ctrl ＋ O

保存されているファイルを開きます。
このコマンドを選択すると『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。



①ファイルの場所

▼をクリックして、ファイルが保存されているフォルダを選択します。

MEMO

ファイルを開く際の拡張子
読み込み可能なファイルの種類は DGX 形式のみです。

②ファイル一覧
①の「ファイルの場所」で選択したフォルダ内に保存されている フォルダ・ファイルの一覧が表示されます。任意のファイルをダブルクリックするか、ファイルをクリックした後、**【開く】**ボタンをクリックしてください。

③ファイル名
ファイル名が分かっている場合はファイル名を入力します。また、②でファイルをクリックした場合、選択したファイル名が自動的に表示されます。

④ファイルの種類
ファイルの種類を選択します。

⑤プレビュー
プレビュー機能が付加されているファイルを選択した場合、ここにファイルのプレビューが表示されます。

⑥ファイル詳細
選択されたファイルの詳細を表示します。ただし、詳細データが登録されているファイルに限ります。

3　上書き保存

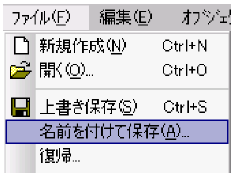


上書き保存
ショートカットキーは
Ctrl + S

既存のファイルを上書き保存します。
このコマンドを選択するとファイルが上書き保存されます。

この保存コマンドでは、上書き確認の警告が出ません。上書き保存を実行すると、保存する前のデータはなくなり、新たなファイルとして保存されます。

4　名前を付けて保存



作成したファイルを新規に名前を付けて保存します。
このコマンドを選択すると『名前をつけて保存』ダイアログボックスが表示されます。



①保存する場所
▼をクリックして、ファイルを保存するフォルダを選択します。
②ファイル一覧
①のファイルの場所で選択したフォルダ内に保存されているフォルダ・ファイルの一覧が表示されます。
③ファイル名
保存するファイル名を入力します。
④ファイルの種類
保存するファイル形式を選択します。
⑤プレビュー
プレビュー機能が付加されているファイルを選択した場合、ここにファイルのプレビューが表示されます。
⑥ファイル詳細
ファイルの詳細を入力します。

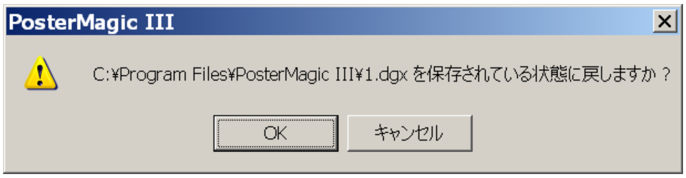
MEMO

保存するファイル形式
保存可能なファイルの種類はDGX 形式のみです。

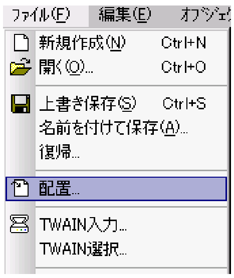
5 復帰



ファイルを開いたときの状態、または最後にファイルを保存したときの状態に戻します。
このコマンドを選択すると確認ウインドウが開きます。
復帰させる場合は、【ＯＫ】ボタンをクリックします。



6 配置

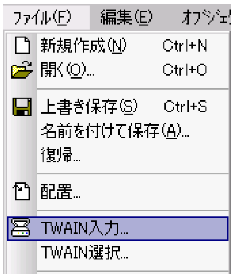




ただし、AI,EPS は AdobeIllustrator8.0J 互換ファイルまでのサポートであり、一部読み込めない形式もありますのでご注意ください

画像など、外部データを読み込み、配置します。
このコマンドを選択すると『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示されます。
⇒「第 2－2 章 2. 開く」参照
配置可能なファイルの種類は・BMP・TIF・JPG・AI・EPS・DGX です。

7 TWAIN 入力

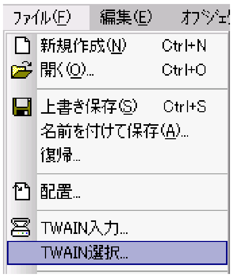


注意

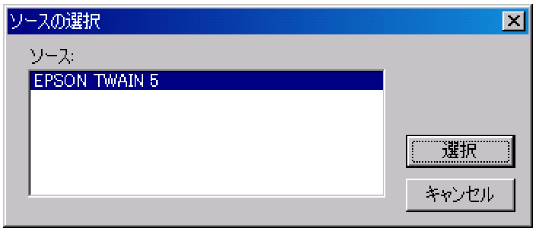
スキャナ等取り込みの際には、各メーカーのマニュアルをご覧下さい。

TWAIN 入力コマンドを実行すると、スキャナ等 TWAIN 対応機器の画像取り込みが開始されます。
取り込み終了後、データが図面に貼り付きます。

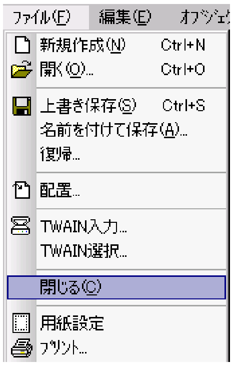
8 TWAIN 選択



TWAIN 選択コマンドを実行すると、選択可能な TWAIN 機器が表示されます。選択後、【選択】ボタンをクリックします。



9　閉じる



現在、開いている図面を閉じます。このコマンドを選択すると保存確認のウインドウが開きます。

【はい】

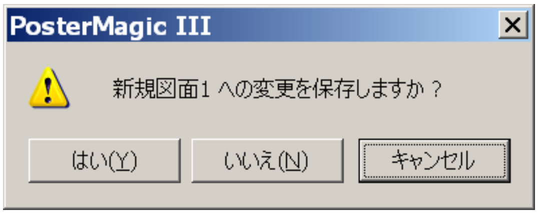
ファイルを保存してから閉じます。この場合、上書き保存されますのでご注意下さい。

【いいえ】

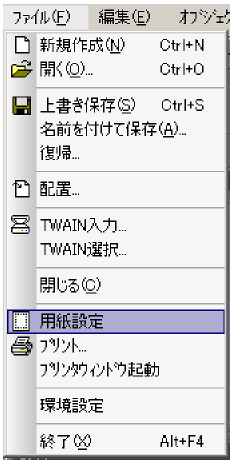
ファイルを保存せずに閉じます。

【キャンセル】

閉じるコマンドを中止します。



10　用紙設定

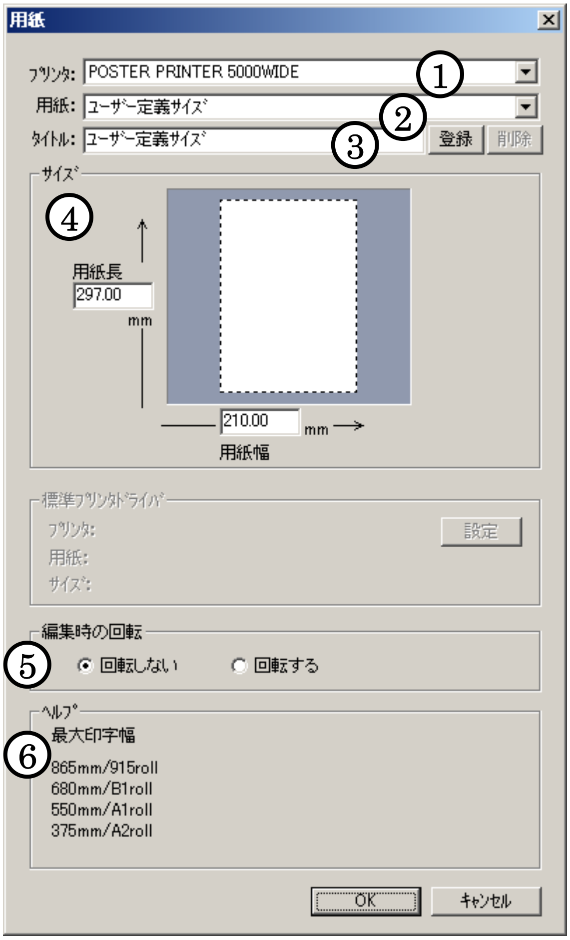


用紙設定では、下記のコマンドを実行することができます。

- 用紙の新規登録
- 用紙設定の変更
- 用紙選択
- 登録用紙の削除

MEMO

用紙に登録されているサイズ以外でお好みの用紙サイズの登録をすることができます。



①プリンタ

▼をクリックしてプリンタを選択します。

②用紙

①で選択したプリンタで使用できる用紙のみが表示されます。

▼をクリックして用紙を選択します。

③タイトル

②で「ユーザー定義サイズ」を選択した場合のみ表示されます。ユーザー定義した用紙のタイトルを入力します。

④サイズ

用紙のサイズが表示されます。ユーザー定義での用紙登録の際には、ここに数値を入力します。

⑤編集時の回転

編集時に用紙を回転するかどうかを選択します。

⑥ヘルプ

①でプリンタを選択するとそのプリンタでの最大印字幅が表示されます。

《ユーザー定義の用紙登録の手順》

1. ①のをクリックし、プリンタを選択します。
2. ②のをクリックし､｢ユーザー定義サイズ｣を選択します。
3. ③に分かりやすい用紙のタイトルを入力します。
4. ④で用紙の「用紙長」「用紙幅」のサイズを指定します。
5. ⑤で用紙の回転をどちらかに指定します。
6. 新規用紙の設定完了後【登録】ボタンをクリックします。

《用紙設定変更の手順》

1. ②で設定を変更する用紙を選択します。ここでサイズの変更が可能な用紙は､ユーザー定義で作成した用紙のみです。
2. ③④⑤で変更する箇所を設定し直します。
3. 用紙設定変更後､【登録】ボタンをクリックします。

《用紙選択》

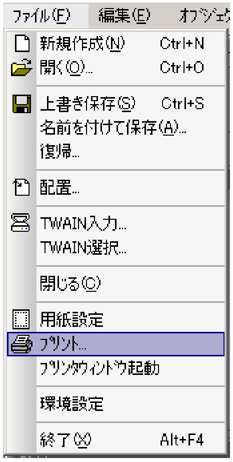
1. ①のをクリックし、プリンタを選択します。
2. ②のをクリックし、用紙を選択します。
3. 【ＯＫ】ボタンをクリックします。

《登録用紙の削除》

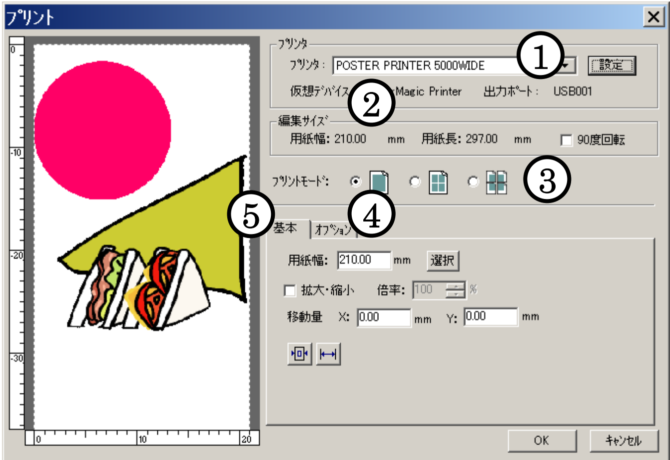
1. ①のをクリックし、プリンタを選択します。
2. ②のをクリックし、削除する用紙を選択してください。

【削除】ボタンをクリックします。

11 プリント

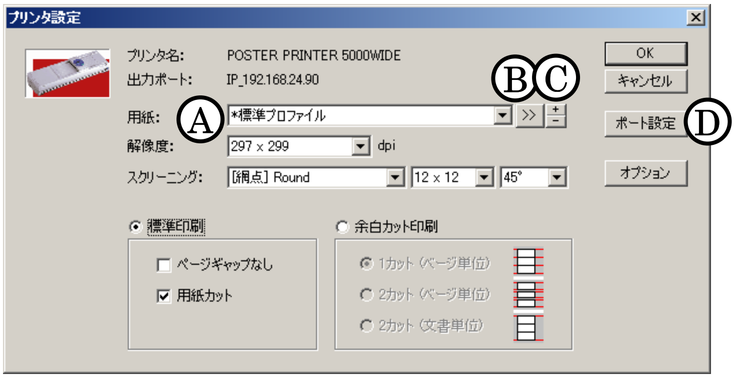


POSTER PRINTER で出力する際のプリントコマンドです。



①プリンタ

をクリックし、プリンタを選択します。詳細を設定する場合には、設定をクリックすると『プリンタ設定』ダイアログボックスが表示されます。

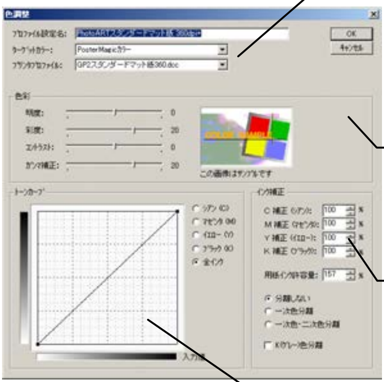


（A）各種設定

プリントするメディアにあわせて「用紙」「解像度」「インク選択」「モード」をそれぞれ設定します。用紙を選択する場合、必ず選択した用紙名の解像度とプリンタ解像度を合わせてください。

（B）色調整

出力の色調整を行いたい場合、【>>】をクリックします。『色調整』ダイアログボックスが表示されます。



■各種設定

「ターゲットカラー」「プリンタプロファイル」等を設定します。

■色彩

明度・彩度・コントラスト・ガンマ補正を設定します。

■インク補正

各色個別のインク補正を設定します。

■トーンカーブ

各色ごとのトーンカーブを設定します。右側の色を設定し、線上の任意の点をドラッグするとカーブが変更されます。

（C）追加・削除

用紙の追加・削除を実行します。

初期設定の用紙は削除することができません。追加をクリックすると『色調整』ダイアログボックスが表示されます。

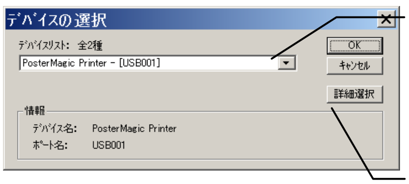
注意

インストール時にプリンタドライバ「PosterMagic Printer」がインストールされます。

通常は、「PosterMagic Printer」を選択してください。各プリンタの設定方法は、第 3 部チュートリアルを参照してください。

（D）ポート・スプーラ

プリンタの仮想デバイス・ポート情報が表示されます。【設定】をクリックすると『デバイスの選択』ダイアログボックスが表示されます。



■プリンタ

「プリンタの種類」から通常接続されているプリンタを選択します。

■詳細設定

プリンタドライバの設定ウインドウが表示されます。

②編集サイズ

編集サイズおよび、90 度回転を設定します。

③プリントモード

「基本」「面付け」「分割」の 3 モードから選択します。ここで選択したプリントモードに応じて、⑤の基本設定項目が変動します。

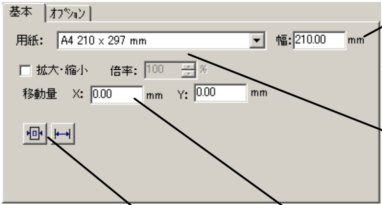
それぞれのプリントモードの違いは下記のとおりです。

・基本：そのまま印刷を実行。

・面付：用紙内にデータを連続配置し、印刷を実行。

・分割：1 枚のデータを分割し、印刷を実行

＜基本モード＞



■幅

実際に印刷する用紙の幅を設定します。

■倍率

印刷する際に拡大･縮小する場合は､チェックをＯＮにし、倍率を設定します。

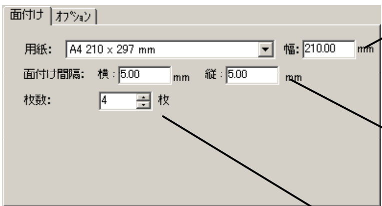
■移動量

オブジェクトの配置位置を設定します。

■印刷位置

印刷をする際の用紙に対してのオブジェクトの位置を設定します。

＜面付けモード＞



■幅

実際に印刷する用紙の幅を設定します。

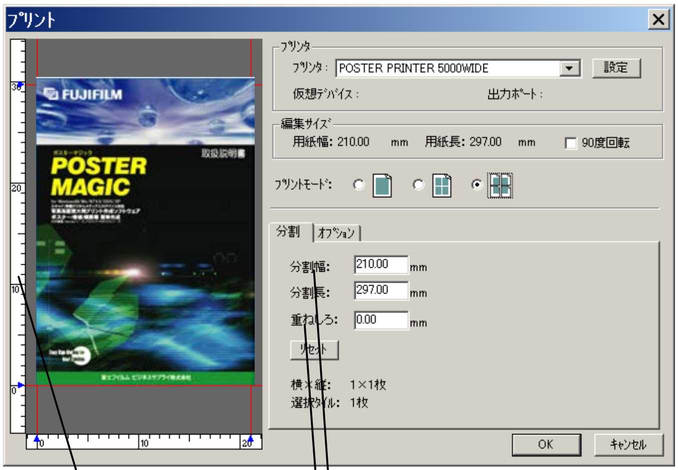
■面付け間隔

面付けでオブジェクト同士の間隔を設定します

■枚数

面付け枚数を設定します。

＜分割モード＞



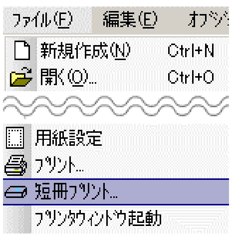
■分割幅・分割長
分割する幅と長さを設定します。

■重ねしろ
重ねしろの幅を設定します。

■分割位置
青色の三角をドラッグすることで分割位置を変更することができます。

④オプション
印刷する枚数を設定します。

12 短冊プリント



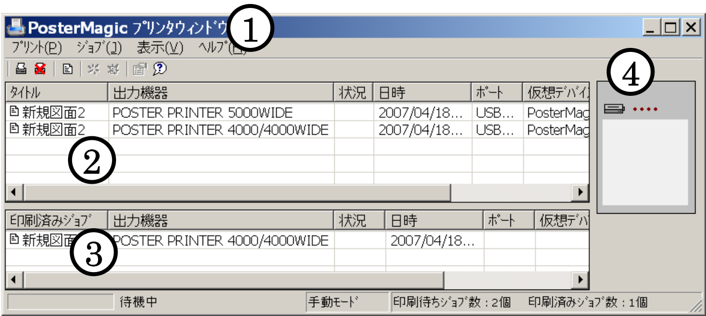
短冊プリント画面を開きます。

⇒「第１３章　短冊プリント」参照

13 プリンタウィンドウ起動



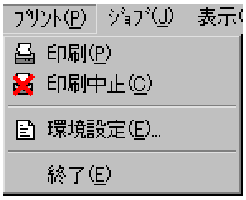
印刷を行うプリンタウィンドウプログラムを起動します。PosterMagic でプリント実行を行ったジョブが順次印刷されます。



①メニューバー
各種コマンドを実行します。
②印刷待ちジョブリスト
印刷を行うジョブのリストが表示されます。
③印刷済みジョブリスト
印刷ジョブのリストが表示されます。
④プレビュー欄
[表示] - [プレビュー]にチェックが入っている場合、選択したジョブのプレビューが表示されます。

■プリント

・印刷

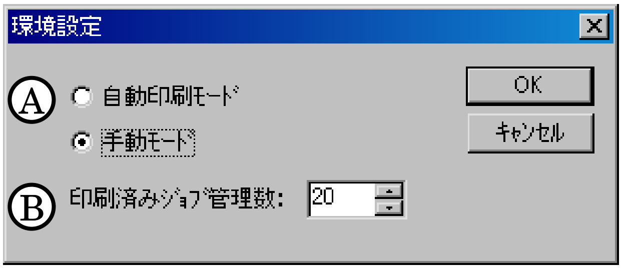


②に表示されているジョブを選択し、コマンドを実行すると選択したジョブの印刷を開始します。また、ジョブを選択せずに実行すると全ジョブの印刷が開始します。

・印刷中止

印刷をキャンセルします。印刷と同様、ジョブを選択してコマンドを実行すると選択したジョブの印刷をキャンセルし、ジョブを選択せずに実行すると全ジョブの印刷がキャンセルされます。

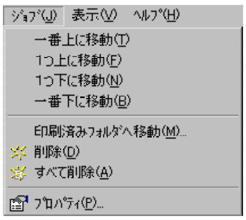
・環境設定



（A）モード設定
②に表示されるジョブを自動的に印刷開始する場合には「自動印刷モード」を、個別にジョブを印刷するには「手動モード」を選択して下さい。
（B）印刷済みジョブ管理数
③に表示される印刷済みのジョブを何個まで残すかを設定します。ここで設定した数以上のジョブが③に追加されると日付の古いものから順に自動的に削除されます。
・終了
プリンタウィンドウプログラムを終了します。

■　ジョブ

②に表示されるジョブに対して操作を行います。



・一番上に移動
選択したジョブを一番上に移動します。
・１つ上に移動
選択したジョブを１つ上に移動します。
・１つ下に移動
選択したジョブを１つ下に移動します。
・一番下に移動
選択したジョブを一番下に移動します。

・印刷済みフォルダへ移動
選択したジョブを③へ移動します。
・削除
選択したジョブを削除します。
・すべて削除
ジョブをすべて削除します。
・プロパティ
選択したジョブのプロパティを表示します。



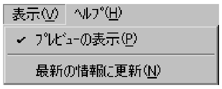
■　**表示**

・プレビューの表示

④のプレビューを表示するかどうかを選択します。

・最新の情報に更新

プリンタウィンドウに表示するジョブリストを最新のものにします。



■　**ヘルプ**

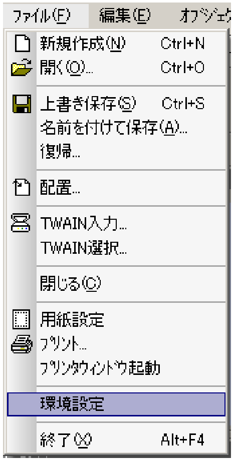
・バージョン情報

プリンタウィンドウのバージョン情報が表示されます。





14 環境設定



PosterMagic の環境を設定します。



①元に戻す

「元に戻す」を使用するかどうかとその回数を設定します。チェックＯＮの場合、「元に戻す」コマンドを使用します。

②範囲選択

範囲選択するデータの選択方法を設定します。

「完全」を選択すると完全に囲った図形だけが選択されます。

③イラストデータの読み込み方

イラストデータの読み込む方法を下記の方法より選択します。

・元のデータのまま

・サイズを指定する

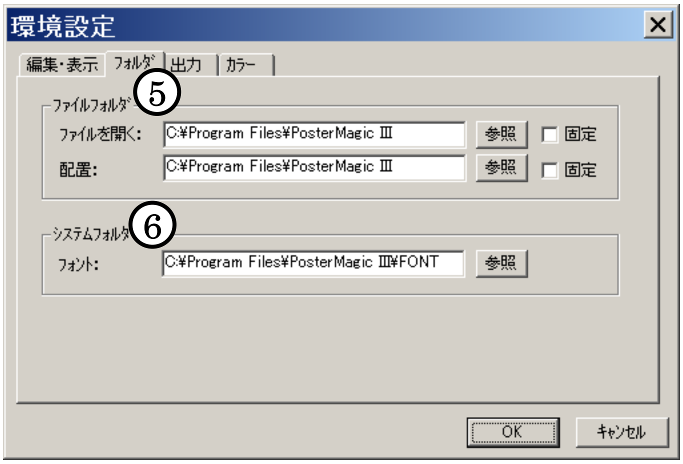
・用紙サイズに合わせる

④拡大縮小時に線幅も連動する

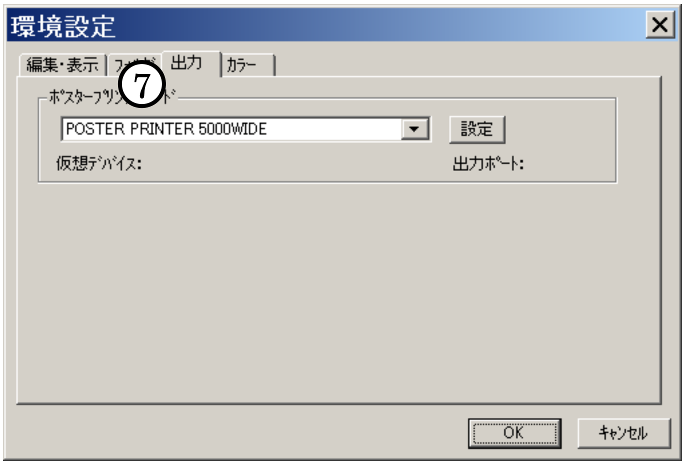
オブジェクトの拡大縮小の際、その拡大率にあわせて線幅も連動して変更するかどうかを設定します。

注意

元に戻す回数を多くすると相当のメモリーが使用され、ソフトウエアの動作が遅くなる可能性があります。



⑤ファイルフォルダ
「ファイルを開く」「配置」のそれぞれを実行した際に最初に開くフォルダを設定します。
固定にチェックを入れた場合、ファイルフォルダは設定したフォルダで固定されます。
⑥システムフォルダ
フォントが格納されているフォルダを選択します。



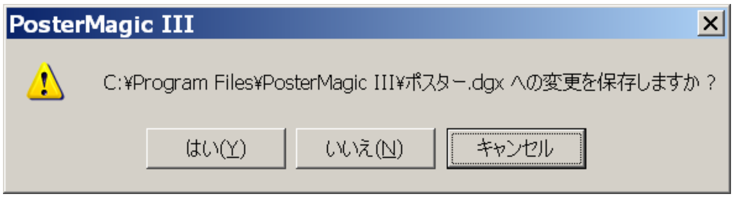
⑦ポスタープリンターモード
出力する際に初期値として設定されているプリンタを選択します。

15 終了



終了
ショートカットキーは
Alt ＋ F4

このコマンドを選択すると PosterMagic が終了します。
編集中の図面がある場合には、保存確認のウインドウが開きます。保存して終了する場合は【はい】、保存しない場合は【いいえ】、終了を取り止める場合は【キャンセル】をクリックします。



第 2 部

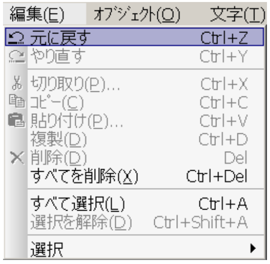
第 3 章 編集メニュー

「元に戻す」機能やコピー・貼り付けなどのクリップボードの操作をすることができます。またデータの選択操作もここで行います。





1 元に戻す

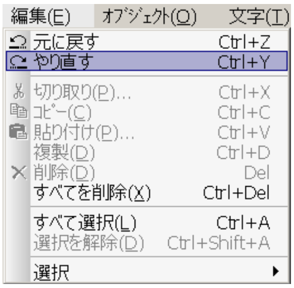


元に戻す
ショートカットキーは
Ctrl + Z

誤った操作を実行した直後に使用します。
又、［元に戻す］コマンドを実行後、それを取り消す場合には［編集］－［やり直す］を実行します。

元に戻すコマンドは、［ファイル］－［環境設定］にて設定した回数以上、さかのぼって元に戻すことはできません。「元に戻す」回数は環境設定にて設定を変更できます。
⇒「第 2－2 章 13. 環境設定」参照

2 やり直す

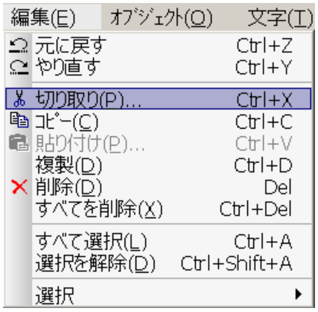


やり直す
ショートカットキーは
Ctrl + Y

［編集］－［元に戻す］で取り消した作業を元に戻し、［元に戻す］コマンドを実行する前の作業状態にします。

このコマンドは、［編集］－［元に戻す］を実行した後に有効となります。元に戻すコマンドを使用していない場合には、グレーで表示され、選択できません。

3 切り取り



切り取り
ショートカットキーは
Ctrl ＋ X

MEMO

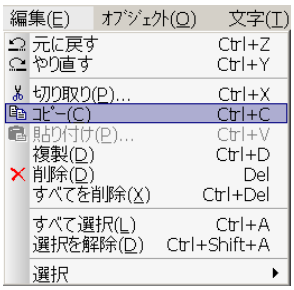
クリップボードに積み込めるデータは 1 個のみです。次にコピー又は切り取りを実行するか、他のアプリケーションでクリップボードへの積み込みを行うと前回のデータは削除されます。

選択したオブジェクトを図面から切り取り、クリップボードにコピーします。ここで切り取ったデータは［編集］－［貼り付け］で貼り付けることができます。

⇒「第 2－3 章 5. 貼り付け」参照

オブジェクトを選択し、切り取りコマンドを実行して下さい。

4 コピー



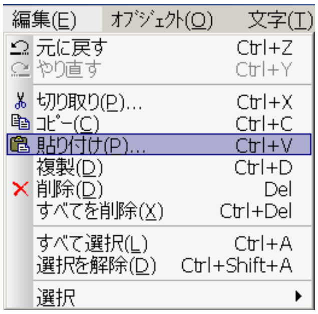
コピー
ショートカットキーは
Ctrl ＋ C

PosterMagic の図面上にあるデータをクリップボードにコピーします。
積み込んだデータは、［編集］－［貼り付け］で貼り付けることができます。

⇒「第 2－3 章 5. 貼り付け」参照

オブジェクトを選択し、コピーコマンドを実行して下さい。

5 貼り付け



貼り付け
ショートカットキーは
Ctrl + V

MEMO

一度クリップボードに積み込まれたデータは、違うデータをクリップボードに積み込むまで、同じデータを［貼り付け］を行うことができます。

他のアプリケーション、または PosterMagic で作成したデータをあらかじめクリップボードにコピーしておくと、図面上に貼り付けることができます。
クリップボードにデータがない場合や互換性のないデータの場合には選択できません。

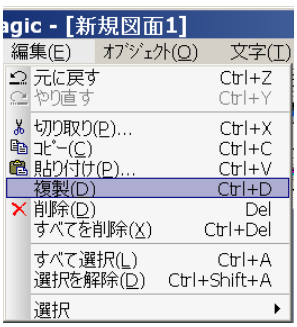
⇒「第 2−3 章 3. 切り取り」参照
⇒「第 2−3 章 4. コピー」参照

貼り付けを実行すると、同じ図面上のデータの場合は、コピーしたデータの前面に、外部のデータの場合は、画面中央に貼り付きます。

外部のデータを貼り付ける場合、次のようなウィンドウが表示されるときがあります。このときは、貼り付けるデータ形式を選んで貼り付けを行って下さい。



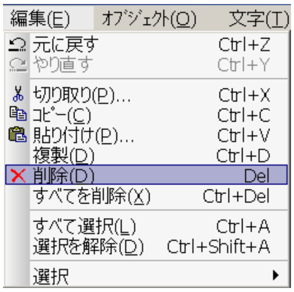
6 複製



複製
ショートカットキーは
Ctrl + D

オブジェクトの複製をします。複製するオブジェクトを選択し、［複製］コマンドを実行すると、選択したオブジェクトのコピーが、前面に貼り付けられます。

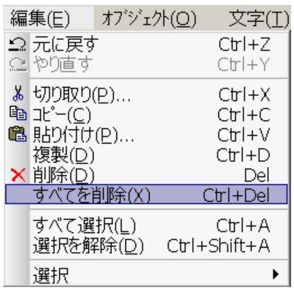
7 削除



削除
ショートカットキーは
Delete

オブジェクトの削除を実行します。削除するオブジェクトを選択し、[削除] コマンドを実行します。

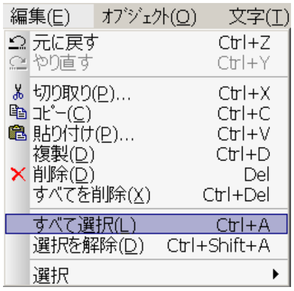
8 すべてを削除



すべてを削除
ショートカットキーは
Ctrl ＋ Del

図面上のオブジェクトをすべて削除します。

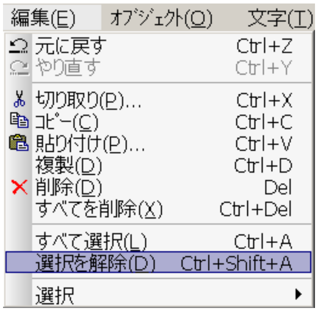
9　全て選択



すべて選択
ショートカットキーは
Ctrl + A

このコマンドを実行すると、図面上にある全てのオブジェクトを選択します。

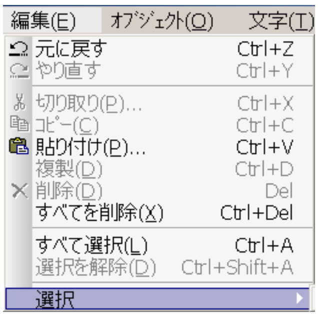
10　選択を解除



選択を解除
ショートカットキーは
Ctrl + Shift + A

選択されているオブジェクトを選択から解除します。

11　選択

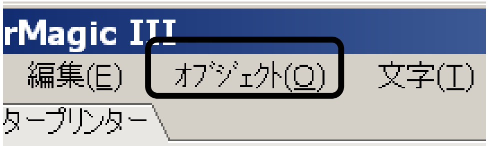


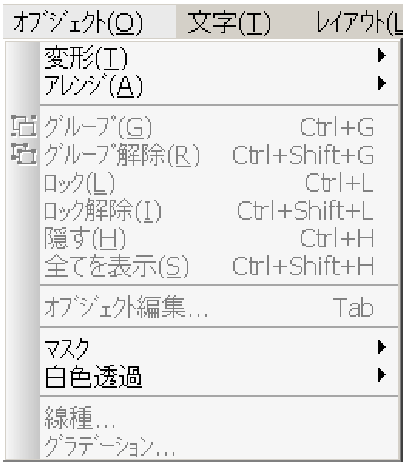
オブジェクトを選択し、[選択]－[同一色]を選択すると、選択したオブジェクトの塗り込み色あるいは輪郭の色と同一のオブジェクトを選択します。

第２部

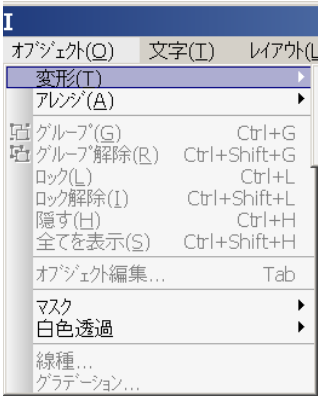
第４章
オブジェクトメニュー

オブジェクトの編集を行います。
移動・変形・回転などの編集をすることができます。編集するオブジェクトをクリックし、コマンドを実行して下さい。





1 変形

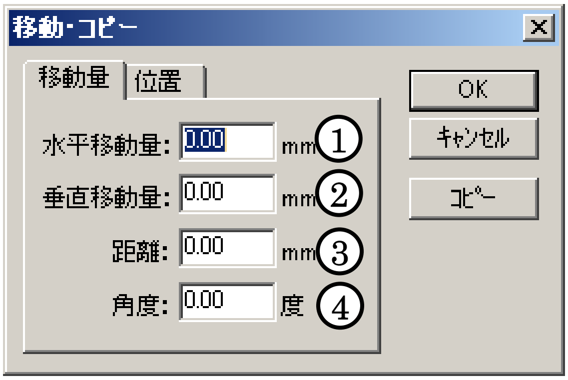


[オブジェクト]を選択し、［変形］コマンドにカーソルを合わせます。それぞれのコマンドをクリックすると詳細設定のダイアログボックスが表示されます。
［変形］コマンドでは、以下の変形を実行します。

- 移動・コピー
- 拡大・縮小
- 回転

■　移動

オブジェクトを移動します。
移動するオブジェクトを選択し、移動コマンドを選択するとダイアログボックスが表示されます。移動量等を入力後【OK】ボタンをクリックします。



①水平移動

横にのみ移動する場合、その距離を入力します。

②垂直移動

縦にのみ移動する場合、その距離を入力します。

③距離

移動距離を入力します。距離の量のみを入力した場合、水平移動となります。

④角度

元データを基準に移動する角度を入力します。

HINT

オブジェクトの移動は、この［変形］－［移動］コマンドを実行するほか、選択されたオブジェクトを選択し、そのままドラッグすることにより移動が実行されます。

移動先の XY 絶対座標位置を入力して移動させる場合は､｢位置｣を選択します。この時『移動』ダイアログボックスに表示されている座標は、現在の位置が表示されています。





オブジェクトのコピーは、この［変形］－［移動］コマンドを実行するほか､選択されたオブジェクトを選択し、そのまま Ctrl を押したままドラッグすることによりコピーが実行されます。

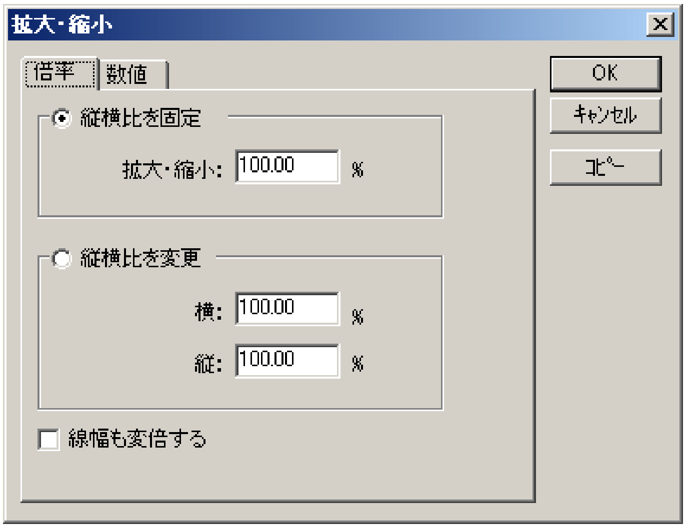
■　**コピー**

オブジェクトをコピーする場合は、移動量等を入力後【コピー】ボタンをクリックします。

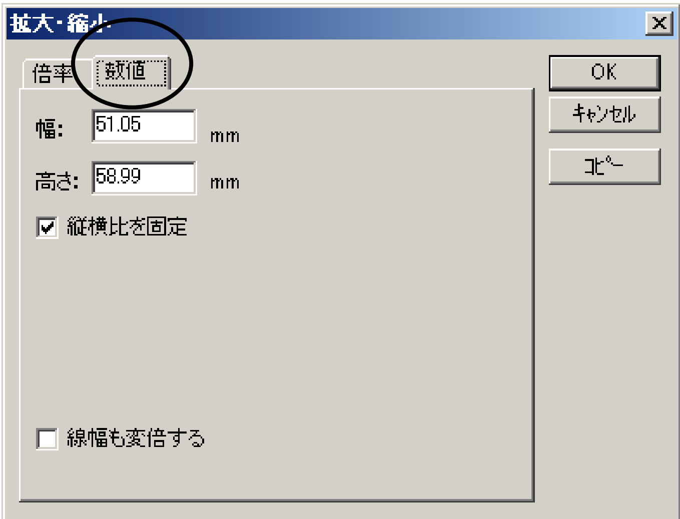


■　変倍

オブジェクトの拡大・縮小を実行します。
「縦横比を固定」か「縦横比を変更」のいずれかにチェックを入れ、変倍率を入力します。



幅、高さの数値を入力して変倍する場合は、「数値」を選択し、幅、高さそれぞれのサイズを入力します。
「縦横比を固定」のチェックボックスが ON の場合、W、H どちらか一方に数値を入力すれば、自動的に等比率で拡大・縮小が実行されます。



HINT

オブジェクトの拡大・縮小は、この［変形］－［拡大・縮小］コマンドを実行するほか、選択されたオブジェクトのまわりにあるポイントをドラッグすることによって実行されます。

■　**回転**

オブジェクトを回転します。回転角度を入力してください。
オプションで回転方法と原点の設定をし、【OK】ボタンをクリックします。また、回転したオブジェクトをコピーする場合は、【コピー】ボタンをクリックします。



2　アレンジ

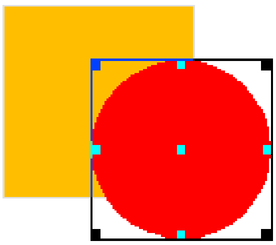


選択したオブジェクトの重ね順を変更します。[オブジェクト]を選択し、下記のどちらかのアレンジ方法をクリックします。

- 最前面へ
- 前面へ
- 最背面へ
- 背面へ

操作手順

1.　重ね順を変更するオブジェクトを選択します。



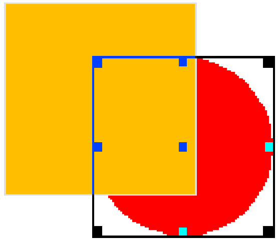
最前面へ
ショートカットキーは
Ctrl ＋ Shift ＋ F

前面へ
ショートカットキーは
Ctrl ＋ F

背面へ
ショートカットキーは
Ctrl ＋ B

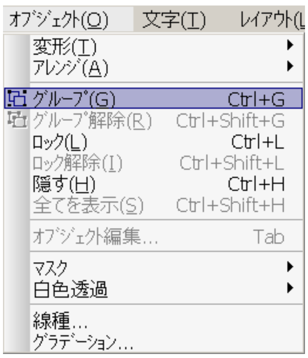
最背面へ
ショートカットキーは
Ctrl ＋ Shift ＋ B

2.［オブジェクト］－［アレンジ］－［最背面へ］をクリックします。選択したオブジェクトが最背面に移動されました。



※最前面に移動する場合は、手順の 2 で［最前面へ］をクリックしてください。
※「前面へ」又は「背面へ」を選択すると、1 つずつ背面又は前面に移動します。

3 グループ

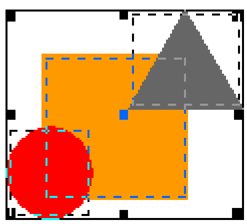
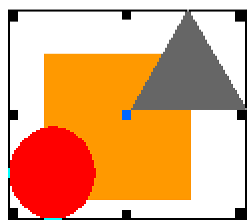


複数のオブジェクトをそれぞれの属性を保持したままでグループ化します。グループ化実行後は、一つのオブジェクトとして編集することができます。

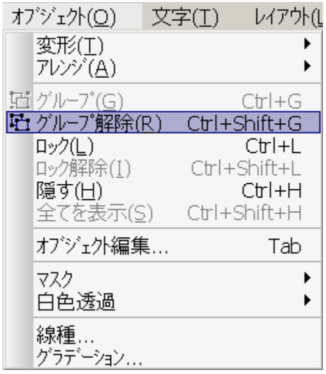
グループの
ショートカットキーは
Ctrl ＋ G

操作手順

1.　グループ化するオブジェクトを全て選択します。
2.　［オブジェクト］－［グループ］－［作成］をクリックします。

グループ化する前のオブジェクト	グループ化した後のオブジェクト
	

4 グループ解除



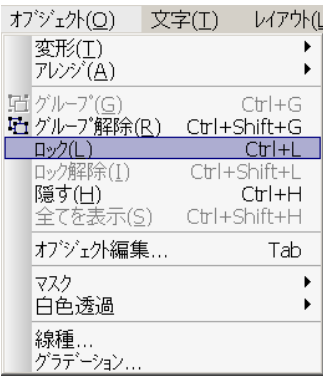
グループの解除の
ショートカットキーは
Ctrl + Shift + G

グループオブジェクトを解散し、元の複数のオブジェクトに戻します。

操作手順

1. 解除するグループオブジェクトを選択します。
2. ［オブジェクト］－［グループ］－［解除］をクリックします。

5 ロック



ロック
ショートカットキーは
Ctrl + L

ロックをかけたオブジェクトは選択や変更などの処理を実行できなくなります。この機能は、重なり合うオブジェクトを編集する場合に便利です。

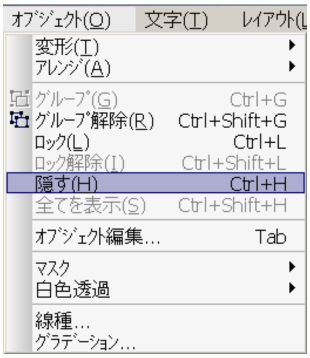
6 ロック解除



このコマンドは、ロックをかけられているすべてのオブジェクトに対してロック解除を実行します。ロックされていたオブジェクトのロックが解除され、選択・編集することができます。

ロック解除
ショートカットキーは
Ctrl + Shift + L

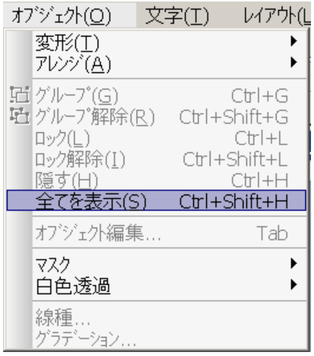
7 隠す



「隠す」コマンドを使用するとオブジェクトが一時的に表示されなくなり、選択・編集ができなくなります。複雑な図面を作成する場合に便利です。

隠す
ショートカットキーは
Ctrl + H

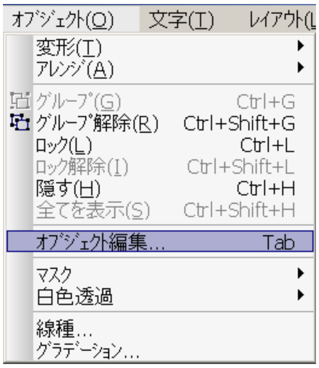
8　全てを表示



隠れていたすべてのオブジェクトが表示されます。選択・編集することができます。

全てを表示
ショートカットキーは
Ctrl ＋ Shift ＋ H

9　オブジェクト編集

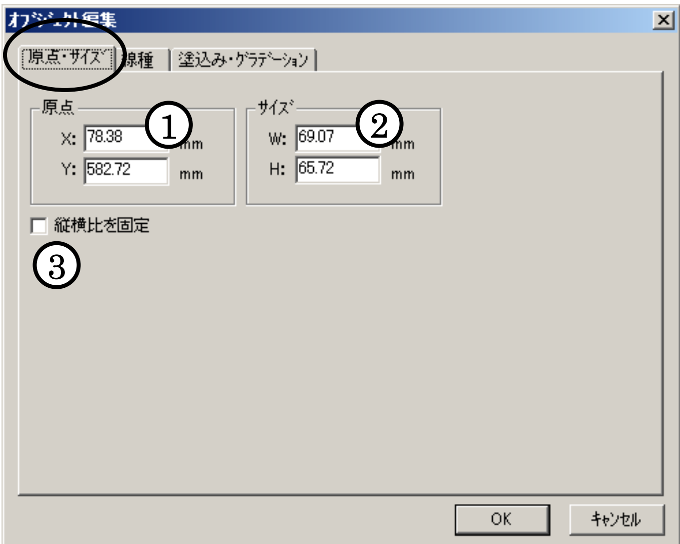


注意

画像を選択している場合は、「線種」「塗り込み・グラデーション」のタブは表示されません。

このコマンドでは、サイズ・線種・塗り込み等、オブジェクトの編集を行います。

■　原点・サイズの変更



①原点

オブジェクトの位置を変更します。

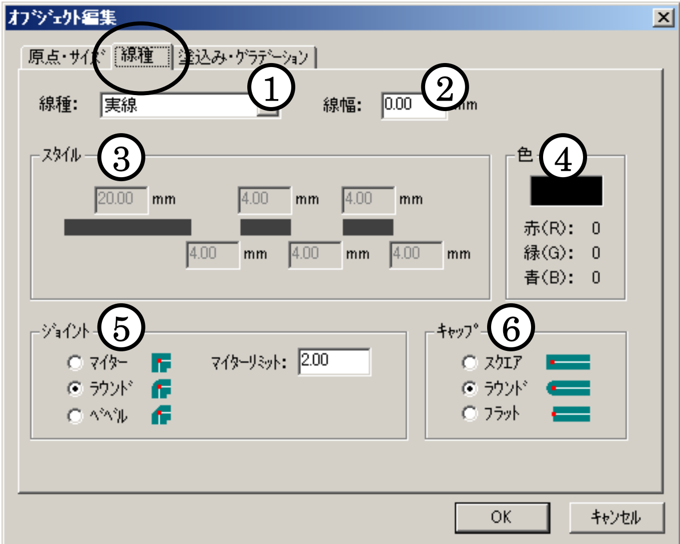
②サイズ

オブジェクトのサイズを変更します。

③縦横比を固定

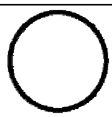
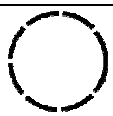
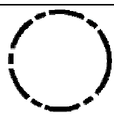
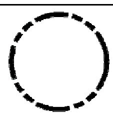
サイズ変更をする際、縦横比率を固定にする場合は、チェックを ON にします。

■　線種の変更



①線種

なし・実線・破線・一点鎖線・二点鎖線の 5 種類から選択します。

なし	実　線	破　線	一点鎖線	二点鎖線
				

②線幅

線の幅を設定します。mm 単位で数値を入力します。

線幅を 0mm に設定すると、画面、プリンタ等で最も細い線で表示されます。

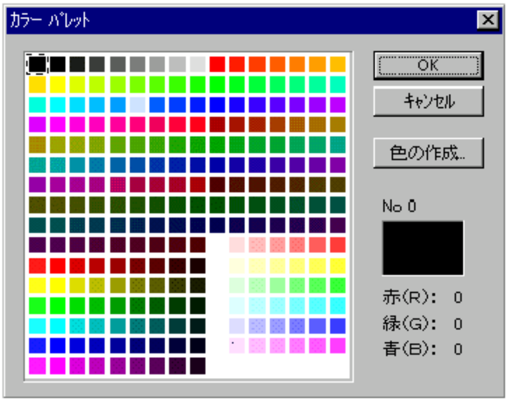
③スタイル

ペン種の設定が破線・一点鎖線・二点鎖線の場合のみ設定可能です。線分の長さ及び線分と線分との間隔を設定します。

④色

ペンの色を指定します。色が表示されているエリアをクリックするとカラーパレットが開きます。

また、カラーパレットにない色を作成・登録するときには登録するパレットを選択し【色の作成】ボタンをクリックすると『カラー作成』ダイアログボックスが開きます。



⑤ジョイント

ジョイントのスタイルを設定します。マイター、ラウンド、ベベルの中から選択してください。

マイター	ラウンド	ベベル
		

《マイターリミット》

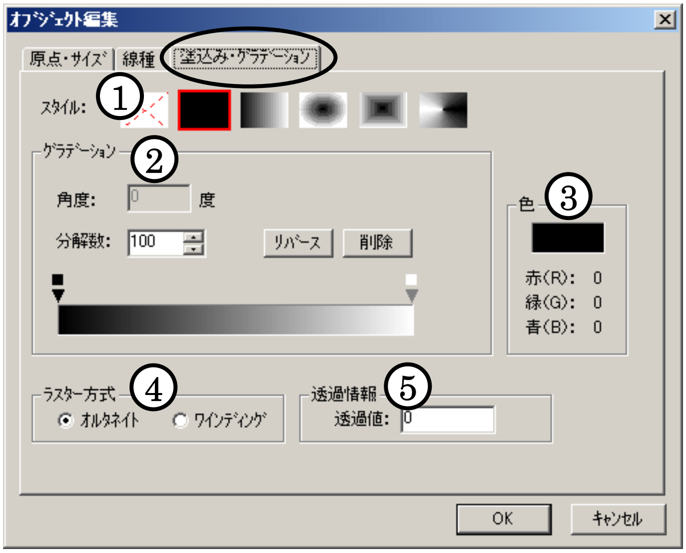
線分が鋭角に接続した場合、マイタージョイントによって接続点をはるかに超えて伸長してしまう場合があります。このように伸長しすぎた際、ある一定限度で切り落とすための制限値を設定します。

⑥キャップ

キャップ(線端)のスタイルを設定します。 スクエア、ラウンド、フラットの３種類の中から選択してください。

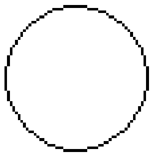
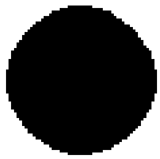
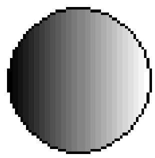
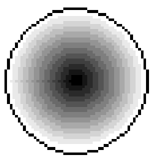
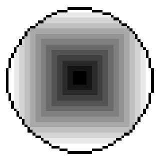
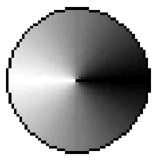
スクエア	ラウンド	フラット
		

■　塗り込み・グラデーションの変更



①スタイル

塗り込み・グラデーションのスタイルを選択します。

塗り込みなし	ベタ塗り	線状
		
円（放射状）	四角形（放射状）	円すい
		

②グラデーション

グラデーションスタイルを選択している場合、グラデーションの設定します。

●角度

線状グラデーションの角度を設定します。

●リバース

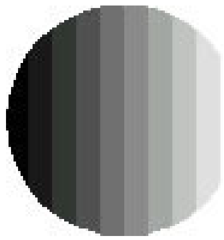
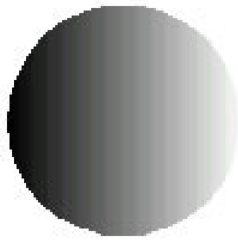
開始点と終了点および中間点の色を入れ替えます。

●削除

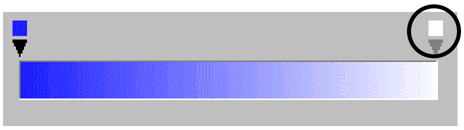
選択したグラデーション指示色を削除します。

●分解数

グラデーションの分解数を設定します。グラデーション分解数の数値が高い場合、なめらかな色変化が実現されますが、画面表示・印刷などの処理速度が低下します。

分解数を 10 にした場合	分解数を 300 にした場合
	

●グラデーションバー



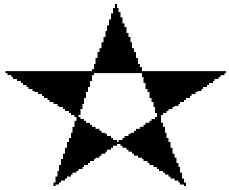
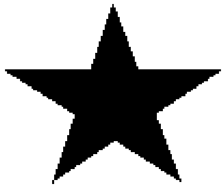
グラデーションの色・切り替え位置を指定します。
色を変更する場合、③のカラーパレットから任意の色を選択し、グラデーション指示色の■の部分をクリックします。また、グラデーション位置を変更する場合は、任意のグラデーション指示色の▼の部分をクリックし、移動したい位置でクリックします。
グラデーションは 32 色まで指定することができます。開始・中間・終了の点を設定し、色の変化を調整します。

③　色

塗り込みの色を指定します。色が表示されている所をクリックするとカラーパレットが開きます。
また、カラーパレットにない色を作成・登録するときには登録するパレットを選択し【色の作成】ボタンをクリックして下さい。『カラー作成』ダイアログボックスが開きます。

④ラスター方式

べた塗りの時の塗り込み方式を選択します。

オルタネイト	ワインディング
	

⑤透過情報

べた塗り時の透過率の設定を行います。透過値が大きくなるほど透過効果が大きくなり、透過率 0%でべた塗り、100%で透けて見えます。

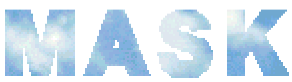
10　マスク



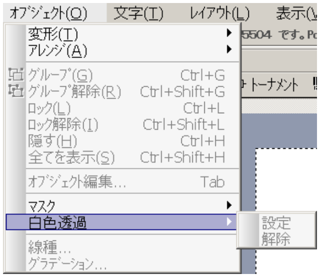
マスク機能では、文字や図形などの塗り込みに画像データを貼り付けることができます。 このコマンドは以下の手順に従ってください。

操作手順

1.　文字や図形の塗り込みに使用する画像データとマスクをかけるオブジェクトを重ねて配置し共に選択してください。この時、マスクをかけるオブジェクトを一番上に配置して下さい。
2.　［オブジェクト］－［マスク］－［作成］を選択します。

マスクコマンド実行前の画像と文字列	マスクコマンド実行後の画像
	

11 白色透過



画像の白い部分を透過させたい場合に使用します。

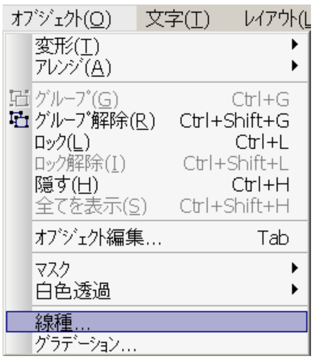
操作手順

・白色透過を行う場合
白色透過させたいオブジェクトを選択してから、[オブジェクト]－[白色透過]－[設定]をクリックして下さい。透過処理が行われます。

・白色透過を解除したい場合
白色透過を解除するには、オブジェクトを選択してから、[オブジェクト]－[白色透過]－[解除]をクリックして下さい。

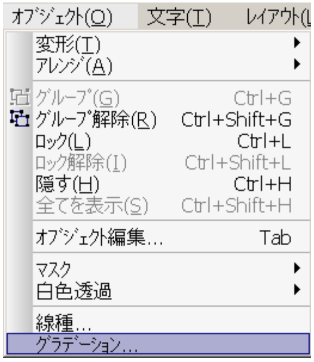
※グループ化したオブジェクトは、透過することができません。いったんグループを解除してから透過を実行してください。

12 線種



オブジェクトの線種の変更をします。
このコマンドを選択すると『オブジェクト』編集ダイアログボックスが表示されます。
⇒「第 2－4 章 9. [オブジェクト編集]－[線種の変更] 」参照

13 グラデーション



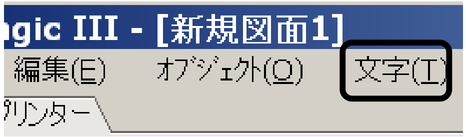
オブジェクトの塗り込み・グラデーションの変更をします。
このコマンドを選択するとダイアログボックスが表示されます。

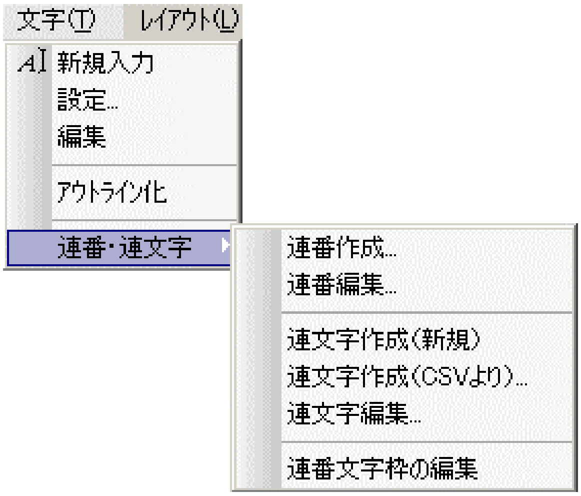
⇒「第 2－4 章 9. [オブジェクト編集]－[塗り込み・グラデーションの変更] 」参照

第 2 部

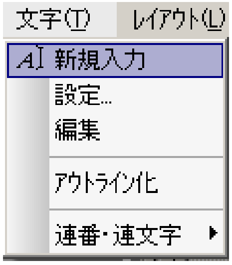
第 5 章
文字メニュー

文字の入力、変更を行います。
PosterMagic では、Windows に登録されている TrueType も PosterMagic にバンドルされている専用フォント同様に使用できますので、文字の表現がより豊かになります。





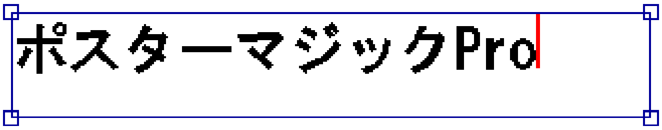
1　新規入力



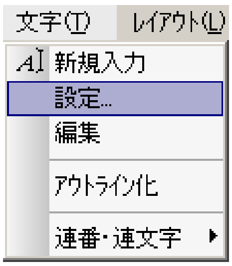


この文字列は、[文字]ダイアログボックスにて設定をすると、縦書き入力にすることができます。

［文字］－［新規入力］をクリックするとマウスのポイントが  に変わります。文字枠の範囲を指定すると、カーソルが表示されますので、文字を入力してください。



2　設定

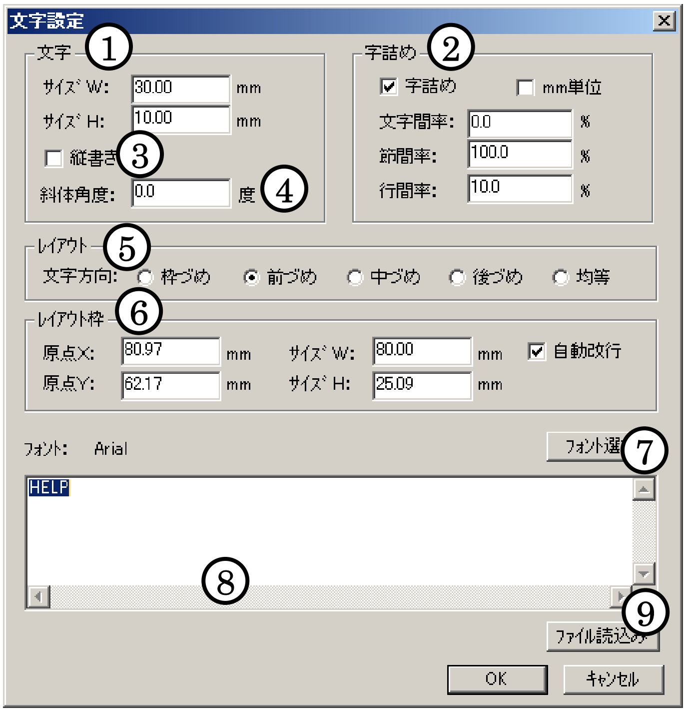




文字設定の変更は、文字列を選択した状態で右クリックし「文字設定」を選択しても同様に設定変更が可能です。

文字設定
ショートカットキーは
文字列を選択し Enter

選択した文字列のサイズ、フォントなどを変更します。
変更する文字列を指定してから、このコマンドを選択すると『文字設定』ダイアログボックスが表示されます。



①サイズ

文字列の縦横のサイズを数値で入力します。

②字詰め

・字詰め

字詰めチェックボックスのチェック ON の場合、文字詰めします。この字詰めを実行することにより、フォント情報による文字間の空白を詰めます。

・mm 単位

（チェック有＝mm 単位指定）

［文字間率］［節間率］［行間率］の設定を mm か％のどちらで設定するかを指定します。％の場合、1 文字の大きさを 100％として考えます。

・文字間率

文字間隔を調整します。

・節間率

空白入力時、空白の間隔を調整します。

・行間率

複数行入力したときの行間隔を調整します。

③縦書き

チェックＯＮの場合、入力した文字を縦書きにします。

④斜体角度

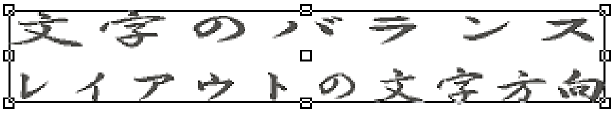
角度を設定し、文字に斜体をかけます。

⑤レイアウト

文字列のレイアウトを設定します。

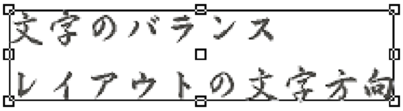
■枠づめ

枠サイズに合わせて文字の大きさが変動します。



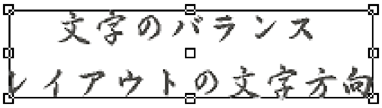
■前づめ

文字の大きさはそのままで枠の前方に詰めます。



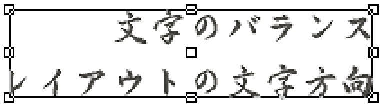
■中づめ

文字の大きさはそのままで枠の中央に揃えます。



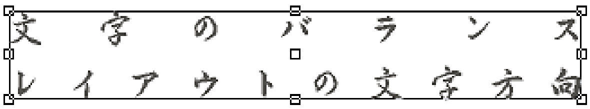
■後づめ

文字の大きさはそのままで枠の後方に詰めます



■均等

文字の大きさはそのままで枠のサイズに合わせ、均等配置します。



⑥レイアウト枠

《原点・サイズ 》

文字のレイアウト枠の変更を設定します。数値入力欄に直接数値を入力し変更します。

・原点

指定した枠の原点を設定します。

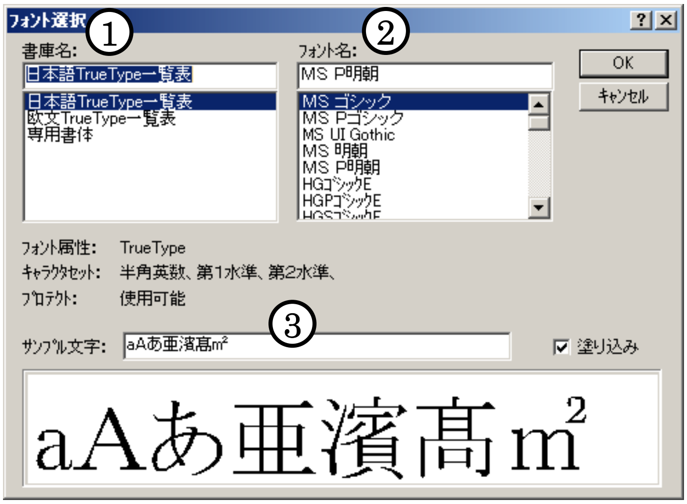
・サイズ

枠のサイズを設定します。

・自動改行
チェックＯＮの場合、入力した文字列を文字枠にあわせて自動的に改行します。

⑦フォント選択

選択した文字列の書体を変更します。
【フォント選択】をクリックするとダイアログボックスが表示されます。



①書庫名

文字が保存されている場所です。上２段は TrueType が、３段目は PosterMagic にバンドルされているフォントが納められています。

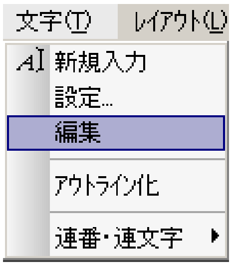
②フォント名

①の書庫を選択すると、そこに納められているフォントが表示されます。任意のフォントをクリックして選択します。

③サンプル文字

入力した文字が④のプレビューで確認できます。作成する文字をここに入力すると、実際のイメージを確認しながら作業をすることができます。

3 編集



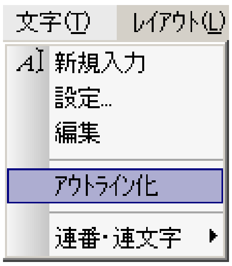
HINT

こちらでは、文字の変更のみを行います。フォントなどの書式を変更する場合「文字設定」にて行います。

選択した文字列の内容を変更します。
変更する文字列を選択し、［編集］コマンドを実行すると、画面上で直接文字列の編集を行うことができます。

また、文字枠を選択、右クリックして「文字編集」を選択しても同様に文字の編集を行うことができます。

4 アウトライン化



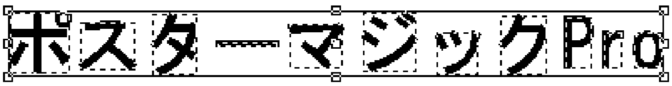
注意

分解した文字列は、部品枠となり、文字の変更はできなくなります。

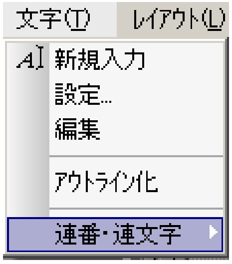
注意

文字をアウトライン化すると文字の打ち直しができません。十分に見直しを行ってからアウトライン化してください。

選択した文字列をアウトライン化します。
ベクトル修正で文字列を変形させる時や設定したフォントが入っていない他のパソコンで開くときには、文字をアウトライン化してください。
文字列枠を指定し､「アウトライン化」コマンドを実行すると、１文字ずつのオブジェクトに分解されます。



5　連番・連文字

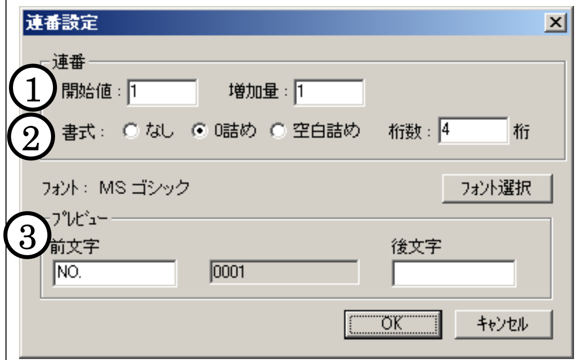


連番オブジェクトや連文字オブジェクトを作成・編集します。これらのオブジェクトは、短冊プリントなどの面付けプリントを行った際に自動的に文字が差し替わって印刷されるオブジェクトです。

⇒「第１３章　短冊プリント」参照

■　連番作成

連番オブジェクトの作成を行います。



①開始値・増加量

連番の開始値と面付け枚数ごとの増加量を入力します。

例えば､開始値が 10 で増加量が 2 の場合､面付け枚数ごとに｢10｣→「12」→「14」と変化します。

②書式

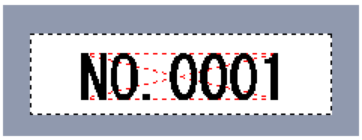
数字の書式を指定します。

例えば、「0 詰め」「4 桁」の場合「12」という数字は「0012」という文字になります。

③前文字・後文字

連番部分の前や後に固定の文字を加える場合、入力します。

＜作成イメージ＞

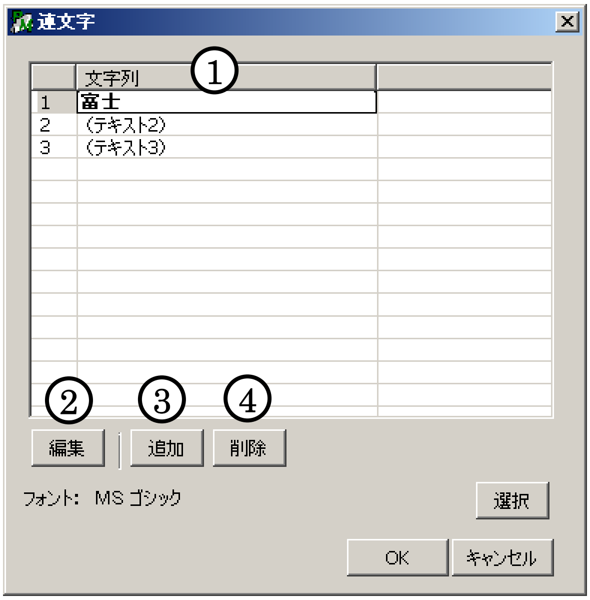


■　連番編集

連番オブジェクトの編集を行います。

■　連文字作成（新規）

連文字オブジェクトの作成を行います。



HINT

文字リストの文字をダブルクリックしても文字が編集可能な状態になります。

①文字リスト

文字の一覧が表示されます。

②編集

文字リストで文字を選択し、このボタンをクリックすると文字が編集可能な状態になります。

③追加

文字を追加します。

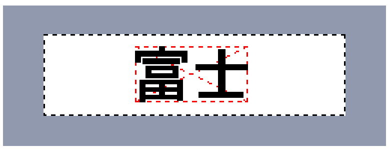
文字を選択した状態でこのボタンをクリックすると選択した文字の前に文字が挿入されます。

文字を選択していない状態でこのボタンをクリックすると一番最後に文字が追加されます。

④削除

文字を選択した状態でこのボタンをクリックすると選択した文字が削除されます。

＜作成イメージ＞



HINT

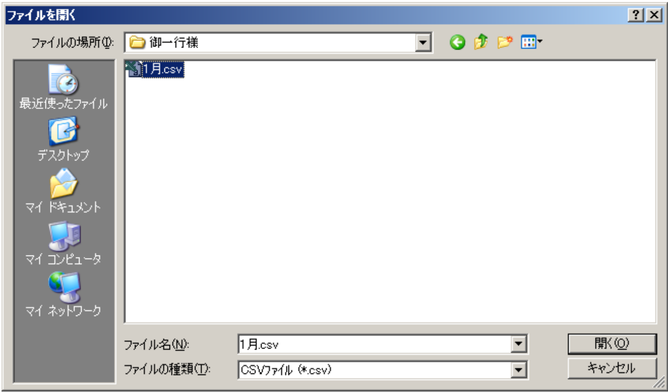
CSV ファイルは Microsoft Excel 等のソフトで作成することができます。

■ 連文字作成（CSV より）

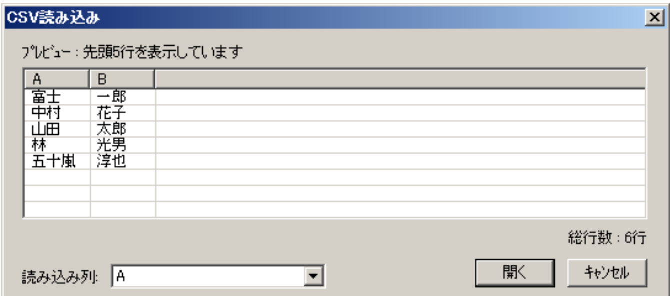
CSV ファイルから連文字オブジェクトを作成します。

操作手順

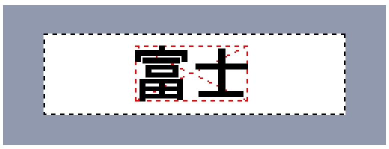
1. 『ファイルを開く』ダイアログボックスが開きます。
   CSV ファイルを選択し、【開く】をクリックします



2. 『CSV 読み込み』ダイアログボックスが開きます。
   「読み込み列」に読み込む列を選択し、【開く】をクリックします



3. 連文字オブジェクトが作成されます。

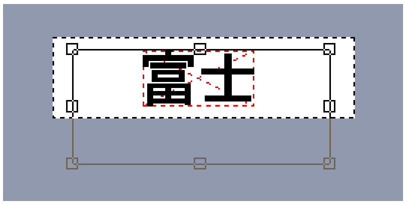


■　連文字編集

連文字オブジェクトの編集を行います。

■　連番文字枠の編集

連番・連文字オブジェクトを配置するための枠の編集をします。



HINT

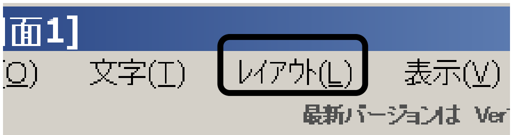
連番文字枠に対しての文字のレイアウト方法（右図では「中づめ」）は『文字』フローティングウィンドウで行うことができます。

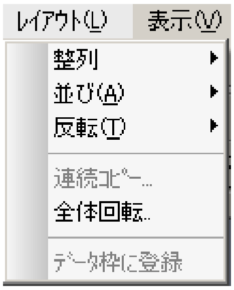
⇒「第 2－1 章 13. 文字」参照

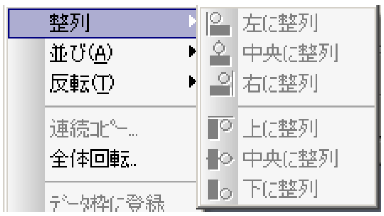
第 2 部

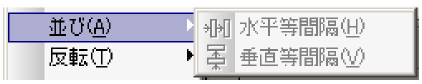
第 6 章
レイアウトメニュー

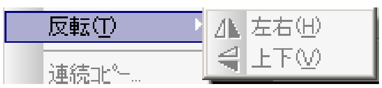
整列、並び替えなどオブジェクトの
レイアウトを行います。



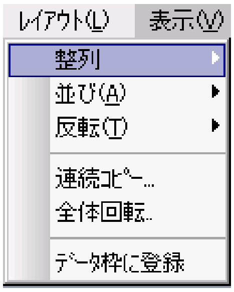








1　整列

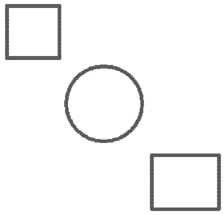


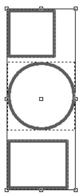
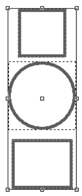
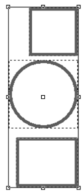
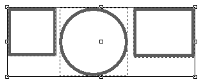
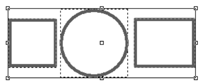
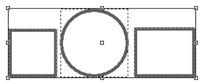
MEMO

「右に整列」を選択すると、選択されたオブジェクトのうち、一番右にあるオブジェクトの右端に揃えて整列します。

整列コマンドでは、複数のオブジェクトを横軸または縦軸に沿うように揃えて配置します。整列させる複数のオブジェクトを選択し、コマンドを実行します。

整列コマンド実行前



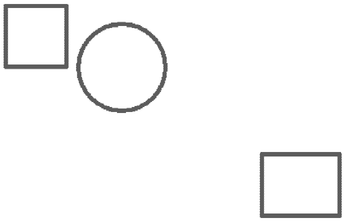
左に整列	中央に整列	右に整列
		
上に整列	中央に整列	下に整列
		

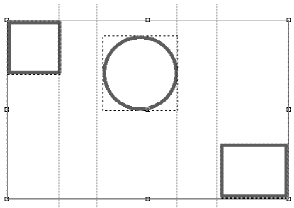
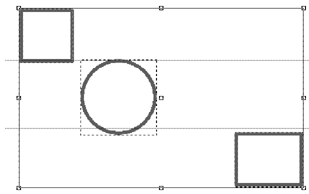
2 並び



並びコマンドでは、複数のオブジェクトの間隔を縦横、等間隔に揃えて配置します。

並びコマンド実行前

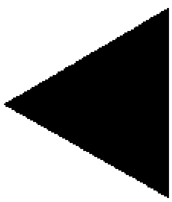
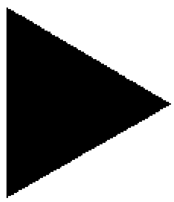


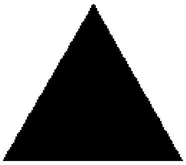
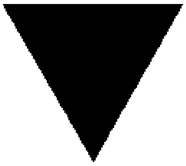
水平等間隔	垂直等間隔
	

3 反転

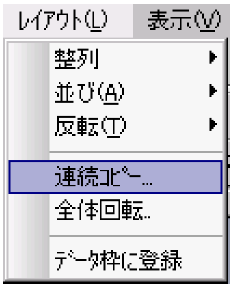


オブジェクトを左右又は上下方向に反転させます。反転させるオブジェクトを選択し、コマンドを実行して下さい。

反転前	左右反転した場合
	

反転前	上下反転した場合
	

4 連続コピー

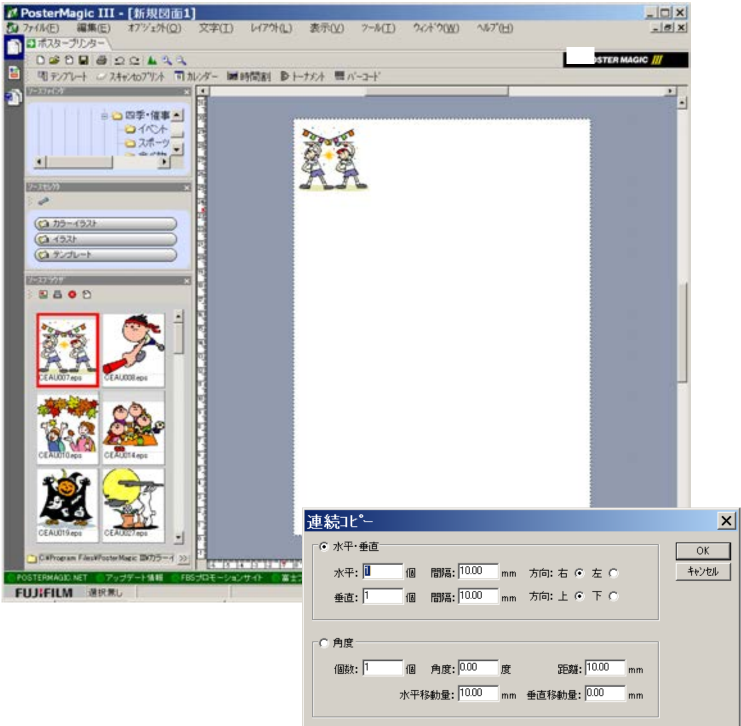


選択したオブジェクトを連続でコピーします。オブジェクトを選択し、コマンドを実行すると『連続コピー』ダイアログボックスが表示されます。
ここで縦・横のコピー数、または間隔を設定します。

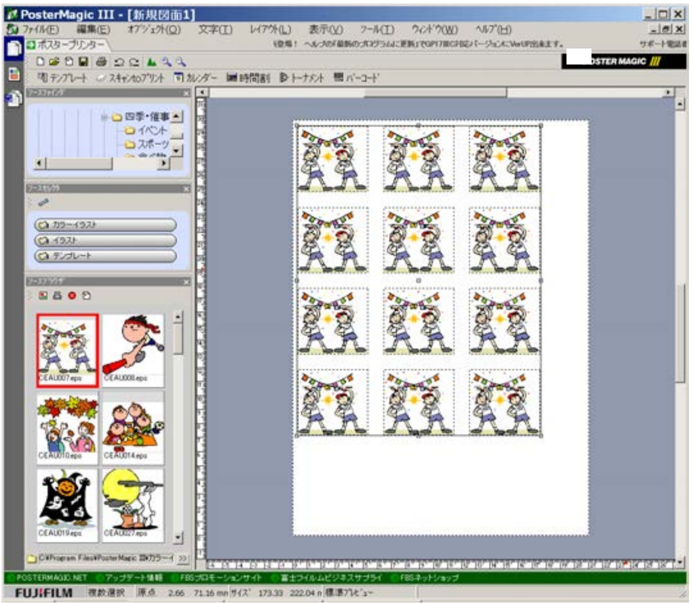


①水平・垂直
水平、垂直それぞれにコピーする個数、コピーするオブジェクトの間隔を設定します。
また、上下左右、どの方向に連続コピーをするかにチェックを入れます。
②角度
任意の角度の方向に連続コピーを実行します。
コピーする個数、角度、移動量等を設定します。

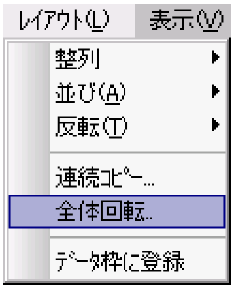
連続コピー実行前の図面



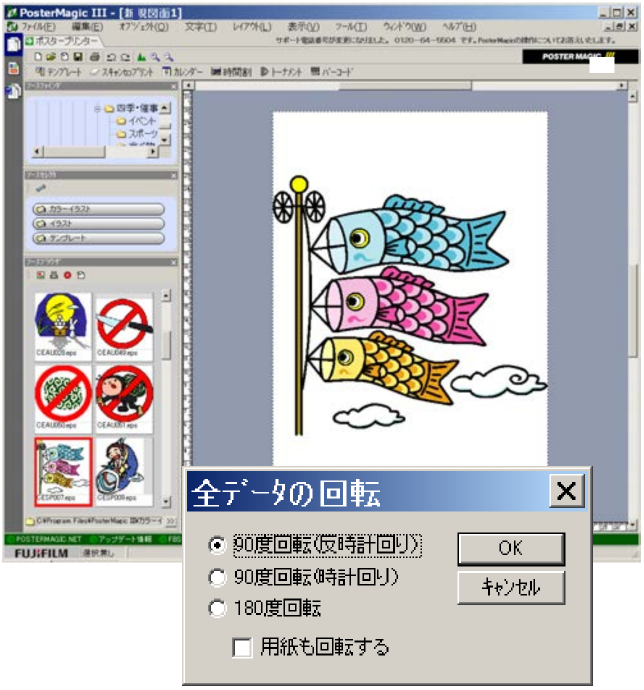
連続コピー実行後の図面

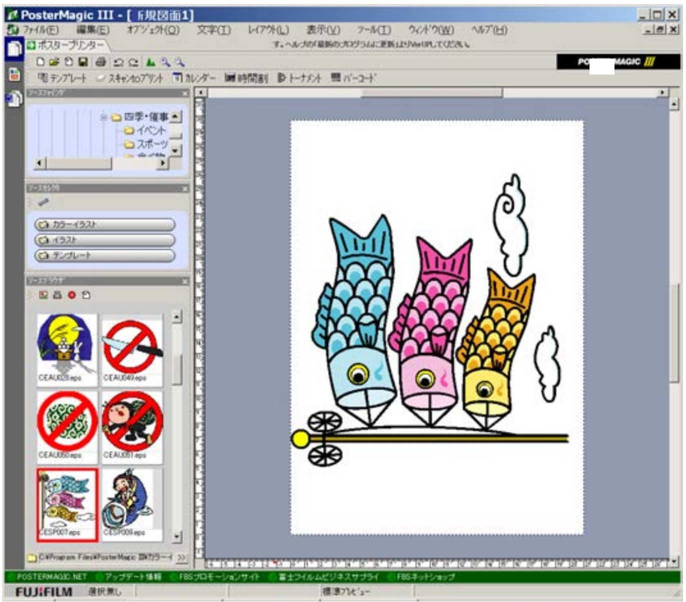


5　全体回転



このコマンドを実行すると、図面全体が回転します。
回転角度を指定するほか、用紙全体もオブジェクトと同様に回転させることができます。





6　データ枠に登録



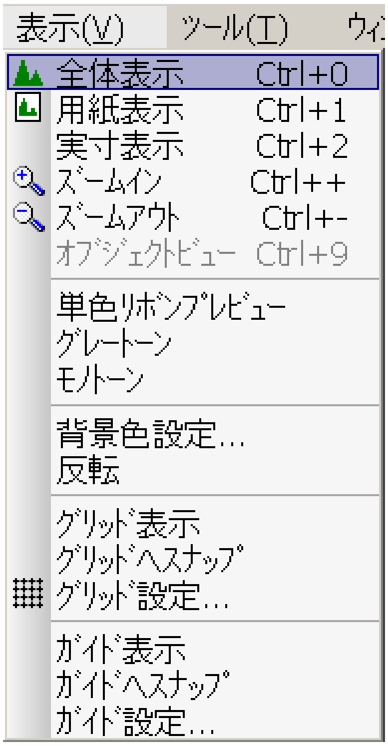
このコマンドは、選択したオブジェクトをデータ枠に登録します。
データ枠に登録することによって、レイアウト BOX でのデータ枠の範囲が設定されます。

第 2 部

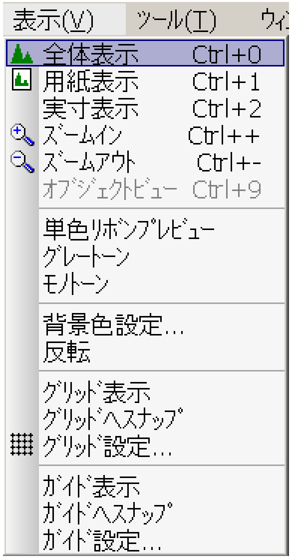
第 7 章
表示メニュー

編集の際、作業しやすいように画面の表示方法を設定します。設定が解除されているかどうかは、項目の左にチェックが入っているかどうかで判断することができます。



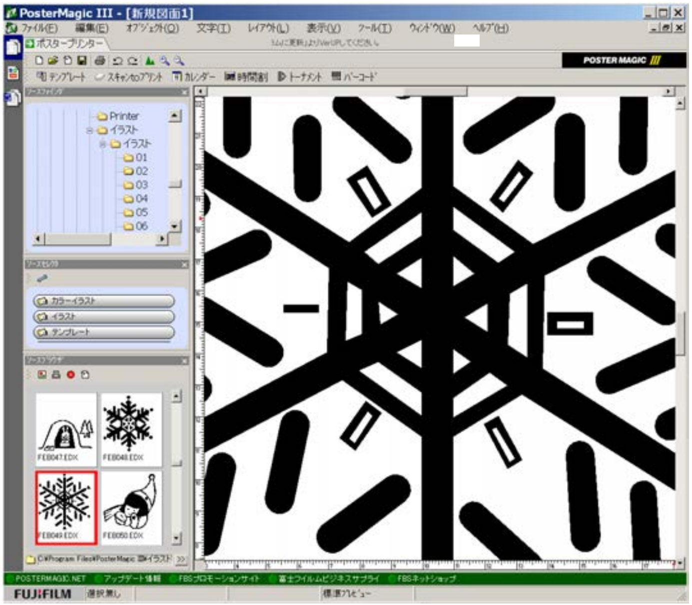


1 全体表示

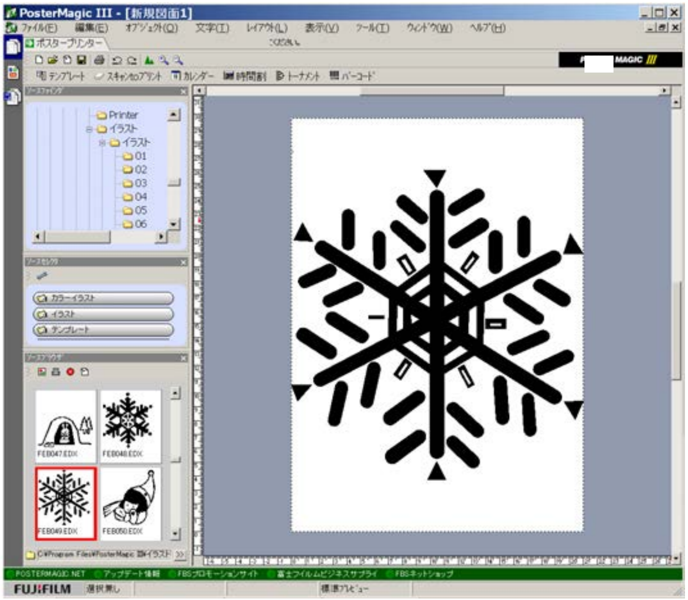


全体表示
ショートカットキーは
Ctrl + 0

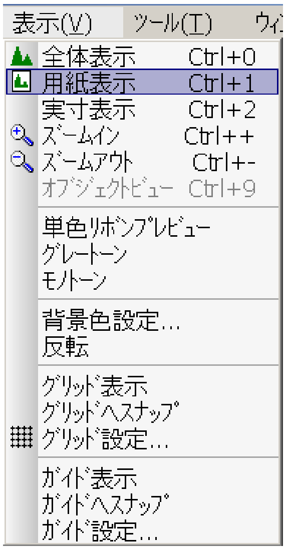
ズームインをして図面の一部しか表示されていない場合、またズームアウトで図面を縮小して表示されている場合に、このコマンドで図面上にあるデータ全体を表示させます。



全体表示後の図面

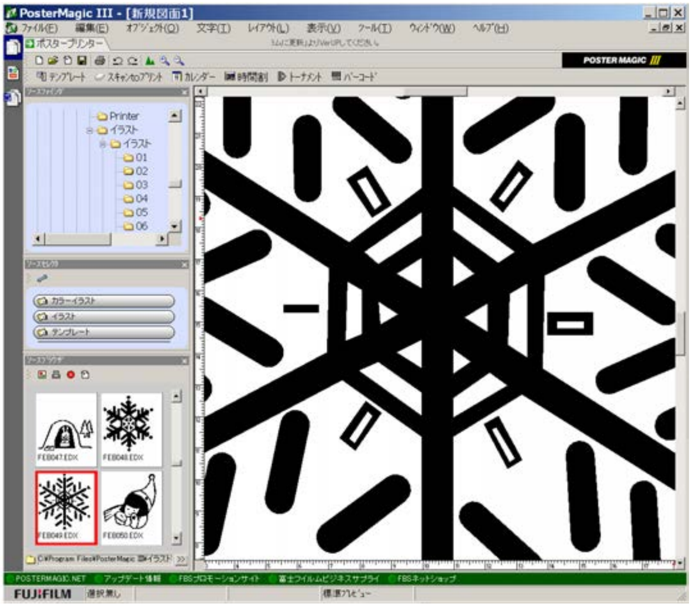


2 用紙表示

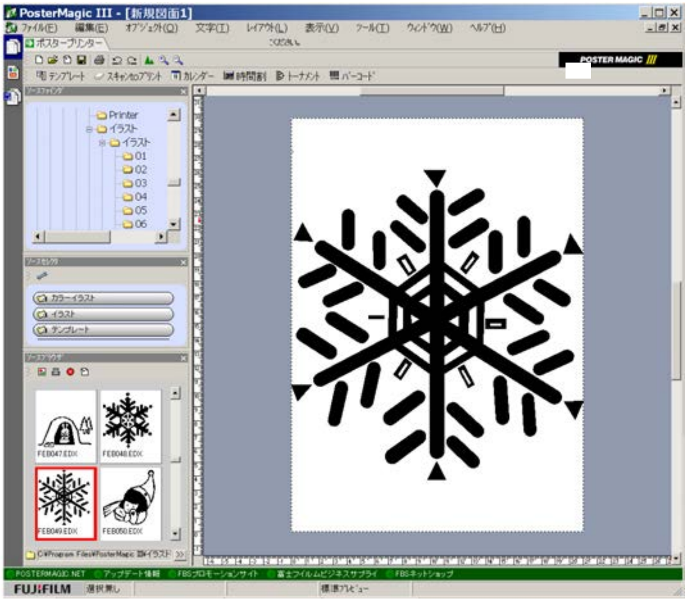


用紙表示
ショートカットキーは
Ctrl ＋ 1

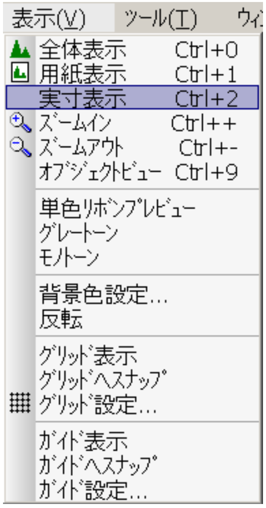
ズームインをして図面の一部しか表示されていない場合、またズームアウトで図面を縮小して表示されている場合に、このコマンドで用紙全体を表示させます。



用紙表示後の図面

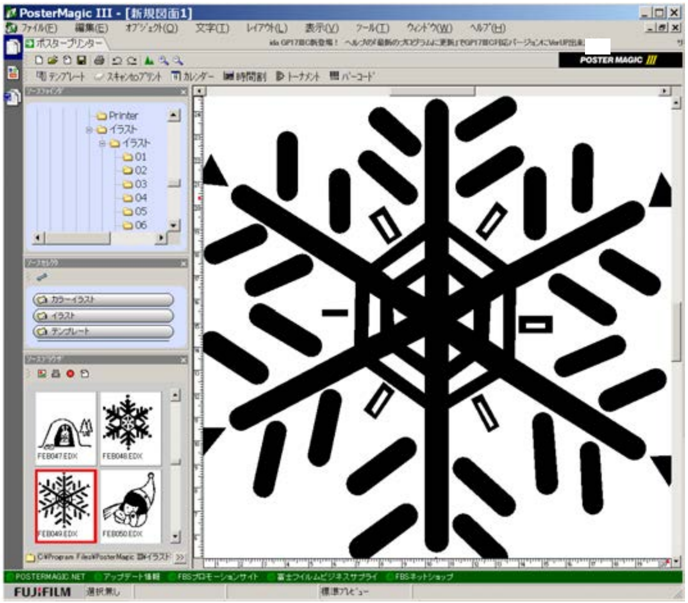


3 実寸表示

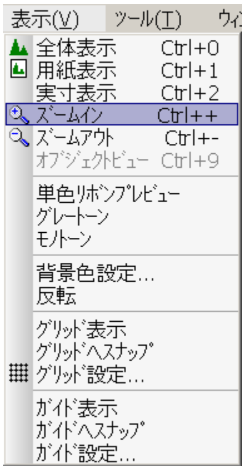


実寸表示
ショートカットキーは
Ctrl ＋ 2

図面上の表示を実寸サイズでの表示に切り替えます。



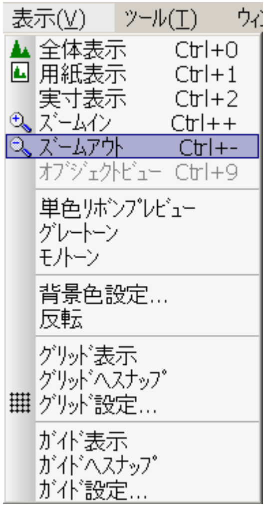
4 ズームイン



ズームイン
ショートカットキーは
Ctrl ＋ ＋

画面全体を拡大表示します。
細密な箇所の編集・作成の時には、こちらのズームイン機能で必要な箇所を拡大表示すると効率よく作業をすることができます。

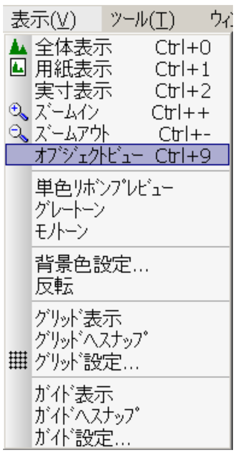
5 ズームアウト



ズームアウト
ショートカットキーは
Ctrl ＋ －

図面全体を縮小表示します。
全体的な仕上がりを確認しながら編集・作成をする時には、こちらのズームアウト機能で全体的に縮小表示すると効率よく作業をすることができます。

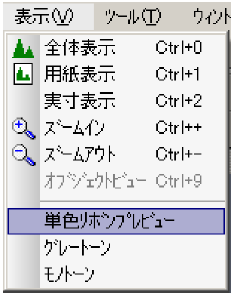
6 オブジェクトビュー



オブジェクトビュー
ショートカットキーは
Ctrl ＋ 9

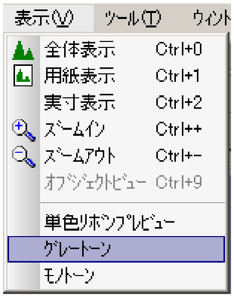
選択したオブジェクトを拡大表示します。
選択したオブジェクトの編集を中心に行う時には、このオブジェクトビューで表示すると目的のオブジェクトを中心に拡大表示され、効率よく編集することができます。

7　単色リボンプレビュー



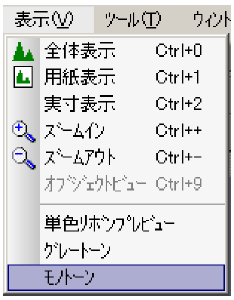
POSTER PRINTER PRO36 で、単色リボンを使用する場合は、『単色の設定』ウィンドウで特別な色として PosterMagic 内で設定し、印字します。
POSTER PRINTER PRO36 での印字等のミスを軽減させるために、印字前に正しくリボン用のパレットで色づけできているかどうかを画面上で確認するための機能です。

8　グレートーン



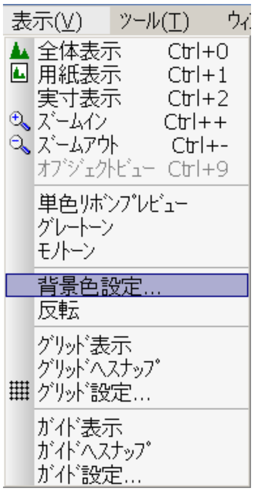
オブジェクトを 256 階調のグレートーンに変更します。
このコマンドは、図面にある全てのオブジェクトを対象に実行されるため、オブジェクトを選択しておく必要はありません。
このコマンドは、POSTER PRINER シリーズで出力する場合におすすめです。

9　モノトーン



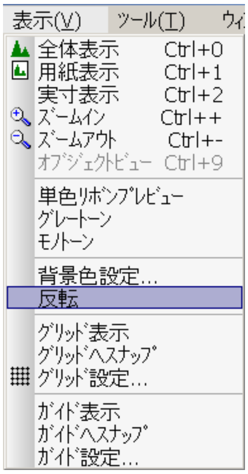
オブジェクトを白・黒の 2 値表示に変更します。
このコマンドは、図面にある全てのオブジェクトを対象に実行されるため、オブジェクトを選択しておく必要はありません。
このコマンドは、POSTER PRINTER シリーズで出力する場合におすすめです。

10 背景色設定



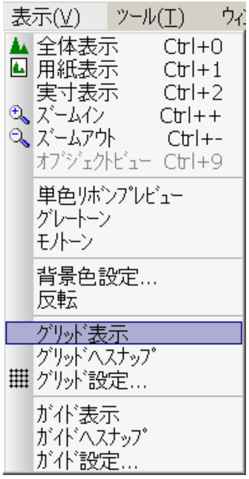
図面の背景色を設定します。

11 反転



図面上の全ての色をモノトーンに変換してから、色を反転します。

12　グリッド表示

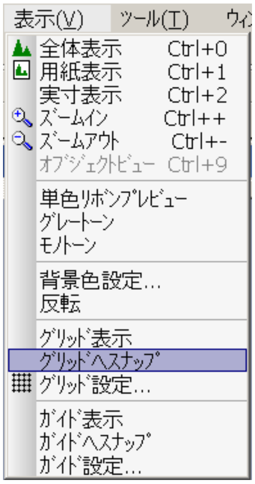


MEMO

グリッドサイズ・表示の際の形状は、[表示]－[グリッド設定]にて行います

図面上にグリッドの表示・非表示の切り替えをここでおこないます。チェックが入っている時は、グリッドが表示されます。

13　グリッドへスナップ

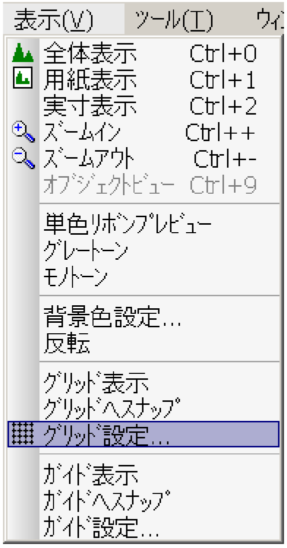


MEMO

グリッドサイズの設定は、[表示]－[グリッド設定]にて行います

グリッドへスナップをＯＮにすると、オブジェクトを編集する際、オブジェクトの移動先やコピー先をグリッドに吸い付けて配置することができ、レイアウト作業を容易にします

14　グリッド設定

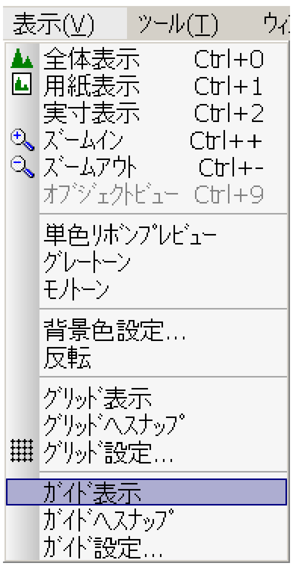


このコマンドでは、グリッドの設定を行います。



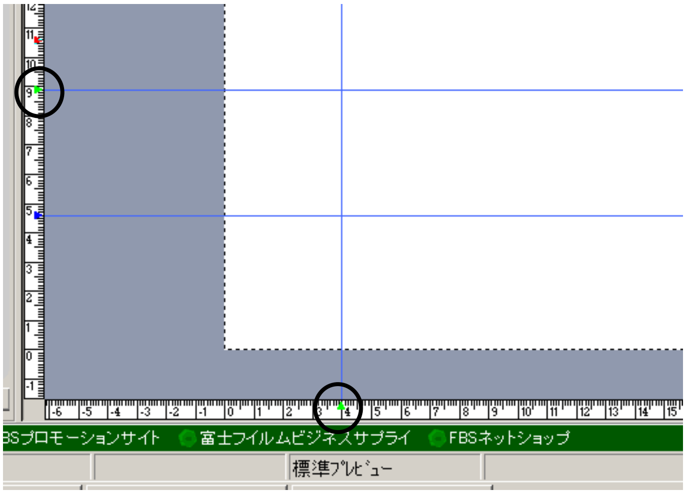
①グリッドを表示
チェック ON の場合、グリッドを表示します。
②グリッドへスナップ
チェック ON の場合、グリッドへスナップを有効にします。
③オプション
グリッドを表示する際のグリッドの形状、グリッドのサイズ、色を設定します。

15　ガイド表示

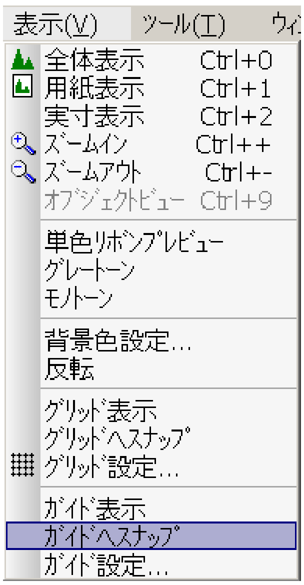


オブジェクトを図面上で整列するには、グリッドを使用する方法と、ガイドを作成して表示する方法があります。
グリッドは、均等に表示されるのと比べ、ガイドは縦、横それぞれ任意の場所に設定することができます。

ガイドの表示は、スケールの上にマウスを乗せると▲が表示されるので、任意の場所でクリックします。
削除する場合は、▲をつまみ、スケールの外にドラッグすると削除されます。
また、ガイドの位置を変更する際は▲をドラッグし、任意の場所に移動します。

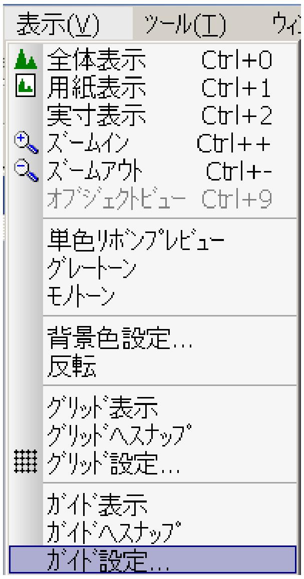


16 ガイドへスナップ

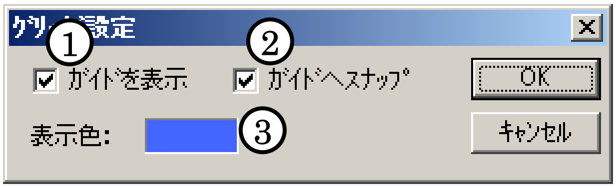


ガイドへスナップをＯＮにすると、オブジェクトを編集する際、オブジェクト配置位置をスナップにあわせて配置されます。

17 ガイド設定



ガイドの色などを設定します。



①ガイドを表示

チェック ON の場合、グリッドを表示します。

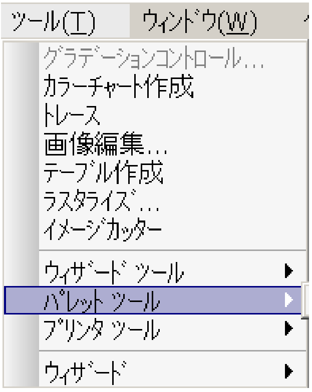
②ガイドへスナップ

チェック ON の場合、グリッドへスナップを有効にします。

③表示色

ガイドの色を設定します。

10 パレットツール



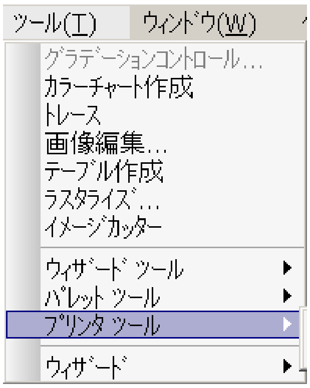
■　**ダウンロード**

パレットの最新データをダウンロードします。



目的のパレットをダブルクリックするとダウンロードが開始されます。ダウンロードしたパレットは「パレット」ウィンドウの「パレット選択」ボタンから選択することができます。

11 プリンタツール

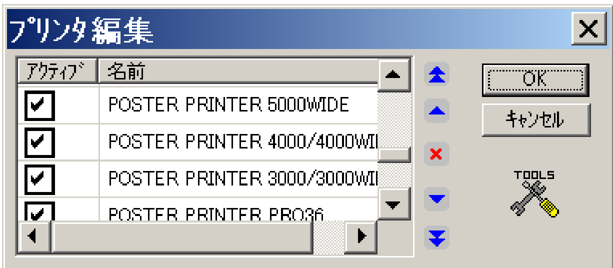


MEMO

編集画面に Kaleida が表示されますが、PosterMagic Ⅲでは Kaleida は使用できません。

■　**編集**

表示順の変更等プリンタの表示に関する設定を行います。



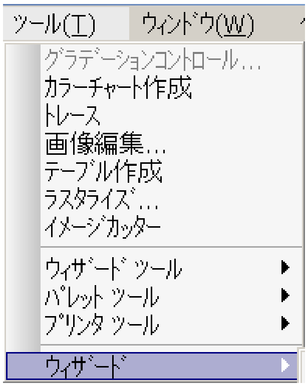
アクティブのチェックを外したプリンタは「プリント」画面などに表示されるプリンタリストに表示されなくなります。矢印ボタンで表示順を変更できます。

×を押して削除したプリンタは[スキャン]を行い、再び表示させることができます。

■　**スキャン**

削除したプリンタなどを探し、表示させます。

12 ウィザード

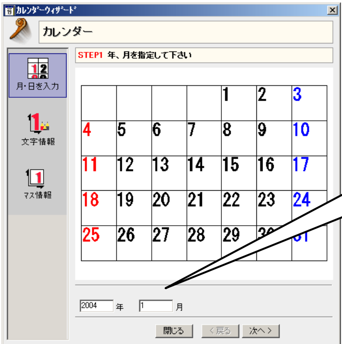


STEP に従って進んでいくと図形の作成やプリントが簡単にできる機能です。

■　**カレンダー**

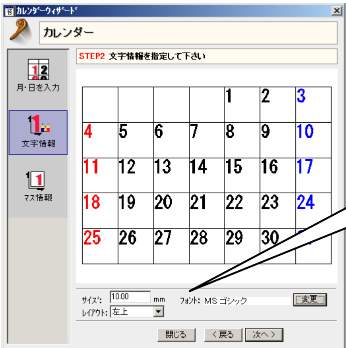
年月を指定するだけで、自動でカレンダーができあがります。

(STEP 1)



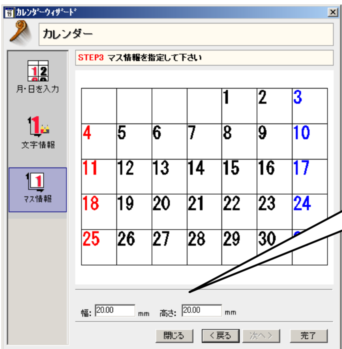
カレンダーを作成する年月を入力します。

(STEP 2)



日付の文字サイズ・フォント・配置位置を設定します。

(STEP 3)

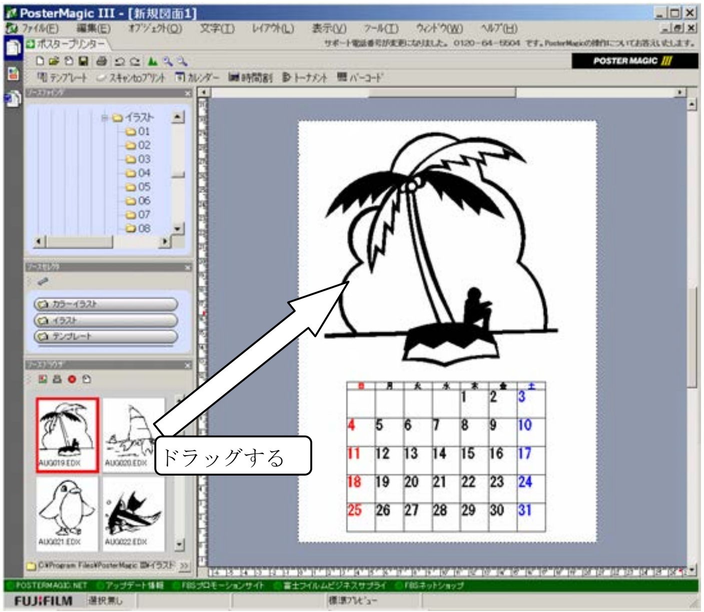


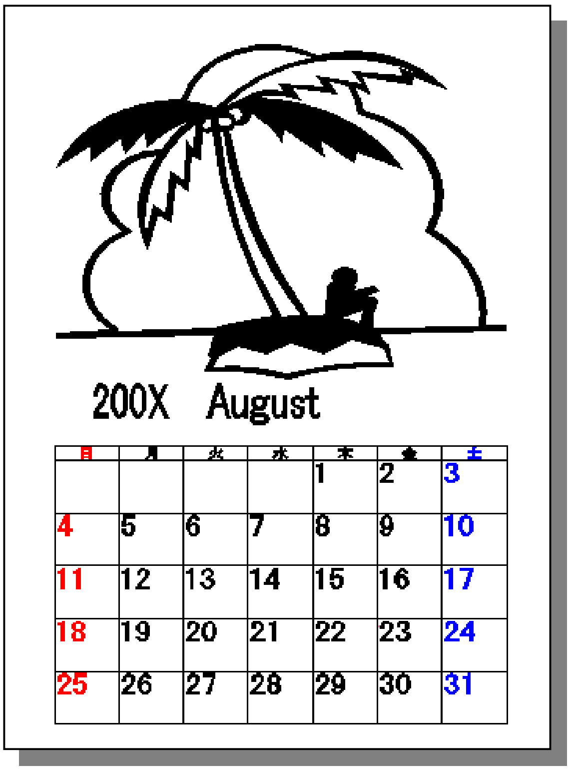
マス目の幅、高さを入力し、【完了】ボタンをクリックします。

注 意

数値を入力する際には、半角数字にて入力してください。

ウィザードでカレンダーを作成したら、あとは画像等をレイアウトしてオリジナルカレンダーを作成してください。





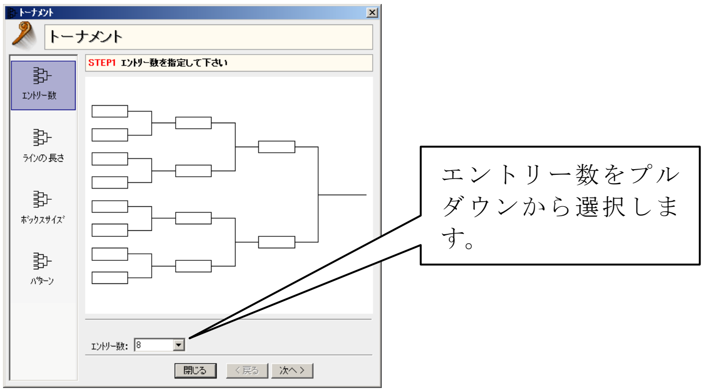
■　**トーナメント**

エントリー数を設定して、トーナメント表を作成します。

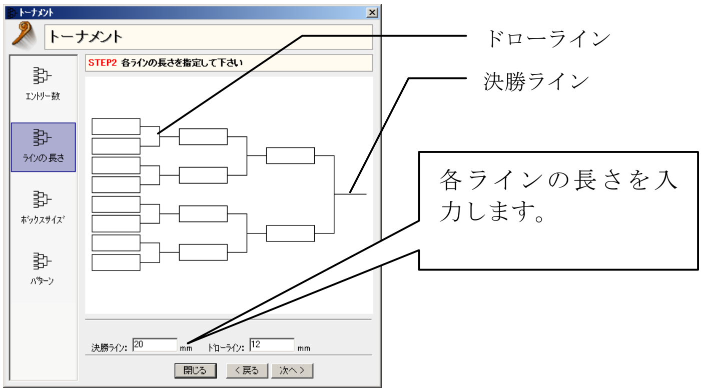
注意

数値を入力する際には、半角数字にて入力してください。

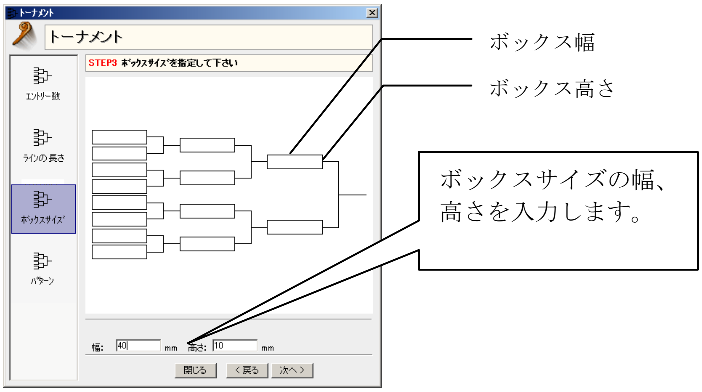
(STEP 1)



(STEP 2)



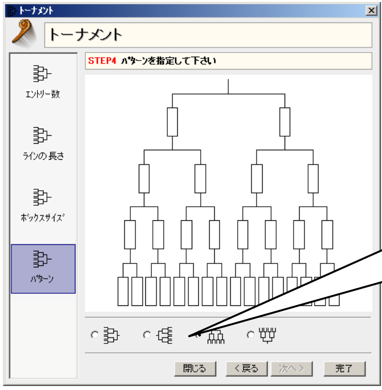
(STEP 3)



⚠ 注意

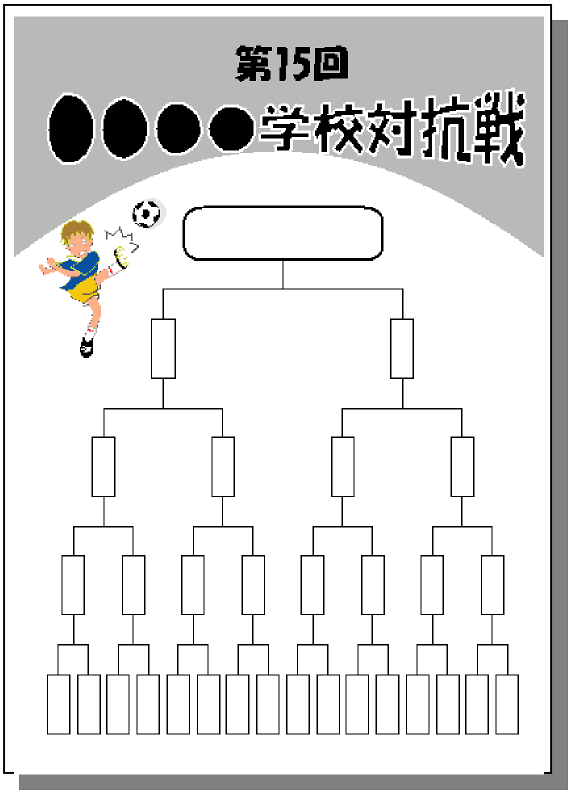
数値を入力する際には、半角数字にて入力してください。

(STEP 4)



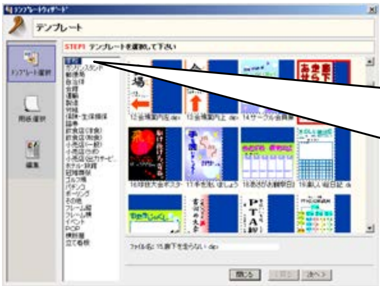
トーナメントのパターンを選択し、【完了】ボタンをクリックします。

ウィザードでトーナメント表を作成したら、あとは画像や試合タイトル等をレイアウトしてください。



■　テンプレートウィザード

(STEP1)



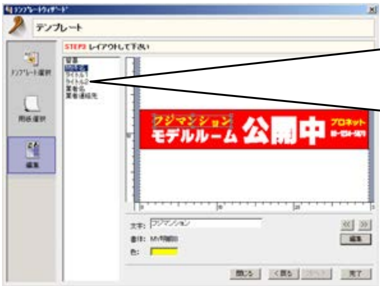
カテゴリーを選択すると右のプレビュー画面に登録されているテンプレートが表示されるので、テンプレートを選択します。

(STEP2)



出力する用紙、用紙の向き等を選択します。

(STEP3)



編集する部品を選択し、文字列、色、書体等を変更します。
細かい編集を行う場合は、【編集】ボタンをクリックします。

MEMO

選択した部品によって表示される編集ウィンドウが異なります。

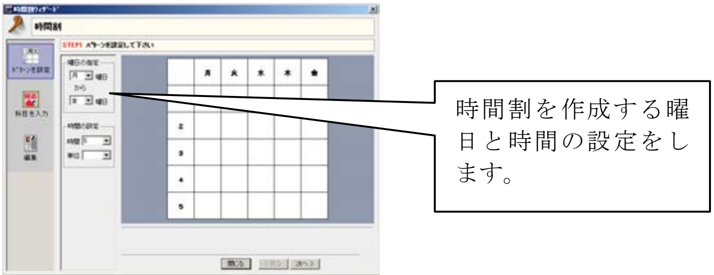
(完成)



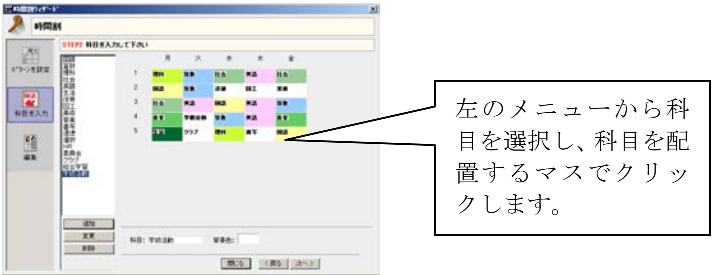
■　時間割ウィザード

曜日と時間を設定したら、あとは科目を貼り付けるだけで時間割表ができあがります。

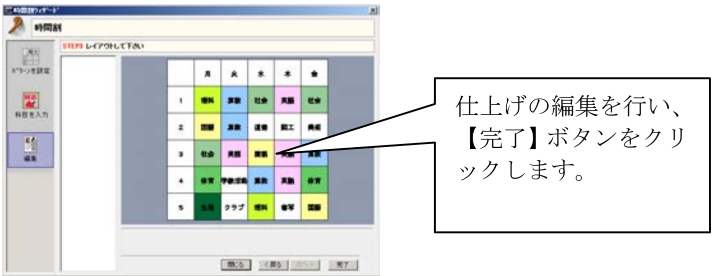
(STEP1)



(STEP2)



(STEP3)



ウィザードでトーナメント表を作成したら、あとは画像や試合タイトル等をレイアウトしてください。

(完成)



	月	火	水	木	金
1	理科	算数	社会	英語	社会
2	国語	算数	道徳	図工	美術
3	社会	英語	国語	英語	算数
4	体育	学級活動	算数	英語	体育
5	生活	クラブ	理科	書写	国語

■　バーコードウィザード

バーコードの種類とコードを入力するだけでバーコードができあがります。

(STEP1)



バーコードの種類を選択します。

(STEP2)



バーコードのコード文字列を入力します。

(STEP3)



バーの高さ設定、又はフォントを変更したら【完了】をクリックします。

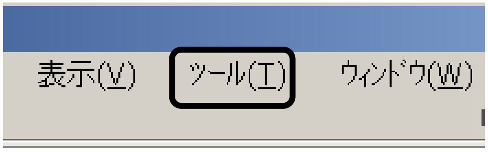
(完成)

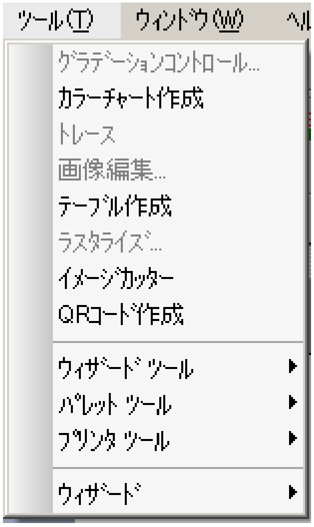
4 912345 678904

第 2 部

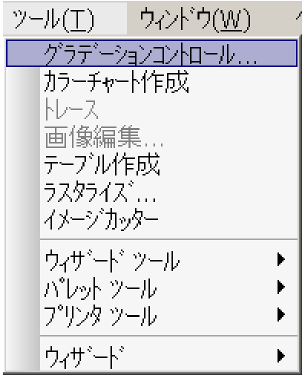
第 8 章
ツールメニュー

グラデーションコントロールから簡単にオブジェクトを作成するツール、ウィザードなど、編集の手助けツール群です。



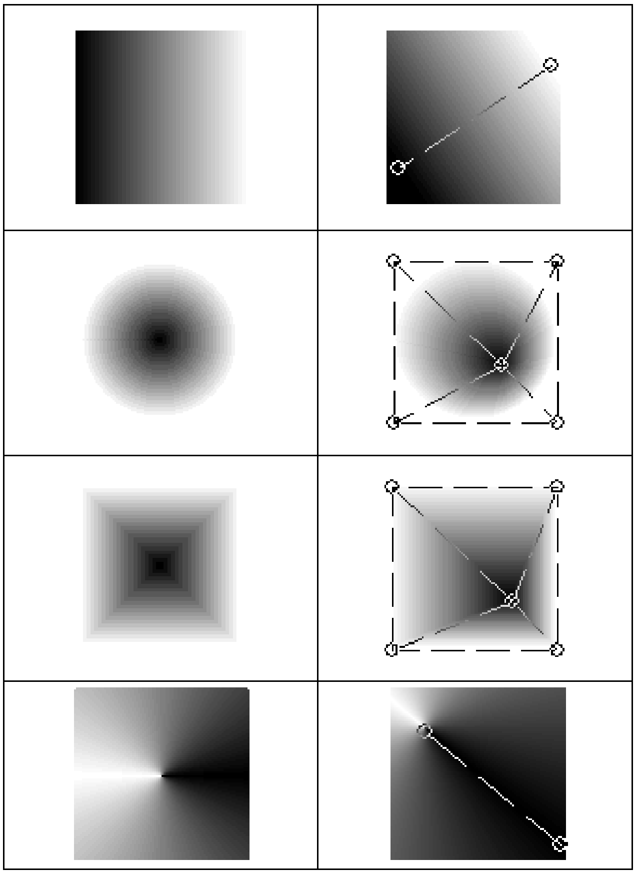


1 グラデーションコントロール

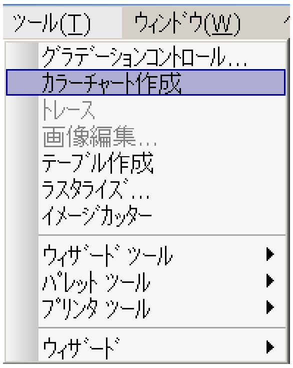


グラデーションの角度、長さ等をコントロールします。
グラデーション設定のされたオブジェクトを選択し、コマンドを実行してください。
グラデーションをコントロールするラインが表示されますので両端の○を任意の角度、長さになるようにドラッグしてください。

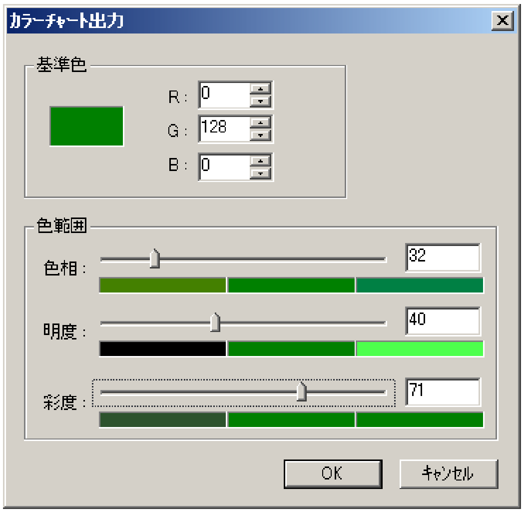
グラデーションの種類によってコントロールのラインが異なります。



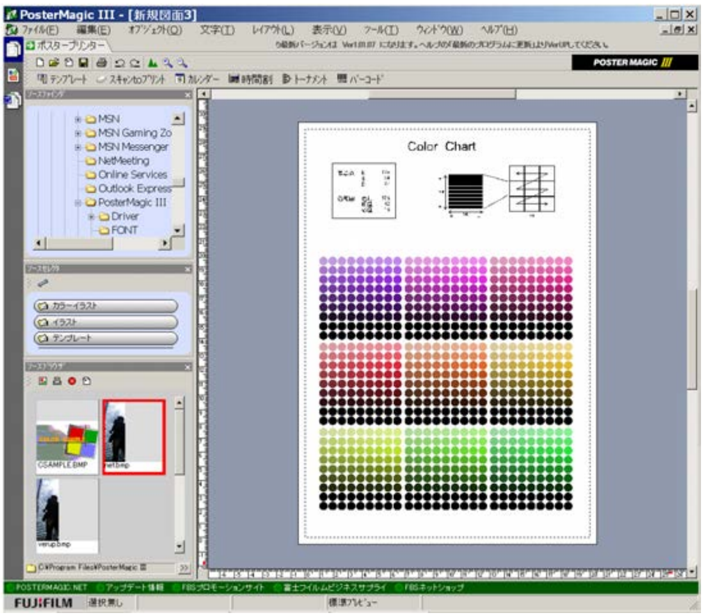
2 カラーチャート作成



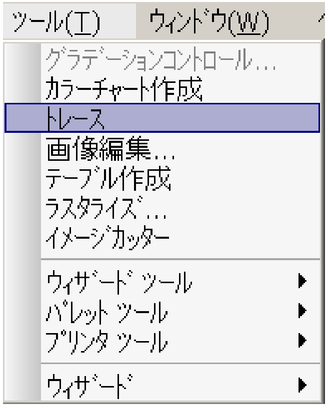
このコマンドは、目的の出力カラーを探すためのツールです。
カラーチャートを作成する基準の色を選択し、コマンドを実行すると『カラーチャート』出力ダイアログボックスが表示されます。
色相、明度、彩度を設定し【ＯＫ】をクリックします。



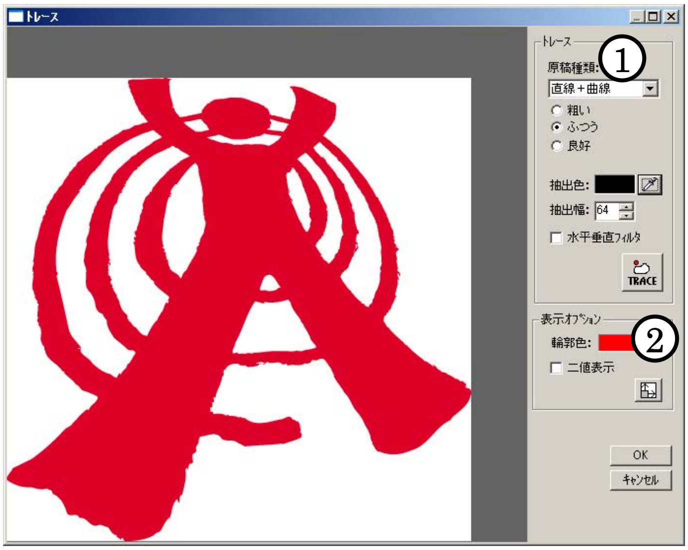
中央の四角がもとになる基準色です。近似色から目的の色を見つけ出し、RGB を変更してください。



3　トレース



このコマンドは、画像オブジェクトをトレースしてベクトルデータ（アウトライン）に変換します。をクリックしてコマンドを実行します。コマンド実行後は、ベクトル修正を行うことができます。



①トレース

・原稿種類

原稿種類を選択します。これを元に、より原稿に忠実なベクトルデータを作成します。をクリックすると原稿リストが表示されます。

・原稿粗さ

原稿の粗さを選択します。ベクタライズを実行する原稿の品質に応じて原稿荒さを選択します。

・抽出色

２値化するための抽出色を指定します。カラーボックスをクリックし、プレビュー上にマウスを移動するとカーソルが現れます。抽出する色をクリックします。

・抽出幅

色を抽出する際、許容幅を設定します。数値が大きいほど指定色からの抽出範囲が広くなります。

・水平垂直フィルタ

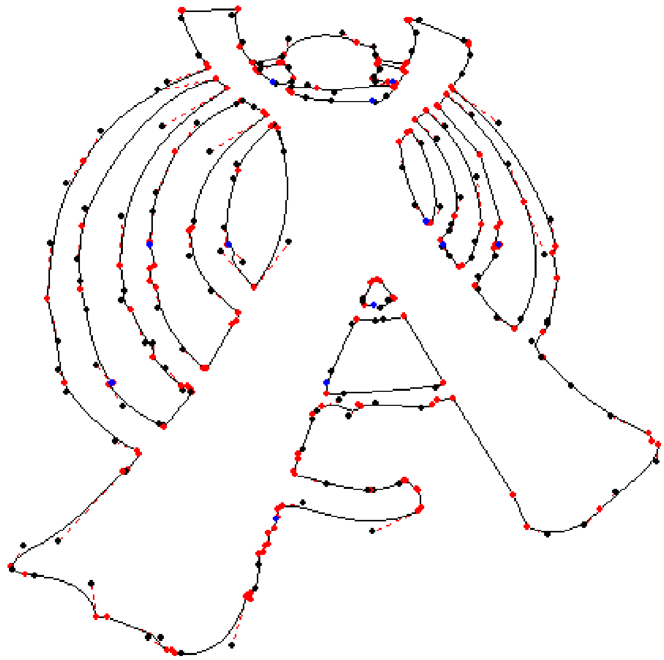
チェック ON の場合、水平（垂直）に極めて近いデータを自動的に水平（垂直）になるように調整します。

②表示オプション

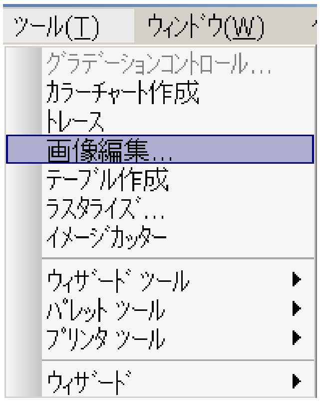
・　輪郭色

　トレース実行後の輪郭色を指定します。

トレース後の画像オブジェクトは、下図のようにベクトル修正ができるように変換されます。



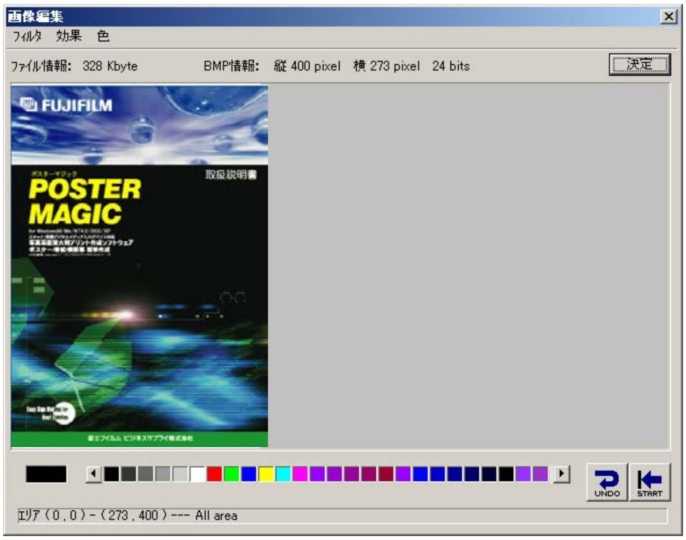
4　画像編集





画像の一部を編集する場合には、プレビュー画面にてマウスをドラッグし、編集範囲を指定して下さい。

画像データに様々な質感や風合いを加える機能です。このコマンドは、画像データにのみ有効となります。



『画像編集』ダイアログボックスの上部にあるプルダウンメニューから編集作業を選択します。

■　**フィルタ**

エッジ強調
ぼかし
ノイズ除去

■　**効果**

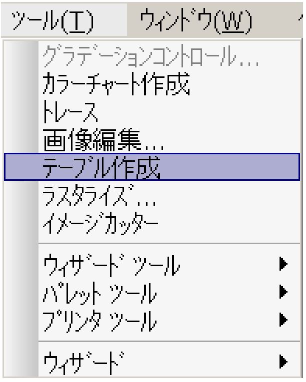
エンボス効果
モザイク処理
フェードアウト
トリミング

■　**色**

コントラスト強調
ネガポジ効果
モノクロ画像
彩度強調
ガンマ補正
色補正

また、画像処理には、次のやり直し機能があります。
・アンドゥ：１つ作業前の状態に戻ります。
・スタート：全く作業をする前の状態に戻ります。

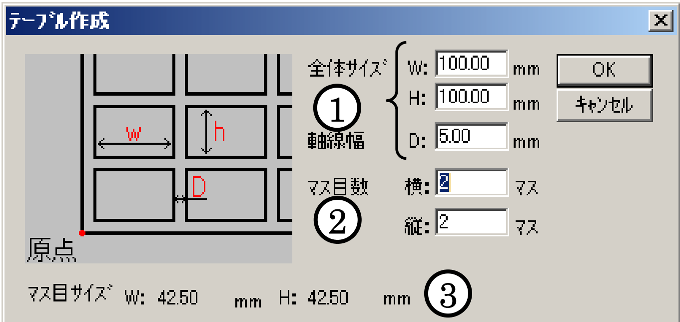
5　テーブル作成



軸線幅・マス目数等を設定すると自動的に表組・罫線を作成することができます。

1. 作成する表組のサイズを指定すると、『テーブル作成』ダイアログボックスが表示されます。
2. マス目数を横･縦それぞれ指定し【ＯＫ】をクリックします。

※このときＷ・Ｈ・Ｄを手動指定すると全体サイズが変わります。



①全体サイズ・軸線幅

左図を参考に設定して下さい。数値を変更すると全体サイズも変わります。

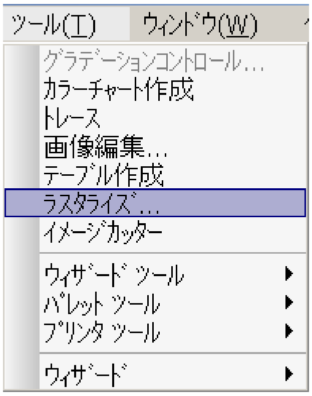
②マス目数

マス目数を設定してください。

③マス目サイズ

全体サイズ、マス目の数によって自動的に数値が変わります。

6　ラスタライズ

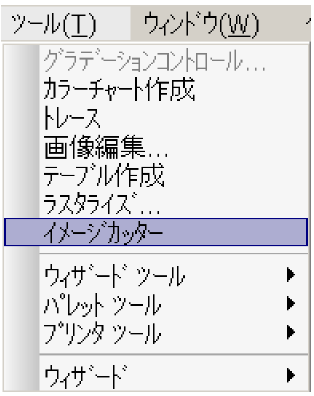


選択したオブジェクトをラスタライズし、ビットマップ画像を作成します。
下のダイアログボックスが表示されますので、ビットマップの解像度と、画像に付加する余白を指定して、【OK】ボタンをクリックして下さい。

※ラスタライズとは
画像の形式には、図形や文字で構成されたベクターデータと、点の集まりで構成されたビットマップデータがあります。ベクターデータのオブジェクトをビットマップデータに変換することをラスタライズといいます。

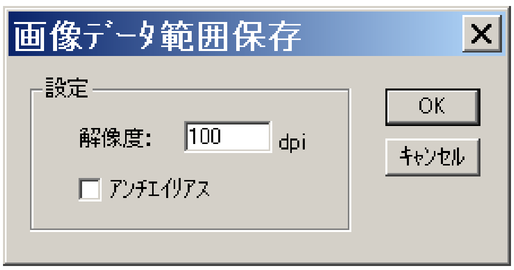


7　イメージカッター



指定した範囲内の画像をビットマップデータとして切り出します。

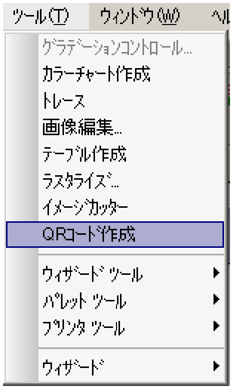
[イメージカッター]を選択すると、マウスカーソルがはさみの形に変わるので、ドラッグして範囲の指定をして下さい。
範囲指定が終わると下のダイアログボックスが出ますので、切り出す画像の解像度を指定して、【OK】ボタンをクリックして下さい。



MEMO

アンチエイリアスを使うと、画像が滑らかに表示されます。

8　QR コード作成



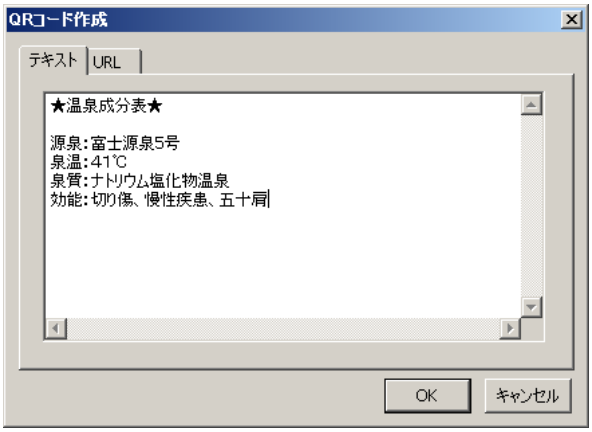
注意

入力する文字列が多すぎると、読み取りに失敗することがあります。
また、携帯電話の機種により読めない場合もあります。

QR コードを作成します。

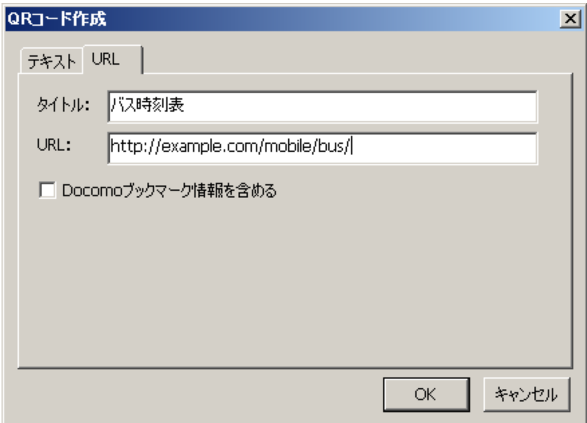
■　「テキスト」タブ

任意の文字列により QR コードを作成します。

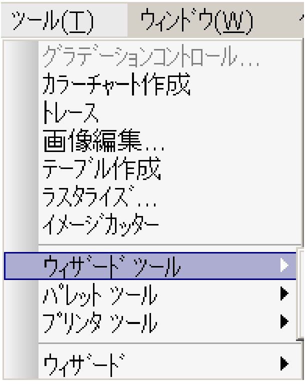


■　「URL」タブ

携帯のブックマークに登録しやすいデータの QR コードを作成します。



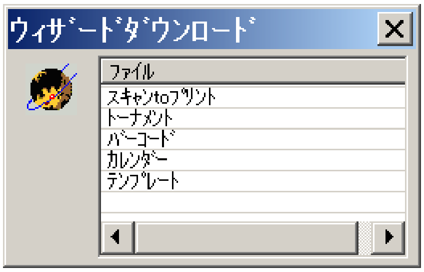
9　ウィザードツール



■　ダウンロード

インターネットを利用してウィザードの更新を行います。ユーザー登録をされたお客様は新しくリリースされたウィザードをご利用いただけます。

また、既存のウィザードのバージョンアップ更新等も行えます。



目的のウィザードをダブルクリックするとダウンロードが開始されます。

■　編集

表示順の変更など、ウィザードの表示に関する設定を行います。



アクティブのチェックを外したウィザードはウィザードバーに表示されなくなります。

矢印ボタンで表示順を変更できます。

×を押して削除したウィザードは[スキャン]を行い、再び表示させることができます。

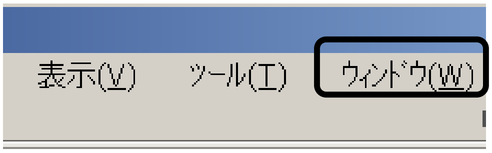
■　スキャン

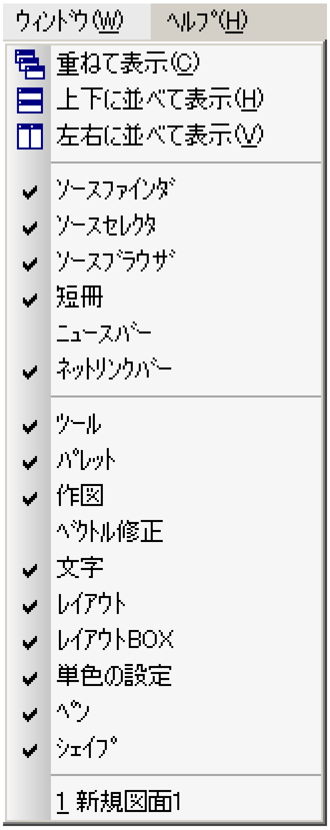
削除したウィザードなどを探し、表示させせます。

第 2 部

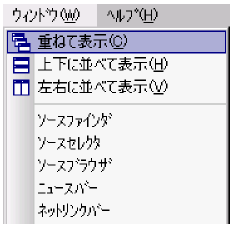
第 9 章
ウインドウメニュー

PosterMagic では、複数のウインドウを開いている場合、ウインドウの表示方法を変更したり、ツールメニューの表示・非表示を行うことができます。

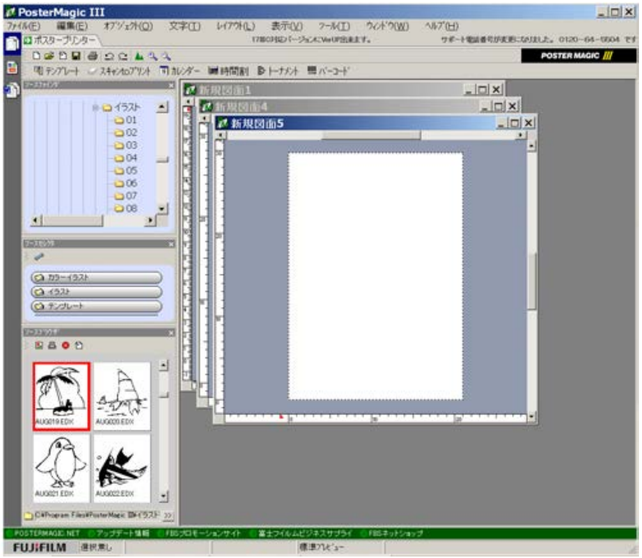




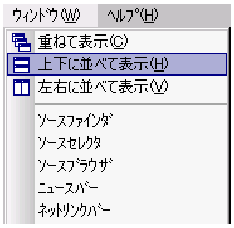
1 重ねて表示



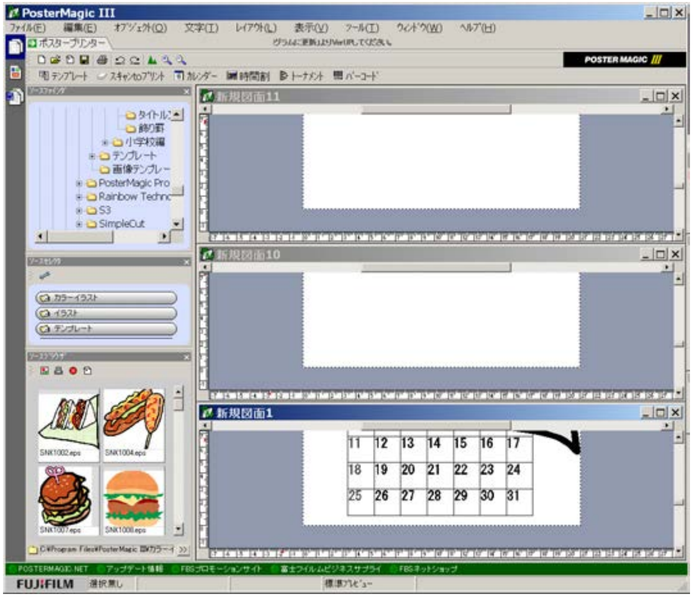
複数のウインドウを開いて作業している場合、このコマンドを実行すると開いているウインドウが同一サイズに変更され、重なり合って表示されます。



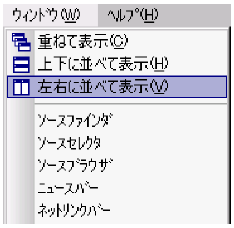
2 上下に並べて表示



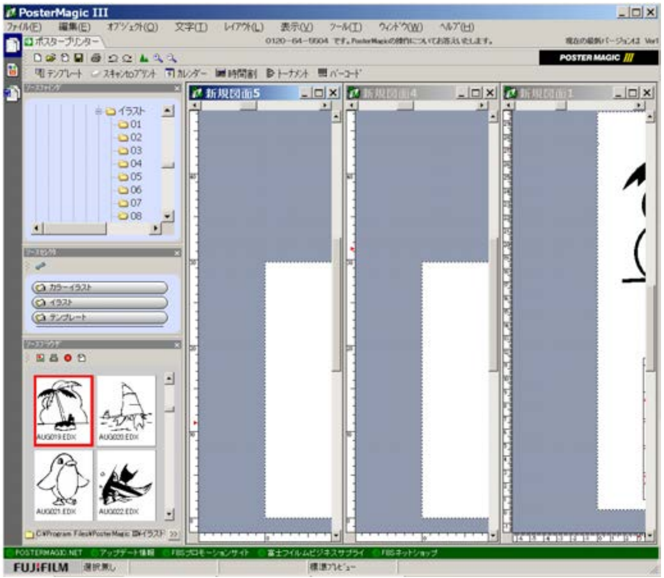
複数のウインドウを開いて作業している場合､複数ウインドウを同じ大きさに統一し、上下に並べて表示します。



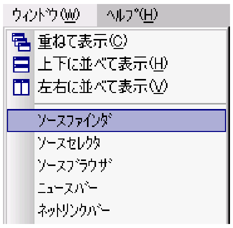
3　左右に並べて表示



複数のウインドウを開いて作業している場合、複数ウインドウを同じ大きさに統一し、左右に並べて表示します。



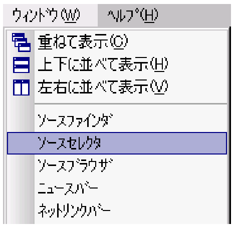
4　ソースファインダ



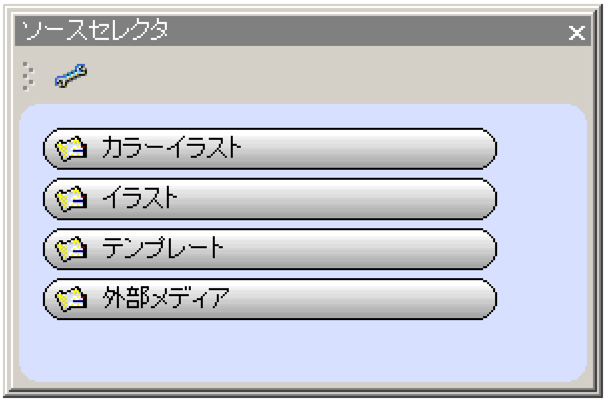
ソースファインダでは、ソースブラウザに表示させるフォルダを選択します。

⇒「第 2－1 章 6. ソースファインダ」参照
⇒「第 2－1 章 7. ソースブラウザ」参照

5　ソースセレクタ

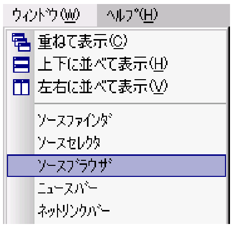


普段よく開くフォルダをソースセレクタに設定しておくと、素早くフォルダを開くことができ、作業効率が高まります。
チェック ON の場合、ソースセレクタが表示されます。
⇒「第 2−1 章 5. ソースセレクタ」参照



ソースセレクタのボタンをクリックすると、あらかじめ割り付けられているフォルダがソースファインダに表示され、ファイルがソースブラウザに一覧表示されます。

6　ソースブラウザ

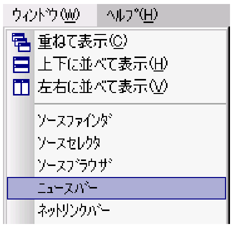


ソースファインダで選択したフォルダ内を表示します。
ここで表示されるファイル形式は、jpg・jpeg・bmp・tif・dgx・edx・ai・eps です。
⇒「第 2−1 章 7. ソースブラウザ」参照

7　短冊

⇒「第 2−1 章 17. 短冊」参照

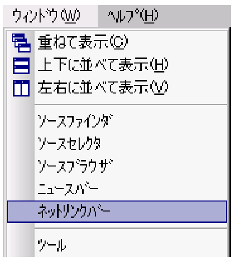
8　ニュースバー



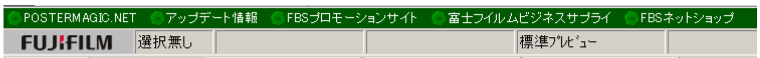
インターネットを利用した最新の情報が画面上にスクロール文字にて流れます。



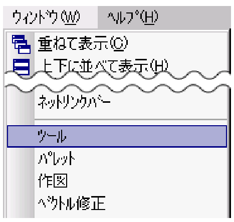
9　ネットリンクバー



インターネットを利用したネットリンクバーの表示、非表示を設定します。



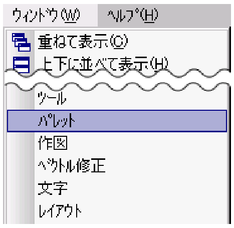
10　ツール



ツールには、オブジェクト編集などで使用頻度の高いコマンドが割り当てられています。

⇒「第 2－1 章 8. ツール」参照

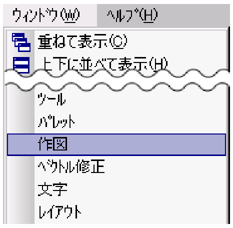
11 パレット



オブジェクトの塗り込み又は線色を設定します。数値で指定するか、カラーパレットから任意の色をクリックして選択します。

⇒「第 2－1 章 12. パレット」参照

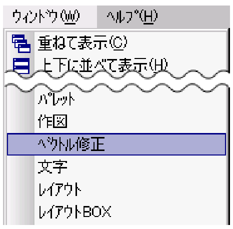
12 作図



四角やベジェ曲線など、図形を作成します。任意の図形をクリックし、作図をします。

⇒「第 2－1 章 9. 作図」参照

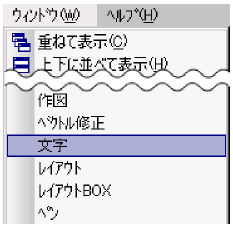
13 ベクトル修正



ベクトルデータの修正をします。
画像をベクトル修正する時は、[トレース]コマンドを実行し、アウトライン化することにより、ベクトル修正が可能となります。

⇒「第 2－1 章 11. ベクトル修正」参照

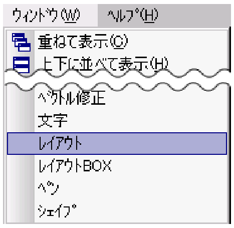
14 文字



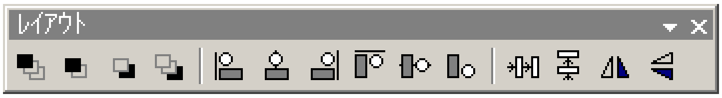
図面に文字を入力します。

⇒「第 2−1 章 13. 文字」参照

15 レイアウト

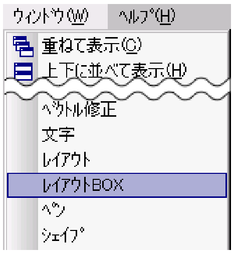


整列・並び・反転・上下重ねなど、いろいろなレイアウトを行うときに使用します。

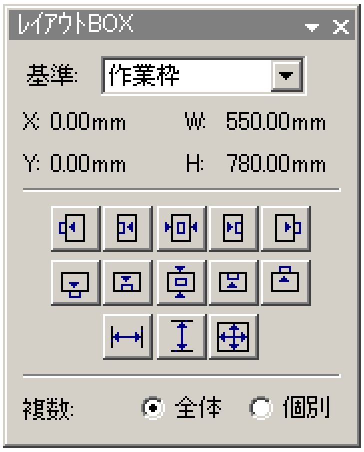


⇒「第 2−1 章 10. レイアウト」参照

16 レイアウト BOX

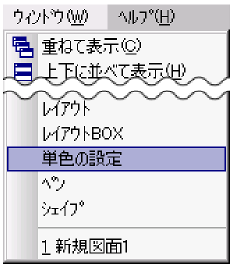


選択したオブジェクトを基準枠に沿ってレイアウトします。

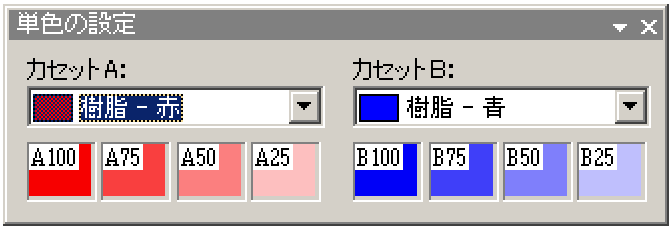


⇒「第 2−1 章 15. レイアウト BOX」参照

17 単色の設定



PosterMagic では、POSTER PRINTER PRO36 専用の機能として『単色の設定』を行うことができます。





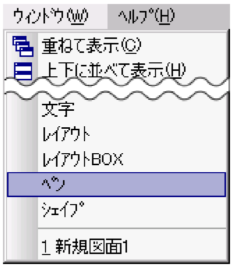
カセットＡとカセットＢに同じ種類のリボンを選択することはできません。

【操作手順】

1. 『単色の設定』ダイアログボックスで、カセットＡ、Ｂにおいて使用するリボンの種類を選択します。

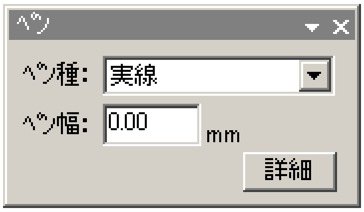
2. をクリックしてリボンを選択します。

18 ペン

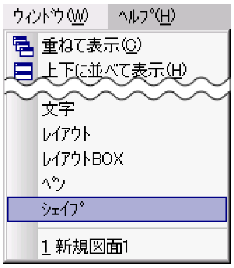


ペン種、ペン幅など、線種の設定を行います。
【詳細】ボタンをクリックすると『ペン』ダイアログボックスが表示されます。

⇒「第 2－4 章 9. [オブジェクト編集]－[線種の変更] 」 参照



19 シェイプ



32 種類のパターンから変形処理を選択し実行します。



MEMO

一度変形させた図形を別のパターンで再度変形させる場合は、アンドゥで元に戻してから行って下さい。

①変形率
変形率を指定します。

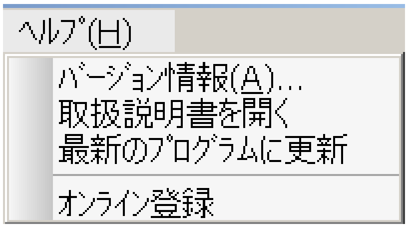
②パターン
32 種類の変形パターンがあります。選択したパターンで変形します。

第 2 部

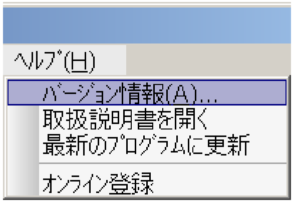
第 10 章
ヘルプメニュー

PosterMagic のユーザー登録やバージョン情報の表示を行います。ユーザー登録をされたい方は、お早めにユーザー登録をお願いいたします。



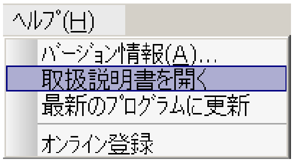


1 バージョン情報



お使いの PosterMagic のバージョン情報を表示します。サポート電話をご利用の際には、このバージョン情報をあらかじめ調べてからお電話をお願いします。

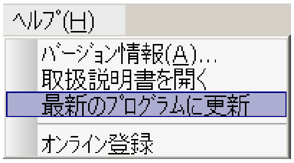
2 取扱説明書を開く



PosterMagic の取扱説明書（PDF ファイル形式）を見ることができます。

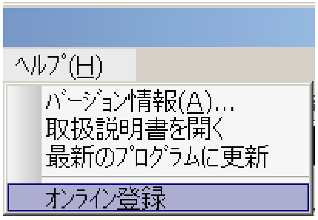
※PDF ファイルを開くには、AdobeReader などのソフトがインストールされている必要があります。

3 最新のプログラムに更新



PosterMagic を最新版のプログラムに更新します。同時に、アップデート情報が載っている Web ページを、Web ブラウザから開きます。

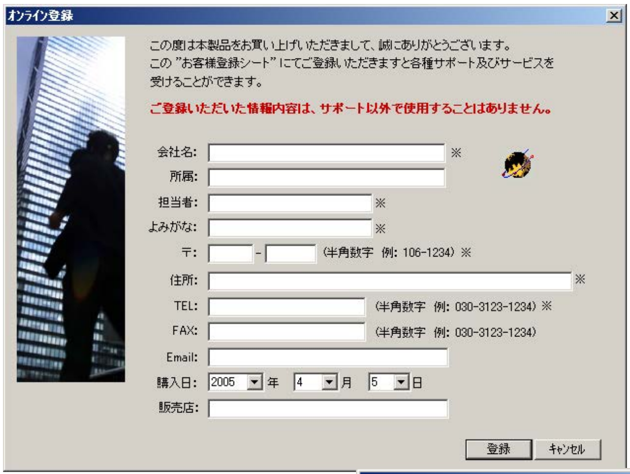
4　オンライン登録

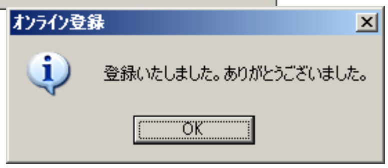


注意

オンライン登録の際は、インターネットに接続している必要があります。もしもインターネットに接続できない環境でのご利用の場合は、パッケージに同封されているＦＡＸ用紙に必要事項をご記入の上、ＦＡＸしていただく必要があります。

オンラインユーザー登録を行います。サポートを受けられる場合は、このユーザー登録が完了していないとサポートを受けることができませんので、あらかじめご登録ください。

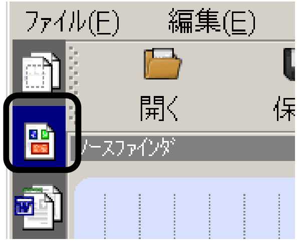


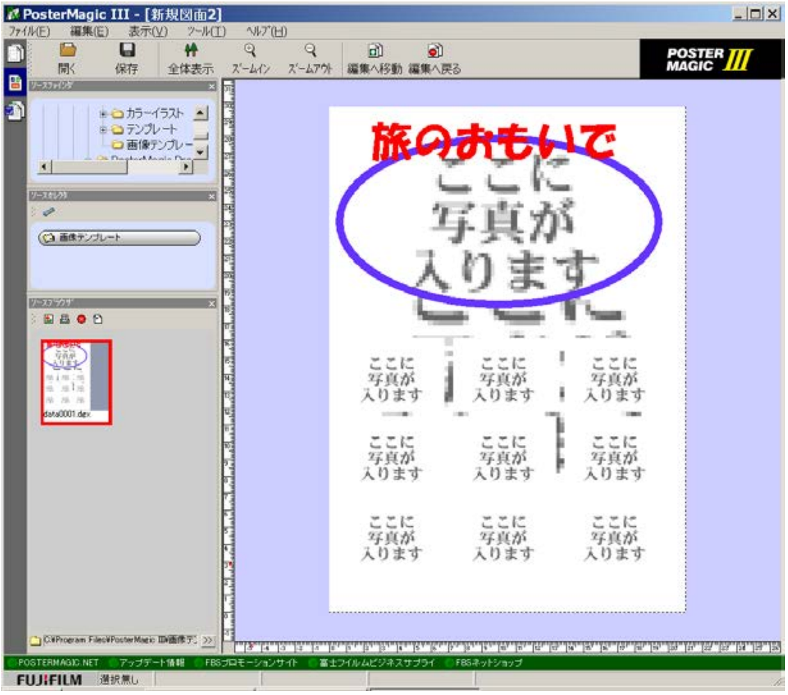


第 2 部

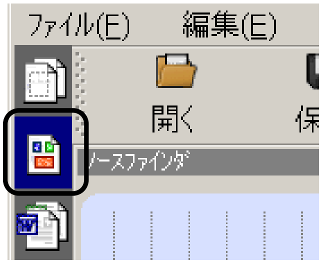
第 11 章
画像テンプレートモード

画像テンプレートの編集を行います。
テンプレート中の画像の変更や移動が簡単に行えます。

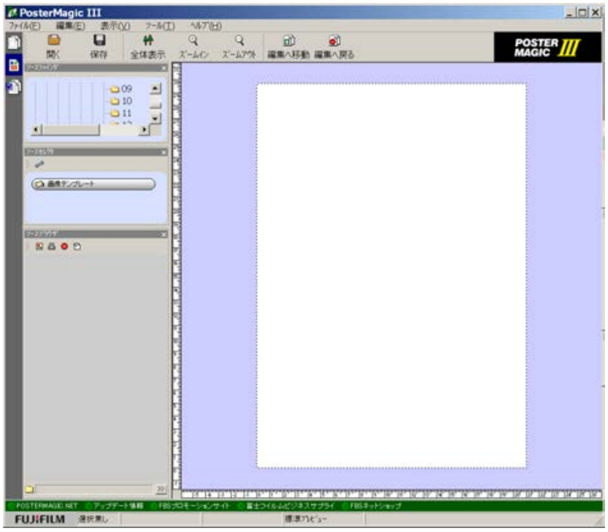




1　画像テンプレートモードを開く

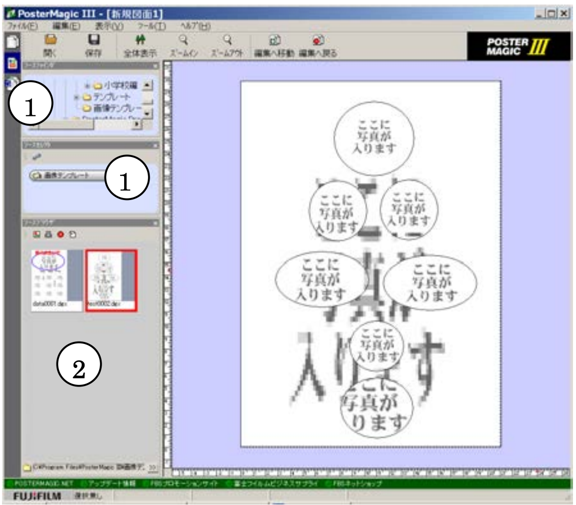


画面左にある操作モードタブの中から、画像テンプレートモードのアイコンをクリックします。
下のような画面が表示され、画像テンプレートモードに切り替わります。



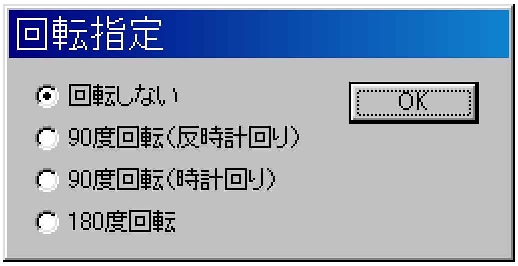
2　画像テンプレートを開く

①ソースセレクタ、もしくはソースファインダから画像テンプレートフォルダを選択します。
②ソースブラウザから、画像テンプレートをダブルクリックします。



3　画像をはめこむ

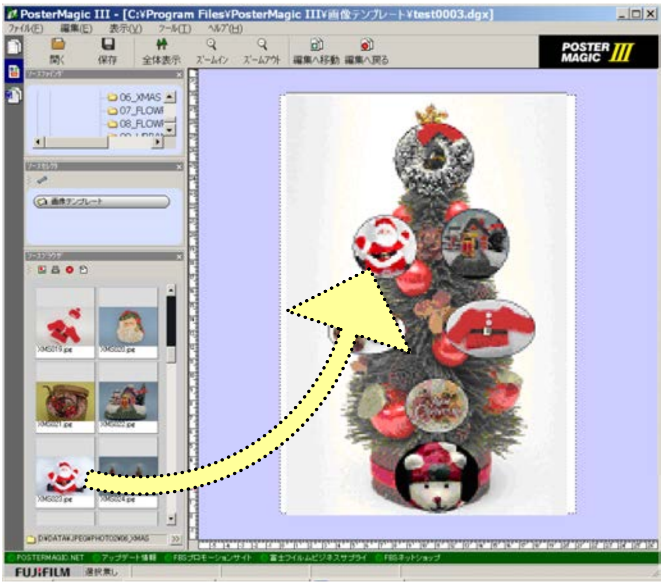
画像テンプレート上の各画像の部分に画像ファイルをドラッグ＆ドロップすると、次のダイアログが表示されますので、画像を回転する方向を選択してください。



HINT

画像の表示領域や画像自体を移動するときに、ステータスバーを参照すると判別しやすくなります。
（ステータスバーには、
表示領域は「図形」、
画像データは「画像」
と表示されます。）

[OK]ボタンをクリックすると、指定した角度に画像が回転されてはめこまれます。はめこんだ画像がマスクされて一部だけ表示される状態になります。画像の中の表示する領域と、画像自体の位置は移動することができます。



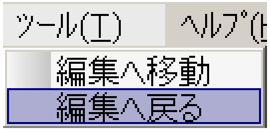
画像テンプレートモードにあるメニューのうち、「ファイル」「編集」「表示」「ヘルプ」は、これまで（第 2－1～10 章で）説明した機能の一部で構成されています。

4 編集モードに移動する



[ツール]—[編集へ移動]、もしくは[編集へ移動]アイコンから、画像テンプレートモードで編集中の画像をそのまま編集モードに貼り付けることができます。

5 編集モードに戻る



以下のいずれかの操作をすると、画像テンプレートモードの作業状態を保ったまま、編集モードに戻ります。

- [ツール]—[編集へ戻る]
- [編集へ戻る]アイコンをクリック

操作モードタブの編集モードアイコンをクリック

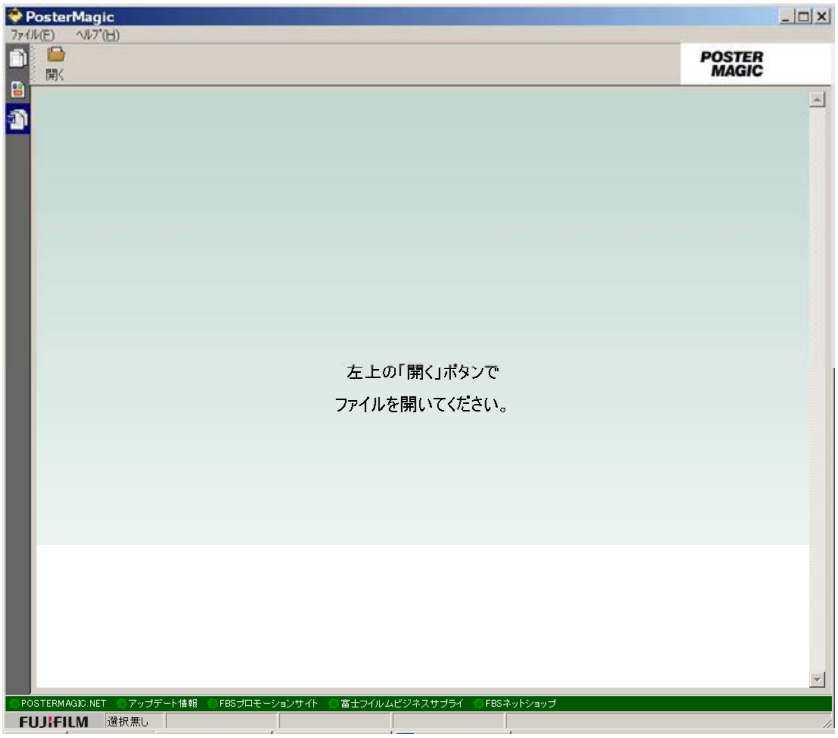
第 2 部

第 12 章
取り込みモード

Microsoft Word、Microsoft Excel のファイルからデータをコピーします。

※Word/Excel取り込みモードを使用するには、お使いのパソコンにWord/Excelがインストールされていることが必要となります。





1　取り込みモードを開く



取り込みモードを開く前に、Word,や Excel プログラムを実行している場合は、それらを終了しておいて下さい。また、取り込みモードを開いているときにそれらを起動しないようにして下さい。

画面左にある操作モードタブから、取り込みモードのアイコンをクリックします。
下のような画面が表示され、取り込みモードに切り替わります。



2 Word, Excel ファイルを開く

[ファイル]－[開く]、もしくは[開く]アイコンをクリックすると、『ファイルを開く』ダイアログボックスが表示され、ファイルを選択すると Word, Excel ファイルが開きます。

※WordやExcelが別ウィンドウで開く等、ソフト内にWord/Excelファイルが開けない場合は、下記のいずれかの方法で開いてください。

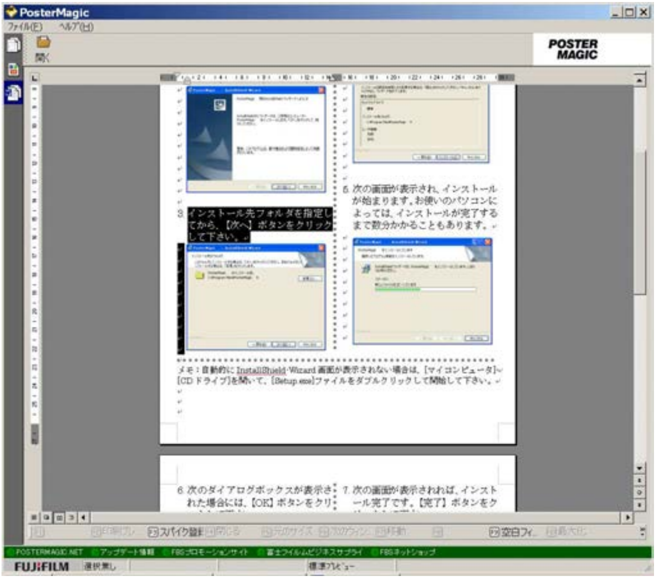
1. Windowsの設定を変更する方法
Windows XPの場合：エクスプローラを開き、[ツール]-[フォルダオプション]->[ファイルの種類]から、「doc」または「xls」の[詳細設定]をクリックし、「同じウィンドウで開く」のチェックをONに、「ダウンロード後に開く確認をする」をOFFにしてください。

Windows 2000の場合：XPの場合と同じですが、[ファイルの種類]ではなく[ファイルタイプ]という表記になっています。

2. Word/Excelが別ウィンドウで起動された場合の対処方法
上記の画面を開いたときにWord/Excelが起動された場合は、開いたファイル内で範囲選択後、右クリックからコピーを行い、上記の画面の①[選択取り込み]をクリックしてください。

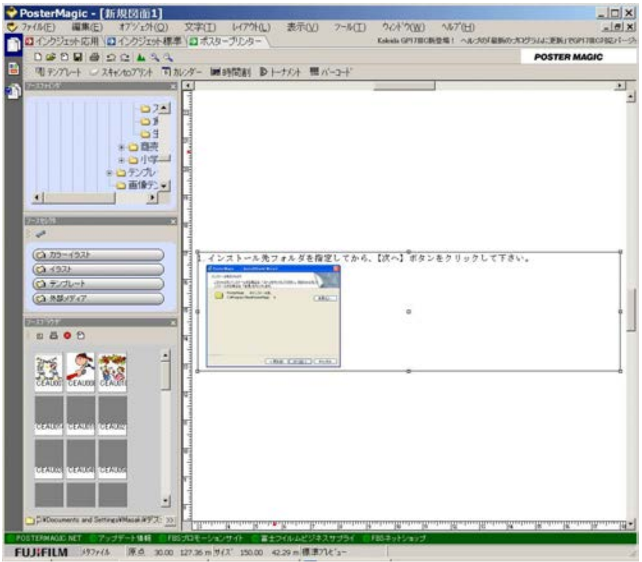
3　データをコピーする

コピーしたい範囲を選択し、右クリックメニューからコピーを選ぶと、選択した範囲がクリップボードにコピーされます。



4　データを貼り付ける

操作モードタブから編集モードを選択し、編集モードに戻ります。[編集]－[貼り付け]コマンドから前項でコピーしたものが貼り付けられます。



第 2 部

第 13 章
短冊プリント

POSTER PRINTER ST-1
POSTER PRINTER 5000WIDE
POSTER PRINTER 4000/4000WIDE
を使い、連続した短冊状のプリントを行う場合、この短冊プリント機能を使用すると便利です。





以下、POSTER PRINTER 5000WIDE でのプリントを例にとり、説明します。

1　短冊データを作成する

連番・連文字の作成などを行い、１短冊分のデータを作成します。
⇒「第 2－5 章 文字メニュー「連番・連文字」」参照



2　短冊プリント画面を開く

[ファイル]－[短冊プリント]、もしくは[短冊]アイコンをクリックします。

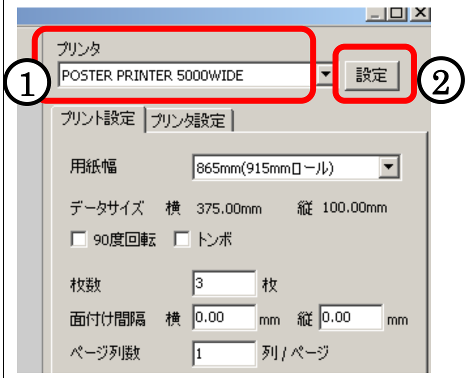


『短冊プリント』ウィンドウが開きます。



3　プリンタ・用紙の設定

使用するプリンタを選択します（①）。



【設定】ボタン（②）をクリックし、『プリンタ設定』ダイアログボックスを開きます。

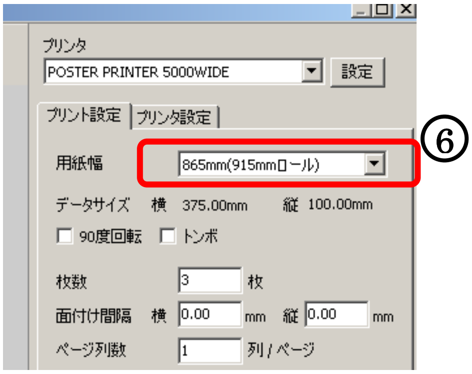


出力ポートの設定がされているかどうか（③）を確認します。
出力ポートの欄が空の場合、【ポート設定】ボタン（④）より出力ポートの設定を行います。
設定が終わりましたら、『プリンタ設定』ダイアログボックスを閉じます。

【オプション】ボタンの説明は「第 2-13 章 」

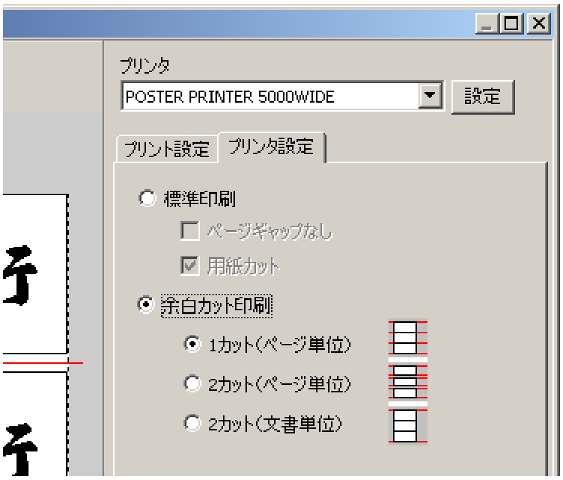
プリンタにセットされている用紙に合わせ、用紙幅（⑥）を選

択します。



4　プリンタ設定（カット設定など）

プリンタ特有の設定を行います。
（下記は POSTER PRINTER 5000WIDE・
POSTER PRINTER ST-1 の場合です）



標準印刷
個々の短冊の余白を十分に取るプリント方法です。

余白カット印刷
短冊間の余白を詰め、更に短冊間でカットを行うことができるプリント方法です。
ページギャップ無し

ページ間の余白を詰めます。

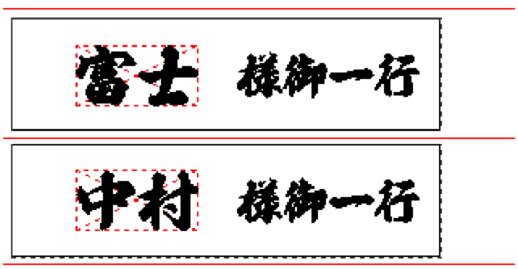
用紙カット
ページの終わりにカットを行います。

１カット（ページ単位）
複数ページの始めと終わり、中間にカットを行います。
カット位置は短冊データのやや外側になります。

２カット（ページ単位）
複数ページの始めと終わり、中間にカットを行います。
カット位置は短冊データのやや内側になります。

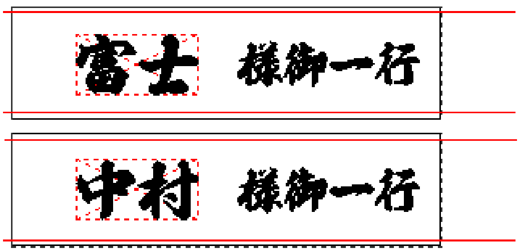
２カット（文書単位）
複数ページの始めと終わりにカットを行います。
カット位置は短冊データのやや内側になります。

＜カット位置のイメージ＞



■　**１カット（ページ単位）**

※　前後合わせて 6mm 程度の余白が短冊データに付加されます。



■　**２カット（ページ単位）**

※オートカット機能は POSTER PRINTER 5000WIDE　・POSTER PRINTER ST-1 の場合のみ、使用可能です。
※カット後の短冊の実際の幅は、プリンタの個体差やソフトウェアのオーバーラップの設定などにより前後する事があります。

5　プリント設定

短冊データの配置方法などの設定を行います。



90 度回転
データを 90 度回転してプリントします。
トンボ
トンボを付けてプリントします。
枚数
面付け枚数を入力します。
面付け間隔
データとデータの間隔を入力します。
ページ列数
何列を 1 ページに収めるかを入力します。

6　プリントを行う

[印刷]アイコンをクリックし、プリントを行います。



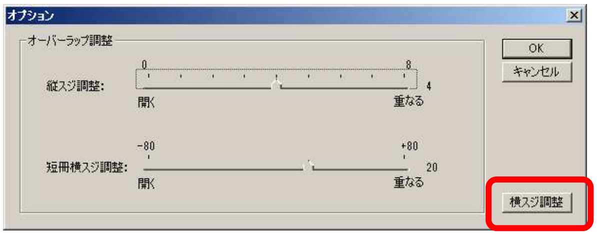
7 オプション

短冊印刷における横スジを調整するものです。
短冊機能をお使いになる前には、確認と調整をおすすめします。
（POSTER PRINTER ST-1 は粗調整・詳細調整パターン印字による調整が可能です）

POSTER PRINTER ST-1 の場合

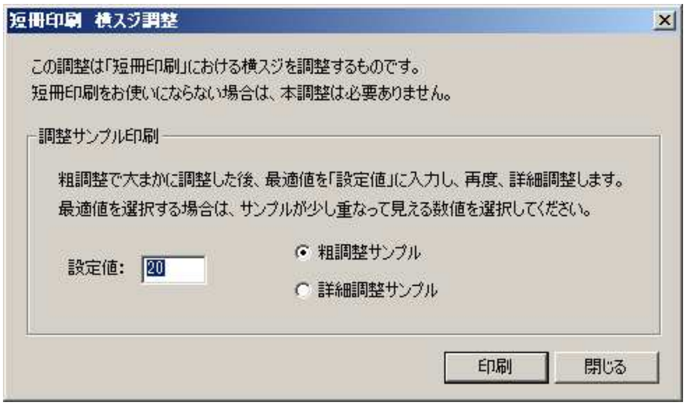


【オプション】をクリック



縦スジ調整
印刷時に縦スジが発生する場合に「重なる」方向に
スライダーを調整することで解消することができます。
短冊横スジ調整
短冊印刷時の横スジ発生時に「重なる」方向に
スライダーを調整することで解消することができます。
横スジ調整
短冊印刷時の調整の詳細画面を開きます。

【横スジ調整】をクリック



設定値
現在設定されている横スジ調整パラメータです。
粗調整サンプル
チェックを入れて【印刷】ボタンを押すと粗調整パターンが
印刷されます
詳細調整サンプル
チェックを入れて【印刷】ボタンを押すと詳細調整パターンが
印刷されます

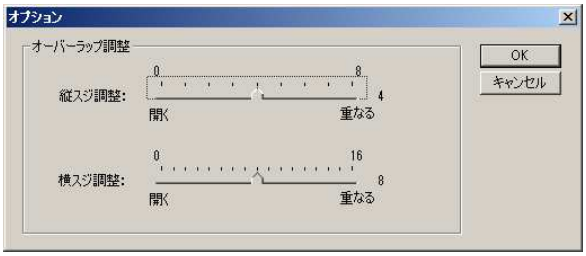
～横スジ調整の流れ～

1. 設定値を変更せずに「詳細調整サンプル」を印刷します。
（初期値 20 が入っていることを前提とします）
2. 「詳細調整サンプル」として、パラメータ「12」～「28」が印刷されます。
3. 印刷されたパターンから具合の良いパラメータを「設定値」に入力します。
4. この状態で短冊印刷を再度確認します。

POSTER PRINTER 5000WIDE/4000WIDE/4000 の場合



【オプション】をクリック



縦スジ調整

印刷時に縦スジが発生する場合に「重なる」方向に
スライダーを調整することで解消することができます。

短冊横スジ調整

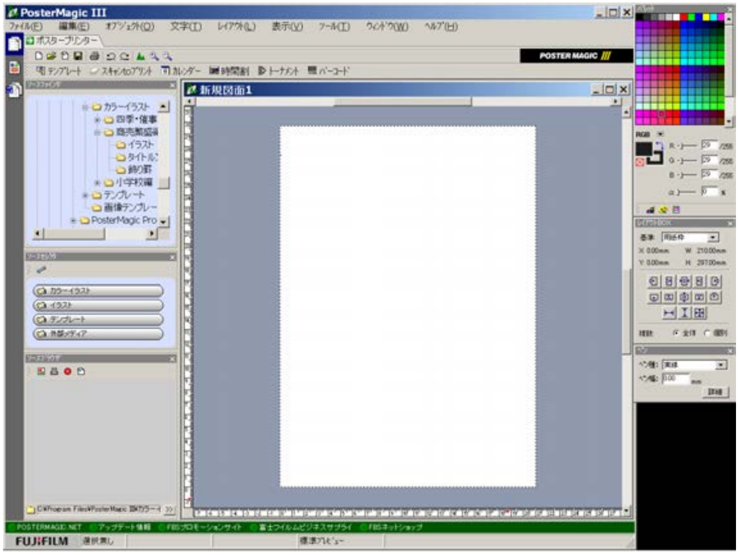
短冊印刷時の横スジ発生時に「重なる」方向に
スライダーを調整することで解消することができます。

第 3 部
チュートリアル

第 1 章
基本的な印刷手順

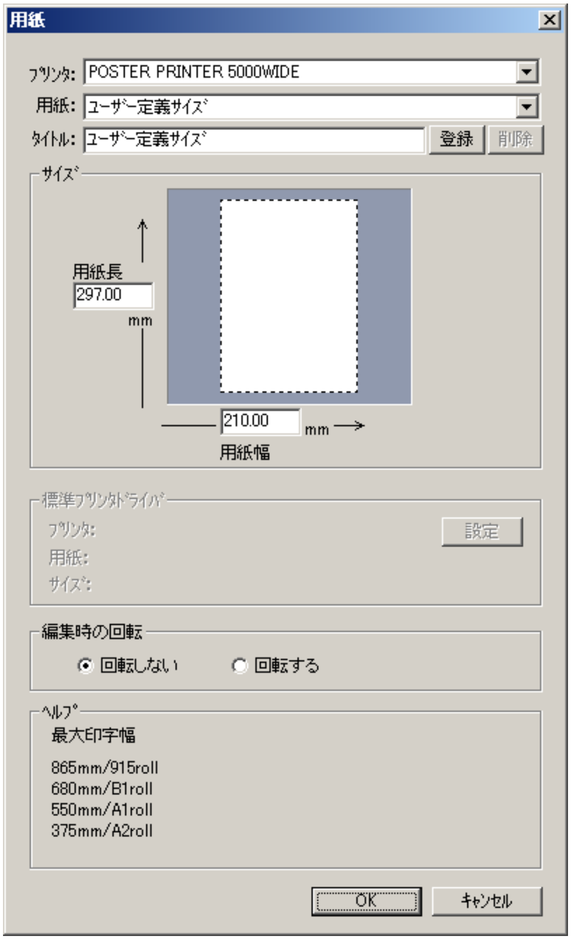
1 ソフトウェアの起動

PosterMagic を起動すると下図のような画面になります。



2　用紙サイズの設定

「ファイル」メニュー「用紙設定」を選択します。作成するポスターのサイズを設定します。
プリンタによって、最大印字可能幅が異なりますので、下部のヘルプを確認しながら、適切なサイズを選択、または設定してください。



用紙リストの一番下に「ユーザー定義サイズ」があり、最大３０メートルまでの任意のページサイズを作成して登録することができます。用紙幅と用紙長に任意の数字を入力し、タイトルに任意の名称を入力して「登録」をクリックすることで、新しい用紙として選択肢に追加することができます。

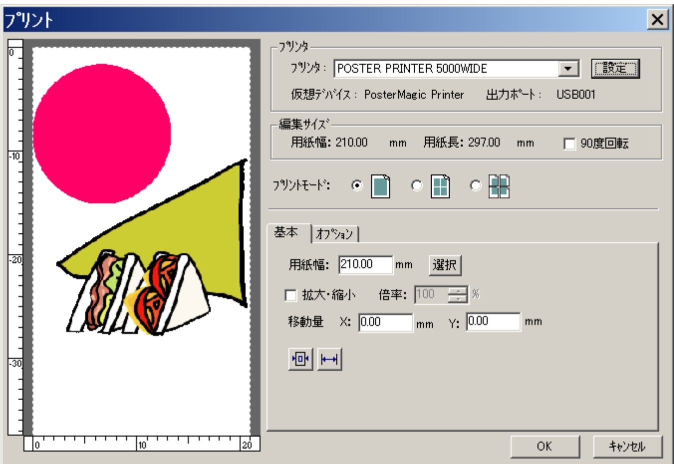
3 編集

バンドルしている多数のテンプレートやイラストデータや、デジタルカメラ画像などを取り込み、自由にポスターを作成編集してください。
さまざまな編集機能をご利用いただけます。各種ウィザードも充実しており、カレンダーの取り込みや、テンプレートの貼り付けなど簡単にご利用いただけます。

4 プリント

［ファイル］－［プリント］を選択し、印刷を実行します。
画面上でプリントイメージのプレビューを確認できます。出力機器のプルダウンメニューを開き、お使いのプリンタを選択してください。

【設定】ボタンをクリックして細かい設定を行います。詳細の内容はプリンタによりそれぞれ異なりますが、用紙プロファイルの選択や解像度の選択などを行います。



ポートスプーラで「設定」を行い、あらかじめポートを設定した PosterMagic Printer を仮想デバイスドライバとして選択する必要があります。

MEMO

この設定は、プリントの前に「環境設定」で指定することも可能です。また、一度この設定を行うと、以降変更するまで保持されますので同じプリンタに印刷する場合はこちらの設定を行う必要はありません。

HINT

仮想デバイスの設定方法は、「第 2―2 章 11. プリント」を参照して下さい。

■　仮想デバイスについて

PosterMagic をインストールしますと、アプリケーションソフトウェアの他に、「PosterMagic Printer」という名称のプリンタドライバがインストールされます。
※インストールの方法はパッケージに同梱されている「インストール・初期設定の手順」をご覧下さい。

このプリンタドライバ「PosterMagic Printer」を「仮想デバイス」として PosterMagic に設定することで、PosterMagic がプリンタにデータを送信する際に仮想的に参照するプリンタドライバとして機能します。
あらかじめ、プリンタドライバ「PosterMagic Printer」のポートの設定で LPT1(パラレル)や USB や LAN などを指定しておいて、PosterMagic から改めて出力先として指定しなおすことで、期待の出力ポートに印字データを送信することができます。

HINT

PosterMagic Printer がみつからない場合は、再度インストールを実行してください。

■　仮想デバイスプリンタドライバの確認方法

次の手順で仮想デバイスとなるプリンタドライバがインストールされているか確認して下さい。

・　Windows Vista の場合
　画面左下のスタートボタンから、「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「プリンタ」を開いて下さい。
・　Windows XP の場合
　「スタート」－「プリンタと FAX」を開いて下さい。
・　Windows 98/Me/2000 の場合
　「スタート」－「設定」「プリンタ」を開いて下さい。

お使いになっているプリンタのプリンタドライバの一覧が表示されますが、その中に「PosterMagic Printer」というアイコンも追加されています。



第 3 部
チュートリアル

第 2 章
デジタルカメラ画像の取込み

1　デジタルカメラ画像の取込み

PosterMagic ではデジタルカメラ画像を自由に取り込むことができます。

操作手順

1. デジタルカメラのメディアの接続
   デジタルカメラを直接、または、メディアリーダーにメディアを装填して、お使いのパソコンと接続してください。通常 Windows では、特定のドライブ名が割り当てられます。メディアの装填と同時にデジタルメディアメーカー固有のプログラムが起動することがありますが、キャンセルなどをして抜けてください。



2. ソースファインダで指定
ソースファインダは、お使いのパソコンのディレクトリ構造を階層的に表示しております。デジタルカメラのメディアが割り当てられたドライブを指定してください。メディアのドライブの中は特定のサブディレクトリがある場合がありますので、ソースファインダの中でデジタルカメラ画像が格納されているディレクトリを正しく指定してください。



3. ソースブラウザから取込み
ソースファインダでの指定にしたがい、自動的にソースブラウザに画像が一覧表示されます。アイコン で、表示サイズを「大きいサイズ」と「小さいサイズ」とを選択することができます。
アイコンで画像の一覧読込みを中止することができます。ディレクトリを間違えたときや、一覧読込みに時間がかかりすぎている場合などにキャンセルすることができます。



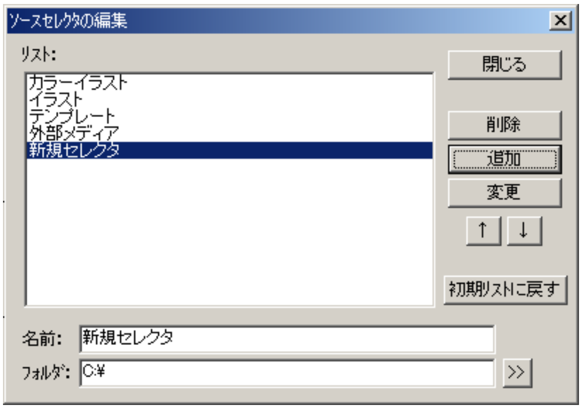
画像を取り込むには次の二つの方法があります。
①画像をマウスで選択してダブルクリックする。
②画像をマウスで選択してドラッグアンドドロップする。

4.　ソースセレクタへの登録

いつも同じデジタルカメラメディアを読み込む場合、ソースファインダで選択したディレクトリをソースセレクタでアイコンに登録することができます。

① ソースセレクタのスパナアイコンをクリックします。
②「追加」アイコンをクリックします。
③「名前」に好きな名称を入力します。
③フォルダの「>>」をクリックしてディレクトリを指定します。
④「ソースセレクタの編集」ウィンドウを閉じます。

上記の作業でソースセレクタに新しいアイコンを追加でき、次回から新規のアイコンをクリックするだけでデジタルカメラメディアを瞬時に選択できます。



■ソースブラウザで表示できる画像

デジタルカメラで撮影した JPEG 画像ファイル以外にもソースブラウザでは一覧表示と取り込み、インデックスプリントを行うことができます。
取り扱いできるファイルフォーマットは次のとおりです。
TIFF･JPEG･BMP･DGX ファイル（PosterMagic, PosterMagicII ファイル）・AI/EPS ファイル（＊）

（＊）AI ファイルについては、Adobe Illustrator ver8 互換のファイルフォーマットであり、一部読み込めないファイルもありますのでご注意ください。ソースブラウザには AI ファイルのプレビュー部分が表示されます。

第 3 部
チュートリアル

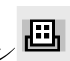
第 3 章
インデックス一覧プリント

1 インデックス一覧プリント

ソースブラウザに表示できる画像はすべてインデックスプリントすることができます。



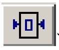
操作手順

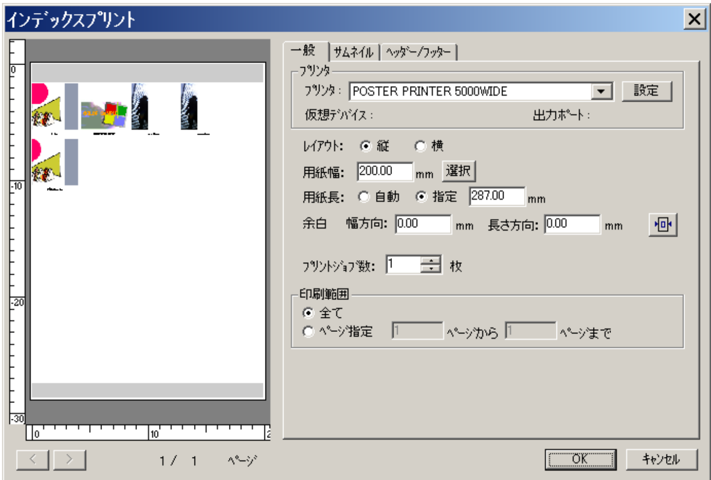
1. **ソースブラウザに画像を一覧表示**
   デジタルカメラ画像などの一覧をソースブラウザに表示させます。手順は、「第 2－1 章 7. ソースブラウザ」を参照してください。
2. **インデックスプリントの起動**
   アイコンを選択することでインデックスプリント機能が起動します。

※お使いのパソコンの性能によっては、インデックスプリントが起動するまでしばらく時間がかかることがあります。

3.　設定

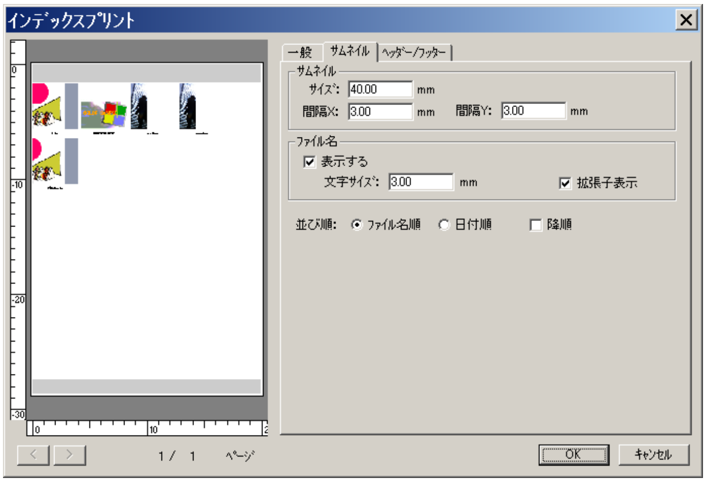
「一般」タブでは、プリンタと用紙のレイアウトを設定できます。

・プリンタ：出力するプリンタを選択します。
・設定：プリンタの設定を行います。
・レイアウト：用紙の向きを指定します。
・用紙幅：用紙幅を mm 単位で指定します。
・用紙長：用紙長を指定します。自動を選択すると、最低限必要な長さに設定されます。
・余白：紙の端から印刷領域までの余白を指定します。
・センタリング：画像を中央に配置します。
・プリンタジョブ数：印刷する枚数を指定します。
・印刷範囲：印刷するページを指定します。

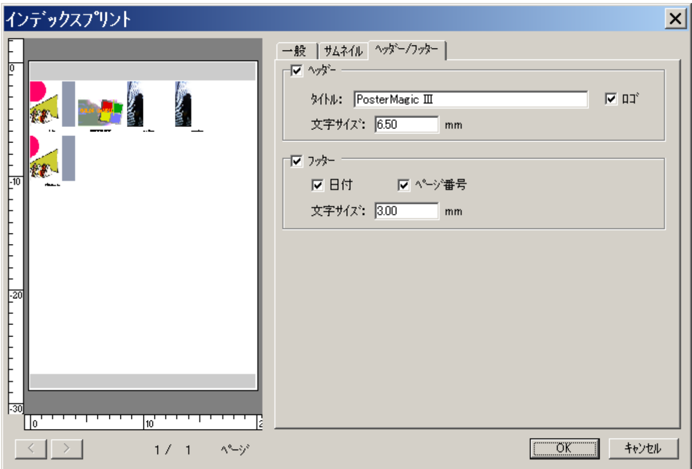


「サムネイル」タブでは、画像ひとつひとつのサイズや間隔の設定、各画像のファイル名の印刷設定をします。

・サムネイル：各画像の大きさと画像同士の間隔を指定します。
・ファイル名：各画像のファイル名の表示設定をします。
・並び順：画像の並び順を指定します。



「ヘッダー／フッター」タブでは、用紙の上部と下部に表示する文字を設定できます。



4.　プリント

【ＯＫ】ボタンをクリックすると、インデックスプリントが開始されます。

第 3 部
チュートリアル

第 4 章
付属のイラストや部品の取込み

1 付属のイラストや部品の取込み方法

PosterMagic には５００点以上のカラーイラスト部品と６００点以上のモノクロイラスト部品がバンドルされています。デジタルカメラ画像と同じようにソースブラウザを使って簡単にそれらを取り込むことができます。

操作手順

1. **ソースセレクタ「カラーイラスト」**
   ソースセレクタには「カラーイラスト」アイコンを最初から用意してありますので、クリックします。
2. **ソースファインダでディレクトリ変更**
   イラストデータは分野や種類によって格納先のディレクトリを細かく分けておりますので、ご希望のディレクトリが異なる場合、ソースファインダでディレクトリを変更してください。連動してソースブラウザに一覧表示されるはずです。



3.　ソースブラウザで選択取込み

ソースセレクタとソースファインダで指定された場所のイラストはソースブラウザに一覧表示されます。次のどちらかの方法でイラストや部品を取り込みます。

①画像をマウスで選択してダブルクリックする。
②画像をマウスで選択してドラッグアンドドロップする。

4.　ソースセレクタで設定変更

ソースセレクタの登録情報を変更するのは、ソースセレクタのスパナアイコンをクリックして、追加、変更などを行ってください。

第 3 部
チュートリアル

第 5 章
スキャナからの画像の取込み

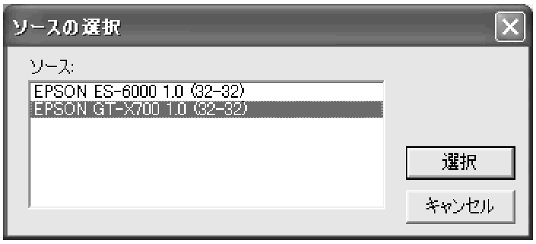
1　スキャナからの画像の取込み方法

PosterMagic はスキャナドライバの規格 TWAIN に対応していますので、各社スキャナメーカーの TWAIN ドライバが正しくインストールされていれば、スキャナ画像を取り込むことができます。

操作手順

1. スキャナメーカーの TWAIN ドライバインストール
   お使いの Windows にスキャナメーカーの TWAIN ドライバをインストールします。
   インストールの種類や方法についてはスキャナメーカーにご確認ください。

2. TWAIN の選択
   ［ファイル］－［TWAIN 選択］を実行します。現在利用可能な TWAIN ドライバのリストが表示されますので、ご利用になるスキャナの TWAIN ドライバを選択してください。



3. スキャン実行
   ［ファイル］－［TWAIN 入力］を実行します。スキャナメーカーの TWAIN ドライバが起動します。以降、スキャン解像度やトリミングなど全て機能はスキャナメーカーのドライバによって異なります。
   スキャンが終了したら TWAIN ドライバを終了します。



こちらの例は EPSON GT-X700 の TWAIN ドライバです。

4.　配置

TWAIN ドライバの終了と同時に PosterMagic ではスキャン画像を受け取ります。
編集ウィンドウのどこに配置するかをマウスで指定すれば、画像を貼り付けることができます。

第 3 部
チュートリアル

第 6 章
スキャナから直接拡大プリント

PosterMagic では、TWAIN を利用してお使いのスキャナとプリンタでより簡単に拡大プリントを行うことができる機能を用意しています。
［ツール］－［スキャン to プリント］ウィザードでは、手順がわかりやすく簡単に拡大プリントをお手伝いいたします。
以下の手順の前にスキャナメーカーの用意する TWAIN ドライバのインストールと、［ファイル］－［TWAIN 選択］をあらかじめ実行しておいてください。

1 「スキャン to プリント」ウィザードの起動

画面のウィザードバーの中から「スキャン to プリント」をクリックしてウィザードを起動してください。

2 用紙選択

お使いのプリンタドライバを使用した印刷のための用紙の準備をします。【設定】ボタンをクリックしてプリンタドライバの用紙設定を正しく行ってください。デフォルト値でよい場合はそのままで結構です。
画面左側の「スキャニング」アイコンをクリックしてください。



3 スキャニング

「取り込み」をクリックすると、設定が完了しているスキャナから画像を読み取ります。
ただし、このときの設定はデフォルト値、または直前に設定した値になっていますのでご注意ください。特に設定などを変更したりしたい場合は、「TWAIN インターフェースを利用する」チェックボックスに ON にしておいてください。



画面左側の「トリミング」アイコンをクリックしてください。

4 トリミング

もし、読み込み画像を部分的に拡大印字する場合は、マウスを使って範囲指定をして【切り取り】ボタンをクリックしてください。
範囲指定した部分を用紙サイズいっぱいに拡大する場合は、「用紙の幅にフィット」チェックボックスを ON にしておいてください。



画面左側の「プリント」アイコンをクリックしてください。

5 プリント

【印刷】ボタンをクリックするとプリントを開始します。



第 3 部
チュートリアル

第 7 章
POSTER PRINTER の設定と印刷

PosterMagic を POSTER PRINTER シリーズでご利用いただく際の設定や手順などをご紹介いたします。

1 プリンタドライバ「PosterMagic Printer」ポートの変更

次のフォルダを開き、プリンタドライバ「PosterMagic Printer」を開いて下さい。

・ Vista の場合
　画面左下のスタートボタンから、[コントロールパネル]-[ハードウェアとサウンド]-[プリンタ]

・ XP の場合
　[スタート-[プリンタと FAX]

・ 98/Me/2000 の場合
　[スタート]-[設定]-[プリンタ]

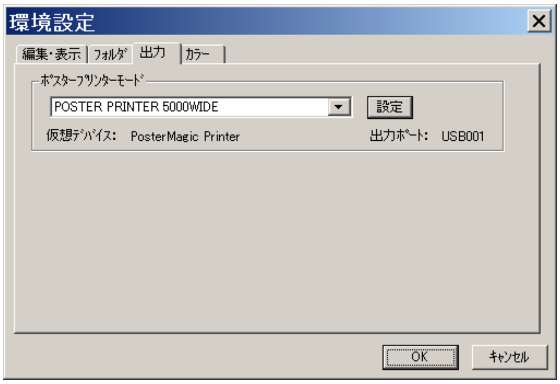
プロパティでポートの設定をします。デフォルトでは、LPT1 のパラレルプリンタポートになっていますので、ご使用中の POSTER PRINTER のポート(LPT1,USB001 等)に合わせてください。ご確認後、ウインドウを閉じて終了してください。

ただし、別のプリンタで使用した後など変更されている場合もありますので、改めて設定する方法をご紹介します。
ポートの選択肢がいくつかある中で、お使いのパソコンに適したポートを選択してください。ご確認後、ウィンドウを閉じて終了してください。



2　環境設定で仮想デバイスに「PosterMagic Printer」を設定

PosterMagic を起動して［ファイル］－［環境設定］を開きます。
「出力」タブを開きます。ポスタープリンターモードのプルダウンメニューからお使いの POSTER PRINTER を選択して、【設定】ボタンをクリックします。



「プリンタ設定」ウインドウが開きます。ポート・スプーラの【設定】ボタンをクリックします。「デバイスの選択」ウインドウが開きます。デバイスリストから「PosterMagic Printer」を選択してください。【OK】ボタンをクリックします。
環境設定の出力タブの表記で、仮想デバイスとして「PosterMagic Printer」、出力ポートとして LPT1,USB001 等ご使用中の POSTER PRINTER のポートが表記されます。【OK】ボタンをクリックして閉じます。

3　プリントダイアログで確認

プリントダイアログを開き、設定を確認してください。
出力機器にお使いの POSTER PRINTER を選択し、仮想デバイスが「PosterMagic Printer」、出力ポートが LPT1,USB001 等ご使用中の POSTER PRINTER のポートになっていることを確認してください。
もし、設定が異なる場合は、【設定】ボタンをクリックして、ポートスプーラの項目で、出力機器として「PosterMagic Printer」を選択してください。



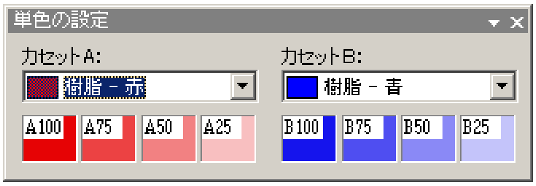
第 3 部
チュートリアル

第８章 POSTER　PRINTER　PRO36 の設定と印刷

POSTER PRINTER PRO36 はカセット A とカセット B に単色リボンを装填して印字する特殊な熱転写の大型プリンタです。PosterMagic では、POSTER PRINTER PRO36 専用の機能を特別に設けておりますので、ご紹介します。

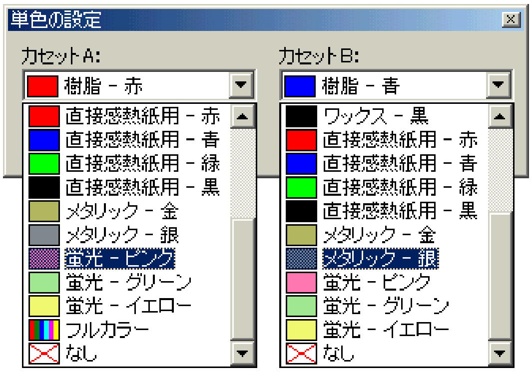
1 「単色の設定」リボン種類の選択

「単色の設定」ウィンドウで、使用するリボンの種類を選択してください。
リボン部分をクリックすることで、プルダウンメニューが開きますので、その中から選択してください。



左がカセットA、右がカセットBになります。
カセットAとカセットBに同じ種類のリボンを選択することはできません。

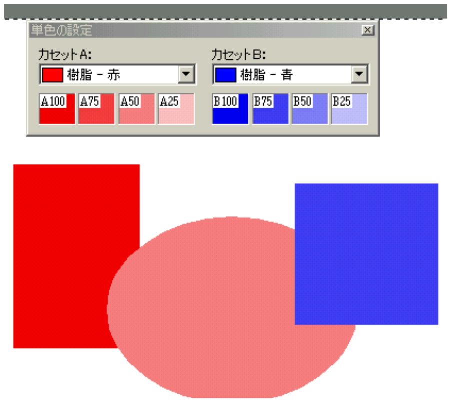
フルカラーリボンは必ずカセットAに入ります。カセットBにはフルカラーリボンの選択肢はありません。



2　単色リボンの色付け指定方法

「単色の設定」ウィンドウでリボン種類を選択すると、リボン種表示の下部に 4 つのパレットが表示されます。これは、左から 100%ベタ、75%、50%、25%のリボン色濃度のパレットとなります。

編集ウィンドウ内で、特定のオブジェクトを選択し、「単色の設定」ウィンドウ内のパレットをクリックすることで、オブジェクトの色づけが可能となります。PRO36 のリボンでの印字を行うためには、必ず、正しいリボンを選択し、そのパレットで色づけを行うようにしてください。



3　単色リボンプレビュー

単色リボンで正しく印字するためには、［ウィンドウ］－［単色の設定］で指定したリボンのパレット色でオブジェクトが正しく色づけされている必要があります。
［表示］－［単色リボンプレビュー］は印字をする前に編集ウィンドウで、リボン色が正しく指定されているかを確認するための機能です。



［表示］－［単色リボンプレビュー］を選択することで、編集ウィンドウが「単色リボンプレビュー」に切り替わり、編集中のオブジェクトのうち、単色リボン色で色づけされたオブジェクトのみが表示されます。

注意

単色リボンプレビューにしたときに表示されないオブジェクトは、単色リボンでは印字されませんのでご注意ください。

フルカラーで印字されるものと、直接感熱紙などの紙の発色されるものについては、単色リボンプレビューでは表示されませんのでご注意ください。

4　POSTER PRINTER PRO36 へのプリント

『プリント』ダイアログボックスで出力機器に POSTER PRINTER PRO36 を選択してください。
通常、編集するときに「単色の設定」フローティングウィンドウで単色リボンの設定をすでに行っているので、そのまま【OK】ボタンをクリックすれば、正しく印字することができます。

第 4 部　トラブルシューティング

PosterMagic を POSTER PRINTER シリーズでご利用いただく際の設定や手順などをご紹介いたします。

■PosterMagic が起動できない
環境設定クリア アプリケーションプログラムが起動できなくなった原因はさまざま考えられますが、PosterMagic では、プログラムの設定ファイルを消去してクリアする別プログラムを用意しています。Windows で「スタート」メニューから「PosterMagic」の「環境設定クリア」を選択してください。こちらを実行しますと、PosterMagic の設定ファイルを初期化します。以降、PosterMagic は起動できます。 環境設定クリアを実行しても効果がない場合は、PosterMagic の再インストールを実行してください。その際に、一度アンインストールした後に、ProgramFiles の中のフォルダを手動で全削除することをお勧めします。
■印刷を実行してもプリンタが動かない
出力先ポートが正しくない PosterMagic がデータを送信しているポートと、実際にプリンタが接続されているポートとが異なっている可能性があります。プリントダイアログの仮想デバイスと、出力ポートをご確認ください。基本的には、仮想デバイスは、「Poster Magic Printer」、出力ポートは、お使いの LPT1(パラレル)、USB、LAN(IP アドレスなど)が表記されているはずです。 プリンタドライバ「PosterMagicPrinter」の出力ポートが異なる場合、プロパティから正しいポートに変更してください。 また、「ファイル」メニュー「環境設定」、または、プリントダイアログの「設定」から仮想デバイスの指定をしなおす必要があります。
パラレルポートが ECP になっている POSTER PRINTER シリーズへの印字の場合、お使いのパソコンのパラレルポートのモードが ECP になっていると、印字できない、用紙送りだけしてしまう、印字の途中が抜けてしまう、などの不具合が発生することがあります。 このとき、お使いのパソコンの BIOS 設定を変更して ECP モードから Normal（または SPP, 出力のみ、双方向など、名称はさまざま）にすることで不具合を回避できることがあります。BIOS 設定の方法などはパソコンのメーカーによってまったく異なりますので、詳細はお使いのパソコンの取扱説明書などをご参照ください。

■画像の端が欠けてしまう
作成したイメージが大きすぎる PosterMagic では、用紙サイズを自由に大きくも小さくも作成することが可能です。様々なプリンタへの対応をしているので、プリンタによって印字幅の制限も設けておりません。その結果、プリンタの最大印字幅より大きい画像を作成して印字してもエラーは発生しません。 「ファイル」メニューの「用紙設定」で用紙サイズをご確認ください。目安として、用紙設定のヘルプに各プリンタの最大印字幅を明記しておりますので、参考にしてください。 特に POSTER PRINTER シリーズは、A1 や A2 といった規格サイズと印字可能サイズとが著しく異なる場合がありますのでご注意ください。
■使用できないフォントがある
OPEN TYPE フォント未対応 PosterMagic は OPEN TYPE のフォント形式には対応ができておりません。True Type フォントをご利用ください。
■画質が悪い
用紙プロファイルが間違っている 用紙プロファイルが正しく選択されていないと期待通りの品質を得ることができません。プリントダイアログで出力機器から「設定」をクリックして正しい用紙プロファイルを選択してください。
印字解像度が間違っている 印字する解像度が期待と異なっている可能性があります。プリントダイアログで出力機器から「設定」をクリックして正しい印字解像度を選択してプリントし直してください。
■プリンタリストにお使いのプリンタがない
プリンタリストに問題がある PosterMagic では、お使いのプリンタだけを表示させるカスタマイズ機能があります。何らかの原因でプリンタリストが期待と異なってしまうことが考えられます。 まず、「ツール」の「プリンタツール」→「スキャン」を実行してください。プリンタリストが初期化されますので、これで、工場出荷値に戻ります。 また、さらにカスタマイズしたい場合は、「ツール」の「プリンタツール」→「編集」を実行してください。こちらでプリンタリストを自由に編集することができます。
■Illustrator EPS・AI ファイルが正しく読み込めない
・イラストレータ Ver8 形式で保存してください。それでも正しく読み込めない場合は、Ver7 形式で保存してください。 ・文字はアウトライン化して保存してください。 ・リンクの画像がある場合、保存する際に「配置した画像を含む」を選び、保存するファイルに埋め込んでください（TIFF は無圧縮にしてください）。 ・グラデーションメッシュを使用している場合は、イラストレータ Ver7 形式で保存してください。

《お問い合わせ》

■ 専用のホームページ

http://www.postermagic.net

製品最新情報、サポート案内、FAQ など有効な情報を掲載しております。

■ お電話窓口

月曜～金曜　10:00～12:00、13:00～17:00、土日祝日、夏期休暇、年末年始を除く

カスタマーサポートセンター 050(3786)1322